

ネットワーク情報学部

学修ガイドブック

2023

SCHOOL of NETWORK and INFORMATION

専修大学

専修大学21世紀ビジョン
「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性(Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力。

専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬 永胤、田尻 稻次郎、目賀田 種太郎、駒井 重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するための本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあつて、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」を21世紀のビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

ネットワーク情報学部
学修ガイドブック

令和5年度

2023

SCHOOL of NETWORK and INFORMATION

専修大学

ネットワーク情報学部 学修ガイドブック 2023

学位授与の方針

ネットワーク情報学部は、情報学およびそれに関わる社会・人間・環境・技術・数理の包括的な教育研究を通じて、地球的視野に基づき他者と協働し、科学的かつ創造的に問題解決できる能力を有する人材を養成することを目的とします。次に掲げる目標を達成した学生に学士(情報学)の学位を授与します。

- (1) 情報学に関する知識及びそれを扱う原理・機構・人間、社会への応用について体系的に理解し、多様で幅広い一般的知識を援用しながら、それらについて説明することができる。(知識・理解)
- (2) 人工言語(プログラミング・数学など)、自然言語(日本語・外国語)を用いてコミュニケーションを行うスキル、データを扱うスキル、情報ツールを利用するスキル、デザイン創造活動を遂行するスキルを身に付け、活用することができる。(汎用的技能)
- (3) 社会における様々な問題に対して、情報学の観点から自分の持つ知識や技能を統合し、論理的思考プロセスと創造的思考プロセス(調査・分析・仮説生成・創造・表現・説明・評価・改善)を実行し問題解決することができる。(知識体系に基づく思考と知の創出)
- (4) 社会における多様な価値観、人間と地球環境の関係性などによる問題の多面性を考慮した上で、社会的責任と倫理感を持ちつつ他者と協働し、よりよく生きるためのデザインとして取り組むことができる。また、それらに関する知識・技能を自ら学習することができる。(態度・志向性)

上記(1)~(4)の目標を達成するように、カリキュラムポリシーを基に編成された教育課程が、本ガイドブックに詳細に記載されています。

Contents [目次]

先輩からのメッセージ	1
先輩からのメッセージ(続き)	87

大学での学びを理解する

大学の授業とは	3
授業の点数はこうつく	5
4年間の学びのステップ	7
自分の時間割表を作る・オンライン授業による修得単位の上限について	9
授業時間外の学修	11

全学共通の学びについて知る

開設される科目の構成と学士課程	13
転換・導入科目	14
人文科学基礎科目	15
社会科学基礎科目	16
自然科学系科目	17
融合領域科目	18
外国語科目・英語	19
外国語科目(英語以外の外国語)	21
保健体育系科目	22

学部専門の学びについて知る

専門科目の4年間の学び	23
2つのコース	25
Sコース	27
Dコース	28
情報学の基礎を作る1年次	29
基礎演習、応用演習(2年次選択必修演習科目)	31
プロジェクト(3年次必修科目)	33
高度演習/フィールド演習	35
実習・演習科目(選択)	36
専門科目(選択科目)	37
目的指向のプログラム制	39
ネットワークシステムプログラム	41
データサイエンスプログラム	43
コンテンツデザインプログラム	45
メディアコミュニケーションプログラム	47
フィジカルコンピューティングプログラム	49
ITビジネスプログラム	51
情報数理副プログラム/Basic ICT 副プログラム	53
情報英語副プログラム	54
数理・データサイエンス・AI科目履修の勧め	55
数学科目の履修の勧め	56
英語科目の履修の勧め	57
経済・経営科目の履修の勧め	58
コミュニケーションの基礎力をつける	59
キャリア教育について	60

その他の学びについて知る

学部間相互履修制度	61
自由選択修得要件単位	62
教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程	63
外国人留学生の特例履修科目	64
コンピュータ・ネットワーク設備の利用について	65
グループワークや作業のための部屋の利用について	67
Fablab IKUTAの紹介	69

資料	70
----	----

入学おめでとう! ネットワーク情報学部生の皆さんに、伝えたいこと

先輩からのメッセージ

「得意」を見つける1年次

私がネットワーク情報学部を選んだ理由は、ただ「パソコンが好き」という、それだけのことでした。入学直後は、自分は何が「得意」で、2年次にどのプログラムを選ぼうか、全く考えられていない状態でした。

それでも、1年次のプログラミング演習で、初体験であったプログラミングが「得意」なのかもしれない、と気づくことができ、2年次に自信を持ってネットワークシステムプログラムを選択できました。

1年次の必修科目では、幅広い分野の基礎知識を学習することができます。入学したばかりの皆さんもまずは色々な分野に触れて、皆さん自身の「得意」を見つけてみてください。

(2019年卒業)

可能性が広がる場所

ネットワーク情報学部は、ITの分野に興味を持った人たちがたくさん集まる場所です。授業を通して、今まで学ぶ機会がなかったことに触れ、関わりを持つことがなかった人たちとつながりを持つことができます。4年という時間を使って、自分のやりたいことや好きなことを見つけられる場所でもあります。最初は何も分からなくても友達や先輩、先生が支えてくれる環境があります。この大学生活という貴重な時間で培った経験は、社会に出てからの自分の可能性を広げてくれるはずです。私自身も大学で学んだことを活かして仕事をしています。ITは様々な業界で役に立つ知識です。かけがえのない4年間という時間をこの場所で過ごしてみてください。

(2019年卒業)

夢中になれるものに出会う4年間

ネットワーク情報学部の学びの魅力は、自由に好きなことを楽しんで出来ることだと思います。私は、この学部でメディアに関する学びに触れ、ものづくりをする楽しさを覚えました。そして、学んだことを活かして大学院まで進学し、現在もメディアに関する仕事をしています。私にとって、ネットワーク情報学部で学んだ4年間が後の進路を大きく変えました。

皆さんにも、夢中になれるものに出会う機会がきっとこの4年間で訪れると思います。そのときは、難しく考えず楽しんでネットワーク情報学部の学びと向き合ってください。そうすれば、きっと良い未来が待っていると思います。好きなことを見つけて、夢中になれる4年間で過ごしてください。

(2016年卒業)

自分を知ること やりたいことを知る

大学生活では多くのことを学ぶチャンスがあります。この学部では特に顕著で皆さんは戸惑うこともあるでしょう。そういったときに一度冷静になり、自分は何がしたいのか、何が得意なのかを考えてみてください。大学は言ってしまうと自分との戦い、最低限のことだけやれば卒業もできます。しかし、裏を返せばやりたいことをやるチャンスでもあります。そして自分のやりたいこと、やるべきことを一生懸命にやってみてください。そうすれば友人や教員、先輩たちはあなたのことを応援してくれるはずです。

長いようで短い大学生活、有意義に過ごせるように是非自分について考えてみてください。

(2018年卒業)

自由に経験を積むこと

私はIT技術以外にも、チームをまとめる力を身につけたいと考えています。そのために1年次で、専修リーダーシップ開発プログラムという課外活動に挑戦しました。その活動では、チームメンバー同士の衝突や分裂、メンバーの離脱を経験しました。他にも企業の方と企画の立案や運営などを経験しながら、自分なりのリーダーシップの形、他者理解、コミュニケーション力を深めました。この経験により、学部のグループワークでまとめ役になる自信ができました。また、3年次のプロジェクトでリーダーをやりたいと考えるようになりました。

大学生活は、自分が「どう生きたいか」振り返り、今ある環境を利用し、自由に行動できる重要な時期だと思います。自由にいろいろな経験を積んでほしいです。

(2019年入学)

いつか役立つことを信じて、 いろんなことを吸収しよう

私は今、UXデザイナー/ディレクターとして働いていますが、ネットワーク情報学部で4年間学んだことが本当に役に立っていると日々感じています。もう一度学び直したい思いもあるくらいです。

大学時代は、「この講義は本当に将来役に立つのかな?」そんなことを思うこともありましたが、社会人になった今、「あの時の講義の内容だ!」と思い出し、日々仕事に生かすことができている。「もっとちゃんと勉強しておけば良かった…」そんなことを思う機会も多く、実家に帰るとプリントやノートを見返しています。

会社の仲間に話すとうらやましがられる、そんな講義を受けることができます。4年間という短い大学生活、さまざまなことを吸収してください。

(2016年卒業)

苦手が好きになる、 新しい自分を見つける場所

私はプログラミングの勉強をしたいと思いこの大学に入りました。ネットワーク情報学部の学生は高校から情報系の勉強をしている人が多いので、1年生のプログラミングの授業では引目を感じ、プログラミングに苦手意識を持つようになっていました。しかし様々な講義を受け勉強を頑張ったことで、4年生になる今はプログラミングを仕事にしたいと思っています。

大学は様々なことにチャレンジできる場所です。苦手だと思っていることが実は好きだったり、意外にも得意だったりするかもしれません。この学部はデザインから統計、プログラミングまで、幅広くかつ深く学ぶことができます。ぜひ、この4年間で新しい自分を見つけてみてください。

(2021年卒業)

Message

87ページに続きがあります。

大学の授業とは

大学では、様々な学問分野の授業が、色々な大きさの教室で行われています。高等学校までの授業の様子とはだいぶ違うと感じられるでしょう。ここでは、どのように授業が進められているのか、例をあげて紹介しましょう。

大きな教室での授業

300人教室
オンライン

全学部生が履修できる科目は大きな教室や、オンラインで行われることがあります。高校までと違って学部や学年の異なる学生と一緒に受講することもあります。教員はその科目を深く研究していますが、教え方は様々です。講義の構成を考えながらノートを取ったり、板書されていない話でもポイントをつかんでメモしたり、紹介された本や不明な用語を後で調べたり、自分から学ぶ姿勢が大切です。(ノートだけ他人から借りて

も1/10も理解できません。)板書だけ写してもノートとは言えないのです。高校までと違って色々な考え方の紹介がありますから、理解するには話の構成や論点のレベルを見極めることも大切です。どの科目も、あなたにとってその学問に接する最初で最後の機会かも知れません。黒板が見やすい前の方に座って積極的に授業に参加しましょう。毎回何かしら未知の発見ができるでしょう。

小さな教室で行われる数理系の授業

100人教室

線形代数や基礎解析などの数理系の授業は、基本的には高校の数学の授業と同じように進められます。授業では先生が、大切な用語の定義やその使い方などを、黒板に書きながら説明します。それを聞き逃し写し忘れると、その先を理解するのが難しくなるので、授業中はしっかりと集中することが大切です。さらに毎回出される課題を十分時間をかけて自分の力で解くことを心が

けましょう。わからないところはそのままにせず、先生に質問したり友達と相談することが必要ですが、友達の答えを鵜呑みにするようなことは避けましょう。自分で理解していないと授業内テストなどで良い点が取れず、翌年も履修することになってしまいます。数理系の勉強は山登りのように、一步一步確実に進むことを習慣にしましょう。

演習教室で行われるリテラシー演習

30人教室

リテラシー演習はゼミ室を使って行われます。机は可動式で、通常は四辺形に囲む形で、全員が対面して座ります。お互いの顔が見え、お互いの声が聞こえます。講義形式の授業のように、先生が一方的に話すのではなく、先生と学生、学生同士がお互いに協力しあって授業を進めます。時には、数名ずつに分かれて話し合いや作業をしたり、

時には、ひとりが発表して皆がそれに対して質疑応答する、という場合もあります。先生も学生のよいところや悪いところがよく見えますし、学生同士も見習うべきところや注意すべきところがよくわかります。授業に積極的に参加し、先生と一緒に全員で授業を作っていく、という姿勢が大事になります。

パソコンを開いて行われる演習授業

ネットワーク情報学部の授業は、パソコンを目の前にして行われると想像するかもしれませんが、そのような授業は週に1,2回の演習科目(1年次は、情報表現演習、情報分析演習、入門プログラミング)だけです。最初のうちは、先生が一つひとつの操作を示してくれるので、パソコン初心者の新入生でも安心です。回が進んで慣れてくると、最

初に何をやるのか説明があるだけで、実際の操作は自分で考えて行わなければなりません。一度習ったソフトウェアの操作は、自分で授業時間外にも積極的に使って慣れるようにしましょう。不安なときには、慣れている友人や先輩のアシスタント学生が操作を助けてくれるのでヘルプを求めましょう。

シラバス 講義要項 の読み方

履修する講義のシラバス(講義要項)は、最初の授業の前に必ず読むようにしましょう。シラバスは、Webで見ることができます。専修大学のページから、「在学生ツール」を選ぶと、シラバスへのリンクがあります。

専修大学 Web 講義要項 (シラバス)

講義要項詳細	
開講年度	2023
科目名	情報分析基礎
職名/担当教員	ネットワーク情報学部 教授 ○○ ○○
期間/曜日/時限	後期 水曜日 3時限
開講区分/校舎	一部生田/生田
配 当	ネット学科1
単 位	2単位
コースコード	ABC123
授業形態	講義(対面)
卒業認定・学位授与の方針との関連	知識・理解/汎用的技能

配当は履修できる学科を意味しています。ネット学科があるとネットワーク情報学部の学生が履修できます。数字はどの学年が履修できるか示しています。

科目ナンバリングに基づくコードです。科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。詳しくは71~72ページの資料に説明があります。

<到達目標>には何ができるようになるのか、<講義概要>には講義の狙い、扱う内容などが示されます。

各回の講義で扱う内容が示されます。

必要な予習・復習・課題について内容が示されます。

教科書や参考書が示されます。購入方法については、通常、最初の授業のときに先生から指示があります。

(1) 成績評価をどのような項目で行うか、
(2) 成績の配分および単位修得のための基準が示されます。5ページに詳しい事例を示しています。

授業時間外に質問があるときに、どのように先生とコンタクトをしたら良いのかは、通常、最初の授業のときに先生から指示があります。

講義内容	
<到達目標>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な統計学で使われる概念の意味と意義が理解できる。 簡単な確率・統計的計算ができる。 日常生活の中で統計学の知識を活用できる。
<講義概要>	自然科学・社会科学・人文科学といった分野にかかわらず、統計学の基礎的な知識は、現在の大学生の素養の1つとして必要とされています。本講義では、情報の収集・整理・分析・蓄積・伝達といった情報処理過程の中の整理・分析部分を基礎的な統計学を使って行います。
<講義計画>	(1) イントロダクション — 統計的調査と情報分析 (2) データの特徴 — データのタイプ・偏りと精度 (3) データの整理(1変量) — 度数分布表・ヒストグラムなど (4) 高校数学の復習1 — 関数・数列など (5) 要約統計量1 — 分布の形状と位置に関する代表値 (6) 要約統計量2 — ばらつきに関する代表値・標準化など (7) データの整理(2変量) — 分割表・散布図など (8) 要約統計量3 — 共分散・相関係数・疑似相関など (9) 関係の解析 — 最小2乗法と回帰直線の基礎 (10) 高校数学の復習2 — 組み合わせ・確率など (11) 確率変数と期待値 (12) 離散型分布 — 2項分布・ポアソン分布など (13) 連続型分布1 — 正規分布・指数分布など (14) 連続型分布2 — 正規分布の応用 (15) まとめとその他の話題 — 乱数・推測統計学の概要など (授業の内容とその進行順序は、事情により変更する場合があります。)
<授業時間外の予習・復習・課題>	
<課題等に対するフィードバック方法>	
<授業で実施するアクティブ・ラーニング>	
教科書・参考書	テキスト：木下宗七、「入門統計学 新版」、有斐閣。 参考書・参考資料等：関連科目のテキストなど(授業で適宜示します)。
成績評価方法・基準	方法：平常点で評価する(授業内課題50%+レポート50%)。 基準：概念の理解度と計算の正確性の程度による。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 履修に際しての留意事項…テキストでの予習とテキスト、プリントでの復習を勧めます。 他の授業科目との関連…数理的な側面については「数理リテラシー」、情報処理的な側面については「情報分析演習」や「基礎演習S」が関連の深い科目です。本科目は、2年次の「データ解析1・2」の基礎となる科目です。
担当教員へのアクセス	研究室：○号館○階 ○○○○/メールアドレス：○○○○@isc.senshu-u.ac.jp
その他	

授業の点数はこうつく

授業の評価について

皆さんが履修した授業では、担当の先生が、皆さんの成績を100点満点で以下の表のように評価します。60点以上の点数の場合に、その科目の単位を修得することができます。皆さんが卒業するためには、単位を修得していかなければなりませんから、60点以上の点数を最低限目指さなければなりません。より高い成績を得ることを目標にすべきでしょう。様々な奨学金や大学院の推薦を希望する場合にはより高い成績が必要となりますし、就職活動でも成績表の提出を求められることがあります。前期科目の成績は9月に、後期科目及び通年科目の成績は3月にWeb履修システムにてお知らせします。

履修登録をしたものの、継続する意思がない授業科目に対しては、履修中止申請期間中に履修中止を申請することができます。これにより、GPAが下がらないようにすることができます。

点数	評価	GP*
100~90	S	4.0
89~85	A+	3.5
84~80	A	3.0
79~75	B+	2.5
74~70	B	2.0
69~65	C+	1.5
64~60	C	1.0
59~ 0	F	0.0

*GP=グレードポイント

GPAについて

GPA (Grade Point Average) とは、それまでに履修した科目の成績評価のグレードポイントについて、1単位あたりの平均値を算出したものです。GPA制度は、国内外の大

学で一般的な成績評価方法として使用されています。

GPAの算出方法は次のようになります。

$$GPA = \frac{(\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目単位数の総和}}$$

専修大学の場合、GPを8段階に区分しているため、分子の(履修科目のGP×当該科目の単位数)の総和は、次のようになります。(Sの修得単位数×4.0)+(A+の修得単位数×3.5)+(Aの修得単位数×3.0)+(B+の修得単位数×2.5)+(Bの修得単位数×2.0)+(C+の修得単位数×1.5)+(Cの修得単位数×1.0)+(Fの修得単位数×0.0)

算出方法からわかるように、全科目Sなら4.0、全科目Fなら0.0となりますので、実際の値は4から0の範囲になります。平均し

てB以上の成績をとっている人は、GPAが2.0以上、単位はとれていてもCが多い人は1点台になります。

このことから、GPAは、どれだけ単位がとれたか、ではなく、どれだけよい成績をおさめたか、がわかる指標になっています。学修の量よりも質がわかるもの、と言えるでしょう。

学生の中には、卒業単位数さえとれば卒業できる、という考えで、ぎりぎりの成績で単位をとる人がいますが、それでは学びの質が最低レベルとなり、評価は低くなります。

授業での評価の仕組み

皆さんの成績をどのような方法で評価するのは、担当の先生が、授業内容の性格によって決めています。シラバスには、評価方法と基準が示されます。その補足は、第1回目の授業でなされるのが普通です。シラバスを読み、第1回目の授業に出て評価方法と

基準を知るようにしましょう。もし分からないことがある場合には、先生に直接たずねてみてください。ここでは、代表的な評価方法を述べていきます。通常は、これらの評価方法を組み合わせて成績をつけていきます。

試験期間に行われる定期試験・定期試験規程準用試験

定期試験・定期試験規程準用試験とは、学事暦で定めた定期試験期間に行われる筆記試験です。前期試験、後期試験と表記されます。1回しか受験できない試験ですので、きちんと準備して受験するようにしましょう。「専修大学定期試験規程」(79ページ)というルールにしたがって厳密に実施されます。この規程では、様々な不正行為が定められて

おり、もし不正行為をした場合には厳正な処分があります。また、欠席して追試験を受けられる場合には、規程に定められた理由と証明書が必要となります。単なる寝坊では追試験を受験できないので注意しましょう。これらの諸注意は、定期試験のスケジュールが発表されるときに、改めてありますのできちんと確認しましょう。

授業時間内に行われるテスト

定期試験以外の授業時間に行われるテストです。定期試験とは、大学のルール上区別されますが、皆さんにとっては同じ種類の試験だと考えて、真剣に取り組む必要があります。

担当の先生から事前の授業で、テスト受験上のルールが説明されますが、特に説明がない場合には、「定期試験規程」と同様のルールで行われると考えてください。

授業時間内の発言や提出物

先生が皆さんに授業中に求めた発言や提出物を評価対象とすることがあります。シラバスには「平常点」として記載されます。俗に「出席点」と言われることもありますが、ただ

出席をしていることに点数をつけることはありません。皆さんが授業に積極的に参加する姿勢を示すことが必要で、それが発言であったり、何かを書いて提出することになります。

授業時間外に作成するレポート

時間をかけて皆さんに考えてきて欲しい場合、あるいは図書館やインターネット、コンピュータなどを活用して皆さんの見解をまとめて欲しい場合に、先生が皆さんにレポートの提出を求めます。指定された授業時間に先生に提出したり、あるいは指定日時までに

オンラインで提出する必要があります。ネットワーク情報学部の専門科目の多くでは、複数のレポートを求められます。多くの時間が必要になることを考慮に入れながら、学生生活を計画立てていく必要があります。

授業時間外に成果物を作り発表

ネットワーク情報学部では、授業時間外に作成したものを、先生や他の学生の前で発表することが多くあります。このような課題では、複数の学生によるグループワークで行う場合も多く、グループ内でのスケジュール管理などの協調体制がうまくできたか、ある

いは先生や他の学生からの意見をうまく取り入れて改善できたかどうか評価の対象となることがあります。グループの他の学生と一緒に作業する時間が必要となりますので、そのような時間を取るように学生生活をスケジュールしていく必要があります。

レポートにおける不正行為

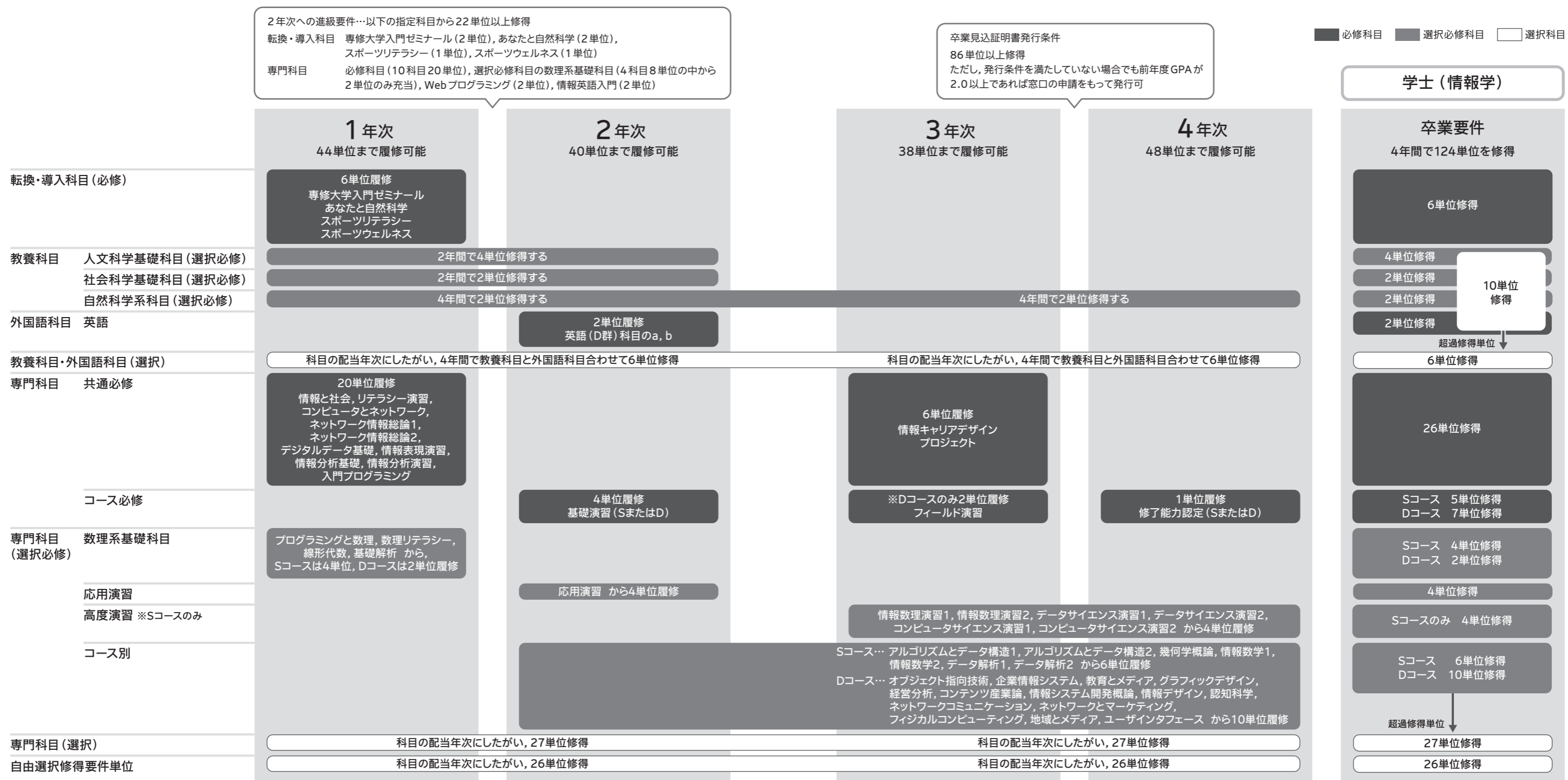
試験においては、他の学生の答案を写す、あるいはカンニングペーパーを持ち込むといった行為が不正行為(81ページ)となることは容易にわかるでしょう。レポートでも同様な不正行為が問題になります。レポートは授業時間外に課されますので、友人同士、議論することは認められています。しかし、他の学生のレポートをそのまま写して提出することは認められません。また、本やインターネットに載っている情報を、あたかも自分の意見として

そのままレポートに載せることも認められません。このように剽窃などが行われたレポートを提出した場合に不正行為と認定されますので、行わないでください。様々な情報を引用しながら、自分なりの見解をまとめていくことは認められています。詳しいことは、入学時に配布される「知のツールボックス」に述べられていますので、そちらを参照してください。

4年間の学びのステップ

- 皆さんは様々な科目の区分から、卒業要件を満たすように、4年間かけて単位を修得する必要があります。科目名とその区分の一覧は、73～76ページに掲載しています。
- 科目を履修し、60点以上の評価を得られたとき、その科目の単位を修得することができます。科目の単位数は開講期間、科目の性質によって決まっています。
- 「必修科目」は、卒業するためには必ず修得しなければならない科目です。一つでも未修得の必修科目があると卒業できません。
- 「選択必修科目」は、ある定められた科目の集まり（選択必修科目群）の中から指定された単位数以上を修得しなければならない科目です。選択必修科目群は複数あり、各科目群から必要単位数以上を修得しなければなりません。

- 転換・導入科目から6単位、教養科目と外国語科目から合わせて16単位、専門科目から76単位修得しなければなりません。卒業要件単位124単位に達するためには、さらに26単位修得する必要があります。その26単位分を、専修大学では自由選択修得要件単位と呼んでいます。自由選択修得要件単位に含めることができる科目は、62ページを参照してください。
- 配当年次。すべての科目には、履修可能となる年次が指定されます。例えば、1年次配当の科目は1年次にしか履修することができません。複数年次配当の科目、例えば、2～4年次配当の科目は、2・3・4年次のいずれにおいても履修することができます。必修科目の単位が修得できない場合は、配当年次に関わらず再履修しなければなりません。



自分の時間割表を作る

大学で最も重要なことは、4年間の学びを意識しながら、それぞれの学年の最初に、どの科目を履修するか決める(自分の時間割表を作る)ことです。専修大学は、前期開講授業、後期開講授業、そして前期・後期と連続して行われる通年授業に大きく分

かれます。前期、後期それぞれの時間割表を作り、Web履修登録システムで登録し、履修が認められるまで、自分の責任で行わなければなりません。

必修科目のチェック

1

当該学年で履修する必修科目を履修しなければなりません。必修科目は、いくつかのクラスで実施されている場合、学籍番号で割り当てが決まっていることがあります。自分が履修するクラスを時間割で探しましょう。(過去に修得できなかった必修科目は再履修

しなければなりません。どのクラスで受講すべきか、4月のガイダンスで指示されます。)必修科目の開講曜日時限は、あらかじめWeb履修システムで確認することができますので、必ず確認してください。

履修可能単位数のチェック

2

当該学年で、何単位履修することができるのか理解しなければなりません。7~8ページに記載された各学年の履修上限単位数から、各学年で履修しなければならない、必修科目及び選択必修科目の単位数を引いた結果が、

あなたがさらに履修できる年間単位数となります。(履修可能な単位数をすべて履修しなければならないということではありません。資格課程科目および海外語学短期研修は、年間履修上限単位数に含まれません。)

どの学年で学ぶか考える

3

学修すべき学年が幅広く指定されている選択必修科目及び選択科目をどの学年で履修すべきか考えなければなりません。一般に、選択必修科目は低学年で履修した方がよいでしょう。語学などはたとえ選択科目で

あっても、個人の学修目的に応じて低学年で履修する場合もあるでしょう。資格課程科目を履修して資格を得たい場合は、そちらのガイダンスに参加して、どの学年で学修していくべきか考えましょう。

シラバスと時間割の確認

4

3で考えた科目に関して、実際に、シラバスを確認して、自分の学修すべき内容なのか判断していきます。さらに時間割を確認して、自分の希望するクラスが、同一時限に重なっ

ていないか調べていきます。一部の科目には、事前登録希望を出さなければならないものがありますので、ガイダンス時に確認しましょう。

Web履修システムで登録

5

4までで考えた自分の時間割表をもとに、Web履修システムを使って、履修登録希望を指定していきます。一部のクラスでは、受講者が多すぎるときに抽選が行われるもの

があります。抽選の結果、受講が認められなかった場合には、別のクラスや科目を受講することを考えなければなりません。

科目ごとに、履修に関する細かい条件がある場合があります。履修をする上での制約は、「ネットワーク情報学部時間割」、履修ガイダンスの際に配布する資料、専修大学履修規程(77ページ)を注意して読むようにしてください。

1年次の必修科目及び専門科目の選択必修科目・選択科目を時間割表に試みに記載すると次のようになります。(これはあくまでサンプルで、実際には学籍番号によって異なるので、自分で作成してみましょう。)網掛けの必修科

目、履修登録を義務付けられている科目は、あわせて30単位ですので、履修上限単位数の44単位から引いた14単位が、皆さんが選択する余地がある単位数となります。

時間割表作成の事例

前期

時限	曜日	月	火	水	木	金
1		数理リテラシー	ネットワーク情報総論1			入門プログラミング
2			情報表現演習	スポーツリテラシー	リテラシー演習	
3				情報英語基礎	デジタルデータ基礎	
4		基礎解析		線形代数		
5			情報と社会			

後期

時限	曜日	月	火	水	木	金
1			専修大学入門ゼミナール			
2		プログラミングと数理	情報分析演習	スポーツウェルネス		あなたと自然科学
3		情報英語入門 <small>(履修登録が義務づけられている科目)</small>		情報分析基礎		ネットワーク情報総論2
4				コンピュータとネットワーク		
5			情報と社会			
6						Webプログラミング (オンデマンド) <small>(履修登録が義務づけられている科目)</small>

転換・導入科目や教養科目については14~18ページと22ページの説明を読んで履修しましょう。外国語科目については19~21ページの説明を読んで履修しましょう。英語以外の外国語は選択科目ですが、1年次に希望すれば履修できるような時間割になっています。

専門科目の1年次選択必修科目・選択科目は、29ページの説明を読んで、履修しましょう。資格課程を履修する場合、その科目を配置しますが、年間履修上限単位数に含まれません。それ以外の科目の中から、年間履修上限単位数を超えない範囲で科目を選ぶことができます。

オンライン授業による修得単位の上限について

令和2年度から続くコロナ禍において、本学を含む多くの大学では、インターネット等を介して教室以外の場所でも授業を受講することができる「オンライン授業」が取り入れられ、普及してきました。

本学では、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、オンライン授業とする授業科目(総授業回数の半数以上をオンライン

で行う授業科目)から修得することができる単位数の上限を、専修大学学則(第5条の4第2項)において60単位と定めています。

各授業科目の授業運営方法(対面・オンライン)は、講義要項(シラバス)などに掲載しますが、ガイダンスでのお知らせや、年度ごとに配布する時間割などの資料を確認のうえ、各自でこの上限単位数を踏まえた学修計画を立ててください。

授業時間外の学修

実際に時間割を作ってみると、週に10個程度の授業しかないことがわかります。できれば特定の曜日に授業を固めて履修したいと思うでしょう。皆さんは90分間の授業に慣れていないので、わからないかもしれませんが、実際には、1日に三つまでが集中して学修できる範囲で、四つも授業があると、聞くことがおろそかになる授業が出てきます。そのようになると、成績が悪くなる原因となります。

授業数を曜日に均等に分けると、1日あたりおよそ二つ程度で、大学生活は時間の余裕があるように思えるかもしれません。

しかし、一つの授業に対しては、4時間の予習・復習が必要なことが、大学設置基準で求められています。ネットワーク情報学部では、皆さんがきちんと予習・復習するように、多くの課題が課されます。もし課題が出なかったとしても、自主的にそれだけの学修時間を確保することが求められています。時間割表の中で、授業の間に空き時限ができたからといって、無理に勉強したくもない授業を履修するのではなく、自習時間にあてることが賢明です。大学では、自習をするための場所がいくつも用意されています。

情報科学センターを使う

情報科学センターは、パソコンやインターネットを使って学修する設備です。ネットワーク情報学部生には、1号館1・2階に優先端末室がありますので、比較的自由に、友人達とともに、朝の9時から夜の9時まで[※]学修できます。ネットワーク情報学部では、コンピュータソフトを使った課題が多く課されますし、レポートもパソコンを使って作成

することがほとんどです。レポートの提出もオンラインレポート提出システムで行うことも多くなっています。情報科学センターを活用することが、ネットワーク情報学部生にとっては重要です。65～66ページにも詳しい情報を載せていますので、あわせて見てください。

※時間は時期によって延長・短縮されることもありますので、随時確認してください。

図書館を使う

専修大学には100万冊を超える蔵書をもつ図書館があります。図書館にあるオリジナルな文献を調べるレポート課題が出ることもあります。また図書館には自習スペースも用意されていますので、静かに集中して学修し

たいときには、利用してみるとよいでしょう。図書館では、学生が希望する図書を購入してくれるサービスを行っています。皆さんから希望を出して、図書館に置いてもらうようにしてみたらどうでしょうか。

グループワークをする

ネットワーク情報学部では、複数人の学生がグループで取り組む課題(グループワーク)が多く課されます。グループワークが課されたときに、参加する学生たちは自分たちの空き時間を調整して、一緒にグループワークをする時間を工面します。そのときに、「空き時間がまったくありません」と言うことはでき

ません。他の学生たちとグループワークをすることができるように、余裕ある時間割を組むようにしましょう。ネットワーク情報学部生には1号館3・4階にグループワークなどをするスペースがありますので、積極的に利用しましょう。67～68ページにも詳しい情報を載せていますので、あわせて見てください。

単位の考え方と算定基準

大学設置基準において「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」とされていますので、大学での2単位の講義科目であれば、授業を含めて90時間の学修が必要とされていることとなります。毎週1時限の教室での授業が1学期行われて30時間分の学修をしたものとみなしています。したがって、2単位科目の場合、残りの60時間分を教室外で学修しなければなりません。漠然と授業を受けるだけでなく、事前の準備や事後の展開にも力を入れるように心がけてください。

オンライン学修支援システム

ネットワーク情報学部は、その名前が示すように、ネットワークを活用して大学生活を送ることが当たり前のように行われています。以下に述べるオンラインシステムは、ネットワーク情報学部生であれば、少なくとも1日に1回はチェックする必要があります。

授業支援システム (in Campus・Google Classroom)	先生から学生へのお知らせ、オンライン資料の配付、レポート提出などを授業ごとに管理する機能を持つシステムです。in Campus	およびGoogle Classroomを授業で使用する場合には、担当の先生から、どのように使っていくのか授業中に指示があります。
大学からのお知らせ	大学からのお知らせは、in Campusや大学のメールシステム、ビジネスチャットdirectなど様々な方法で通知されます。この中で一番	公式なものは、in Campusでのお知らせになります。休講情報などもin Campusで通知されます。
大学のメールシステム	入学すると皆さんには大学のメールアドレスが与えられます。大学の学生としてメールを送るとき(例えば、先生にメールを送るとき)には、大学のメールアドレスを使うことが	常識です。教職員から、皆さんに連絡する必要があるときには、大学のメールアドレスを使って電子メールを送ることがあります。
利用するためのユーザIDとパスワード	情報科学センターの端末室のパソコンを利用するためには、個人ごとに与えられたユーザIDとパスワードが必要です。パスワードが他人に知られてしまうと、他人に情報を盗まれるという不利益を被りますので、パスワード管理をきちんとしてください。パスワードは、電子メール、Web履修登録システム、授業支援システムin Campusなどで共通となっていますので、もし何かトラブルが起こったときは、情報科学センター受付に相談してください。	い [※] 。なお、Webページを公開したり、データを共有したりする目的で、いくつかのサーバが学部教員によって管理されています。xxx.ne.senshu-u.ac.jpというような名前を持ち、端末からネットワークを経由して利用します。これらのサーバを利用するためのユーザIDとパスワードは情報科学センターとは別のものが用意されます。
ビジネスチャット(direct)	ビジネスチャットとは、組織内で使われるメッセージングシステムのことで、グループを作って、その中でテキストやファイルのやり	とりができます。グループワークを行う授業で使われたり、学生が先生に何かを相談したりする際に使われたりします。
respon	授業の出欠をとったり、授業中に教員から出題される質問に答えたりするシステムです。	

※電子メールのみは、パスワードを変更しても他のシステムのパスワードに影響を及ぼしません。

開設される科目の構成と学士課程

皆さんが在学時に学ぶ科目は、主に

1. 専修大学すべての学生を対象とする科目(転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目)
2. ネットワーク情報学部の学生を対象とする科目(専門科目)に区別され, これらの科目を, このページ以降に示すルールにしたがって修得していくことになります。この他にも, 全員が修得するものではありませんが,
3. 他学部の専門科目を受講できる全学公開科目
4. 資格を取得するための科目(資格課程の科目)といった科目もあります。

ネットワーク情報学部の専門科目は, 基礎から発展まで, 学修順序を考慮して, 科目の配当年次が指定されています。全員が学ぶべき基礎的な内容の科目は, 1年次に担当しています。2年次以降では, 学修の中心となる演習科目は各学年毎に担当され, 講義科目は, 2~4年次配当の中レベルの科目, 3~4年次配当の高レベルの科目に区別されています。専門科目の科目体系と履修

指針は, 23~58ページに示してありますが, 各学年での履修ガイダンスでも詳しく説明します。

専修大学すべての学生を対象とする科目は,

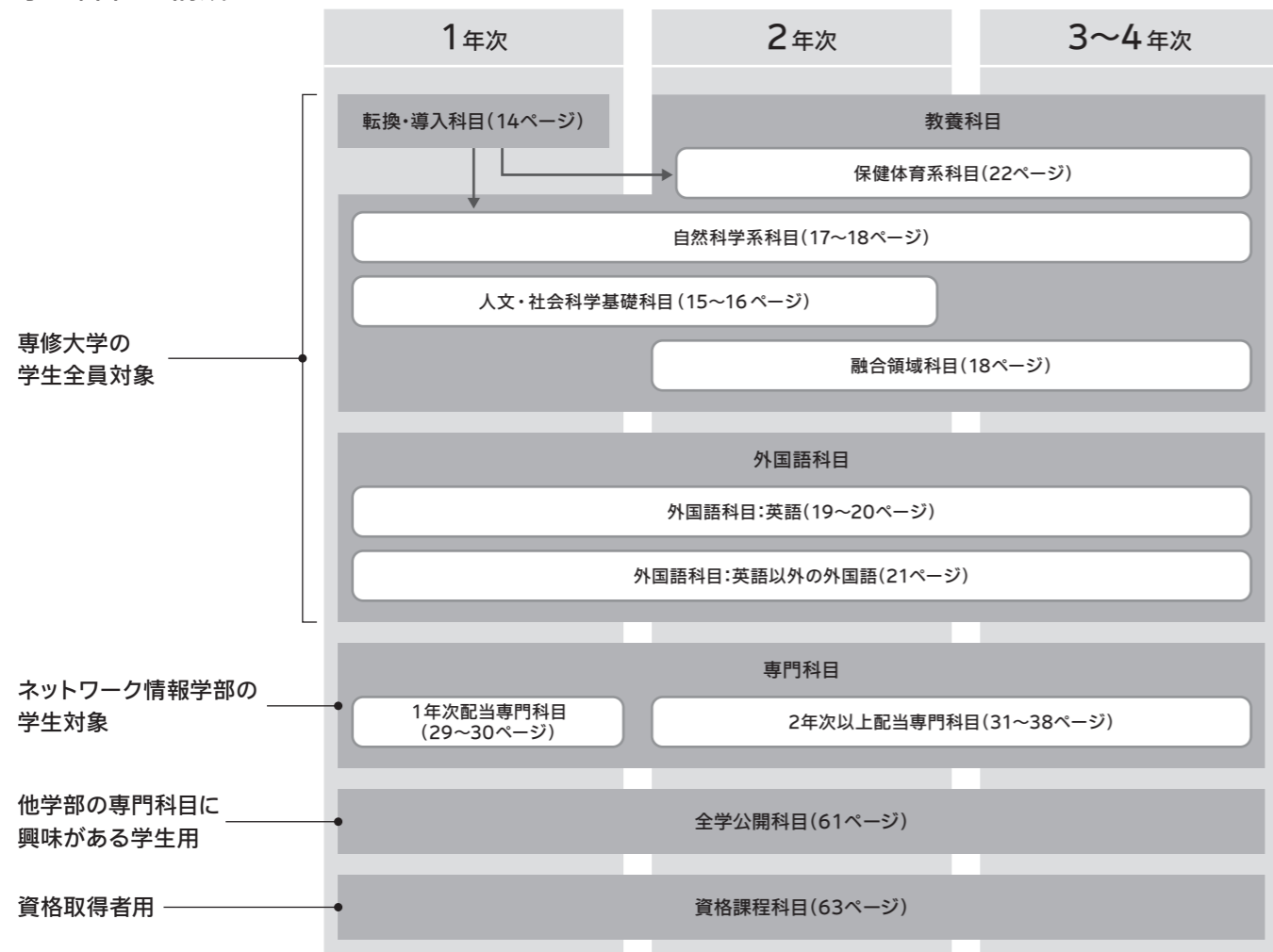
- 1年次に専修大学の学生全員にとって必要不可欠な基礎的知識や技能を修得する転換・導入科目
- その上でさらに知識を広げ, それぞれの分野の理解をいっそう深めることを目的とする教養科目
- 英語その他の言語を学ぶ外国語

から成り立っています。

教養科目は, 人文科学基礎科目, 社会科学基礎科目, 自然科学系科目, 保健体育系科目から構成されています。学際的なテーマを扱う融合領域科目も含まれます。外国語科目には, 英語, 英語以外の外国語, 海外語学研修があります。

転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目の科目体系と履修指針は, 14~22ページに示してあります。

学士課程の構成



転換・導入科目

転換・導入科目の目標

転換・導入科目のうち専修大学入門科目では, 皆さんが, 高校生活から大学生活への転換を図り, 専修大学の学生としての自覚を持ち, 大学での学修に求められる基本的なスキル(技法)を身につけることが目標であり, 具体的な目的として, 以下の点をあげることができます。

第1に, 大学で学ぶことの意味を充分理解することです。

第2に, 専修大学の学生としての自覚を持っていただくために, 専修大学の歴史を学び, 専修大学で学修することの意義を理解することです。

第3に, 大学で学ぶための基本的な技法(アカデミックスキル), すなわち「講義をどのように聞くか」「どのように資料を収集し, まとめるか」「学修の成果をどのように相手に伝えるか」「どのように討論するか」「学修の成果をどのようにまとめるか」について修

得することです。

それ以外の転換・導入科目は, 教養科目及び専門科目で学ぶための基本的な力を養います。ここで用意されている科目を学ぶことで, 皆さんは大学で学ぶだけでなく, 社会で必要とされる様々な力を伸ばすことができます。それらの力とは, 情報を分析し活用する力, 複合的な視点で観察し思考する力, 自分の将来を切り開いていく力, 自分の健康を維持管理する力です。これらの力は, 国際化・情報化・複雑化が進む社会において, 皆さんが活躍するために必要な社会知性を身につけるために, 役立つことでしょう。

転換・導入科目で身につけるべき能力の一部は, ネットワーク情報学部が用意する1年次配当の専門科目で扱っています。下の図では, そのような専門科目がわかるように並記して示しています。

転換・導入科目として用意される科目	獲得する力	専門科目として用意される科目(29ページ)
専修大学入門ゼミナール	大学での学修の基本的なスキル	リテラシー演習
キャリア入門	自分の将来を切り開いていく力	情報と社会(一部)
あなたと自然科学	情報を分析し活用する力	情報表現演習 情報分析基礎 情報分析演習 入門プログラミング Webプログラミング
スポーツリテラシー スポーツウェルネス	自分の健康を維持管理する力	

■ 必修科目 □ 選択科目

高校生活から大学生活への転換を図り, 専修大学の学生としての自覚を持ち, 大学での学修に求められる基本的なスキル(技法)を身につけます。(59ページ)

大学生活において, 様々な選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動する力を身につけます。(60ページ)

皆さんの自然科学的な思考力・探究力・論述力を高め, 皆さんと自然科学の関係を知るための導入となる科目です。自然科学系科目(17ページ)の基礎となる科目です。

スポーツが有する様々な可能性に触れて身体知を養い, スポーツを通じた学士力の養成と心身の健康の維持増進に取り組みます。保健体育系科目(22ページ)の基礎となる科目です。

人文科学基礎科目

人文科学基礎科目を学ぶ意義

人文科学に含まれる学問はいずれも、人間の行い、これまで人間がやってきたことにかかわっています。人間の営みはさまざまですから、それに応じて多くの学問が生まれました。皆さんは多種多様な領域を持つ人文科学に驚くかもしれません。

自然科学や社会科学でも人間は対象になりますが、扱い方に違いがあります。自然科学では、人間が住んでいる世界や環境を(宇宙から素粒子まで)異なるサイズで研究します。人間を研究対象とする場合でも、それは生物として、物質としての人間です。社会科

学では、ひとまず人間を全体としてみて、その活動から出発して人間の本質について問いかけます。

これらに対して人文科学では、具体的に個別的でもある人間のさまざまな営みを研究対象とし、そこから人間というものがどういう生き物であるのかを理解しようとしています。

図にあるような人文科学の領域から複数の科目を履修することで、人間の営みのさまざまな側面を知り、自分とは違った観点をもつことができるはずです。

人文科学基礎科目の学び方

本学で展開される人文科学の科目には、皆さんが大学で初めて出会う科目もたくさんあります。また、すでに学んだことのある分野でも、大学での講義が予想とはまったく違って驚くことがあるかもしれません。

さまざまな学問に触れるために、人文科

学領域から複数の科目を履修してみることをお勧めします。それにより、単なる知識にとどまらない人文科学の面白さを知り、他の教養科目や専門科目を学ぶ上での基礎や本質となる人間のとらえ方を学ぶことができます。

注意事項

- 人文科学基礎科目は、1,2年次しか履修できません。
- ネットワーク情報学部では、人文科学基礎科目を4単位以上修得することが必要です。
- 科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。
- 個々の科目内容については、Web講義要項(シラバス)を参照してください。

人文科学の学問領域と設置科目(ネットワーク情報学部対象)

文学 <ul style="list-style-type: none"> ● 日本の文化 ● 日本の文学 ● 世界の文学 ● 文学と現代世界 ● 英語圏文学への招待 	歴史学 <ul style="list-style-type: none"> ● 歴史の視点 ● 歴史と地域・民衆 ● 歴史と社会・文化
哲学 <ul style="list-style-type: none"> ● 哲学 ● 倫理学 ● 論理学入門 ● ことばと論理 	芸術学 <ul style="list-style-type: none"> ● 芸術学入門
文化人類学 <ul style="list-style-type: none"> ● 異文化理解の人類学 	ジャーナリズム学 <ul style="list-style-type: none"> ● ジャーナリズムと現代
心理学 <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎心理学入門 ● 応用心理学入門 	

社会科学基礎科目

社会科学基礎科目を学ぶ意義

人々は何らかの社会的な組織や集団(企業、国家、家族、地域など)の一員として生きています。何気ないふるまいや考え抜いた選択も、自分自身から一歩離れて観察すると、社会的な組織や集団、各種制度の影響をうけていることに気付きます。社会科学とは、社会を構成する組織や集団、制度の内容を知り、それぞれがどのような影響を与えているのかを理解することで知識を深めることができます。

自分が生きている社会ですから、理解で

きていると思込んでしまっていたり、先入観にとらわれて誤認することもあります。それを防ぐには、「自分自身から一歩離れて観察する視点」(=客観的な基準)が重要です。しかし、この視点は唯一無二のものが存在するわけではありません。多様な視点があり、学問領域によって異なる基準が用意されています。この点を踏まえ、社会科学基礎科目では、学問領域ごとに得意としている社会の観察眼を学べるよう、図にあるような科目を展開しています。

社会科学基礎科目の学び方

自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方、固定観念に縛られずに社会で生じている出来事や課題への観察眼を養うことも大切で、そのためには、一見すると

関連のない分野を学ぶことも必要です。このことは、学びを深める上での基本です。したがって、卒業要件単位数にとらわれずに複数の科目群から履修することが望まれます。

注意事項

- 社会科学基礎科目は、1,2年次しか履修できません。
- ネットワーク情報学部では、社会科学基礎科目を2単位以上修得することが必要です。
- 科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。
- 個々の科目内容については、Web講義要項(シラバス)を参照してください。

社会科学の学問領域と設置科目(ネットワーク情報学部対象)

社会科学全般 <ul style="list-style-type: none"> ● 社会科学論 ● 社会思想 	経済学 <ul style="list-style-type: none"> ● 経済と社会 ● 現代の経済
法学 <ul style="list-style-type: none"> ● 日本国憲法 ● 法と社会 	政治学 <ul style="list-style-type: none"> ● 政治学入門 ● 政治の世界
商学 <ul style="list-style-type: none"> ● マーケティングベーシックス ● 企業と会計 	教育学 <ul style="list-style-type: none"> ● 教育学入門 ● 子どもと社会の教育学
地理学 <ul style="list-style-type: none"> ● 地理学への招待 	社会学 <ul style="list-style-type: none"> ● 社会学入門 ● 現代の社会学

自然科学系科目

自然科学系科目を学ぶ意義

自然科学系科目として、物理学、化学、生物科学、宇宙地球科学、科学論、数理科学および自然科学実験演習が設置されています。転換・導入科目、基礎自然科目の「あなたと自然科学」

と自然科学」でその一端に触れた科学的思考力をそれぞれの科目を通じて深化させます。

自然科学系科目の目的

- ① 自然や物質の成り立ちと人間の存在に関する普遍的な原理の理解：現在では、宇宙の創成から人類の誕生に至るまでの科学的な理解が進んでいます。「地球に生きる私たち」という位置づけができる力を養います。
- ② 現代社会を生き抜くための多角的な視野の形成：人文・社会科学系の学問と異なる、実験や観察に基づいたアプローチをする自

- 然科学的な発想や視点を身につけ、客観的な思考力を養います。
- ③ 現代社会が抱える課題を解決する能力の育成：科学技術の著しい発展は、人類に恩恵をもたらす一方で環境問題や遺伝子操作などの数々の問題も生み出してきました。これらの問題に対する適切な判断力や深く広い生命観を培います。

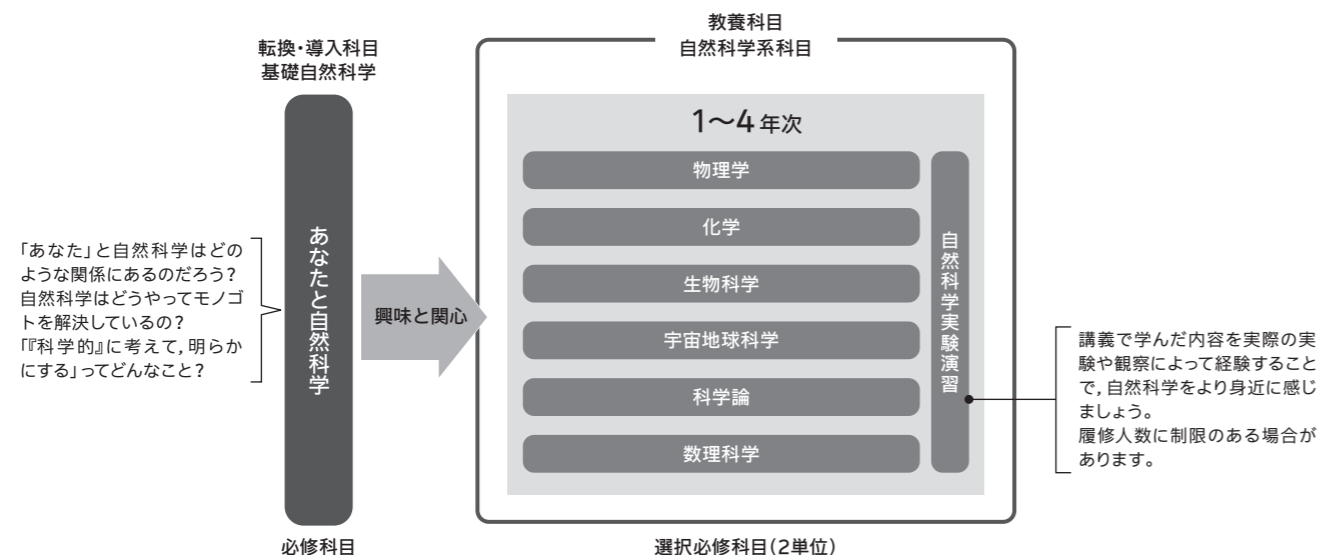
自然科学系科目の学び方

それぞれの自然科学系科目が扱う内容に関する代表的なキーワードは、次の表の通りです。「物質」や「環境」、「宇宙」といった広いテーマに関するキーワードは、複数の科目に含まれていることがわかります。各自の学

修目的に合わせて履修科目を選択してください。興味のあるキーワードを中心に近隣の科目を履修するのも一つの方法です。

注意事項

- ネットワーク情報学部では卒業要件単位として自然科学系科目2単位以上修得する必要があります。
- 「〇〇1a」など番号+アルファベットまでが科目名です。「〇〇1a」と「〇〇1b」は別科目です。
- 「〇〇1a」、「〇〇2a」、「〇〇3a」は科目のテーマ・内容を区別する番号であり、難易度を意味するものではありません。「〇〇3a」から履修しても構いません。
- いずれの科目も、年次に関わらず自由に履修することができます。ただし、教室定員によっては履修者を抽選で決定することがあります。
- 開講されている科目で扱う具体的な内容については、Web 講義要項(シラバス)で確認してください。
- 科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。



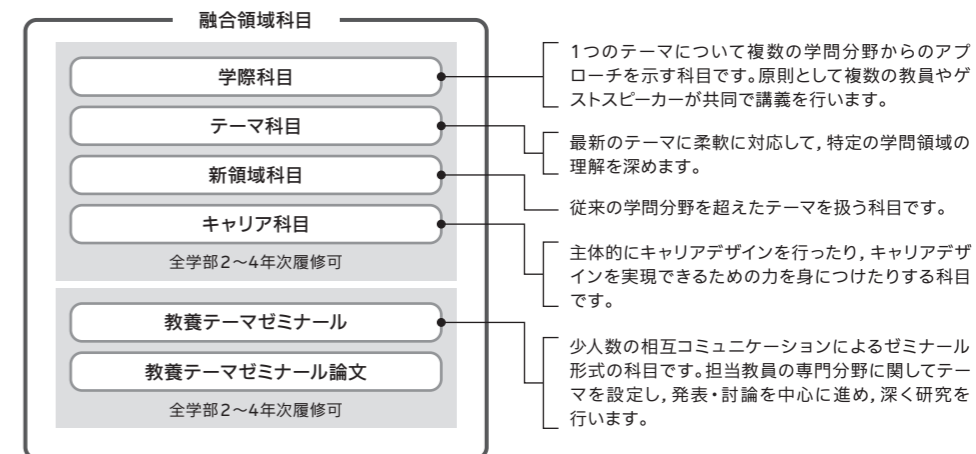
科目名	それぞれの科目が扱う内容を表す代表的なキーワード
生物科学 1a・1b	細胞, 遺伝子, DNA
生物科学 2a・2b	生物と環境の科学, 生態学, 進化学
生物科学 3a・3b	ホメオスタシス, 脳・神経, 内分泌, 感覚, 細胞
宇宙地球科学 1a・1b	恒星, 銀河, 太陽系, 天体の運動, 天体の観測
宇宙地球科学 2a・2b	プレートテクトニクス, 地震, 火山, 地球史, 環境変動
化学 1a・1b	物質の理解, ものつくりの基本, 元素と周期表, 物質の多様性, 生体関連物質
化学 2a・2b	エネルギー資源, 自然環境, リサイクル, 有機化合物, 生体分子
物理学 1a・1b	力学, 波動, 量子論, 電磁気学
物理学 2a・2b	現代物理, 宇宙論, 相対論, 素粒子論, 統計熱力学
数理科学 1a・1b	代数
数理科学 2a・2b	解析・幾何
数理科学 3a・3b	統計
科学論 1a・1b	進化論, 大きすぎて見えないもの, 小さすぎて見えないもの
科学論 2a・2b	科学と技術, 科学史, 人間と科学

融合領域科目

融合領域科目を学ぶ意義

融合領域科目は、教養科目と専門科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的としています。また一つのテーマについて多方面からのアプローチが存在することを皆さんに示し

ながら、どんな社会現象や自然現象にも複数の側面(多面性)があり、それらの間に複雑な関係性があることを理解させ、みなさんの思考力に総合的な分析力や判断力が加わることを主な教育目的としています。



注意事項

- 「教養テーマゼミナール」は1・2・3に区分され、1は2年次、2は3年次、3は4年次配当です。連続して同じ「教養テーマゼミナール」を履修することもできますし、年度毎に別の「教養テーマゼミナール」を履修することもできます。
- 同一年度に複数の「教養テーマゼミナール」を履修することはできません。
- 同一教員の「教養テーマゼミナール」を2年間以上履修する場合、「教養テーマゼミナール論文」を履修することが可能です。
- 「教養テーマゼミナール」は、毎年11月頃、次年度の履修者の募集を行います。募集要項は教務課で配布します。

外国語科目・英語

英語科目を学ぶ意義

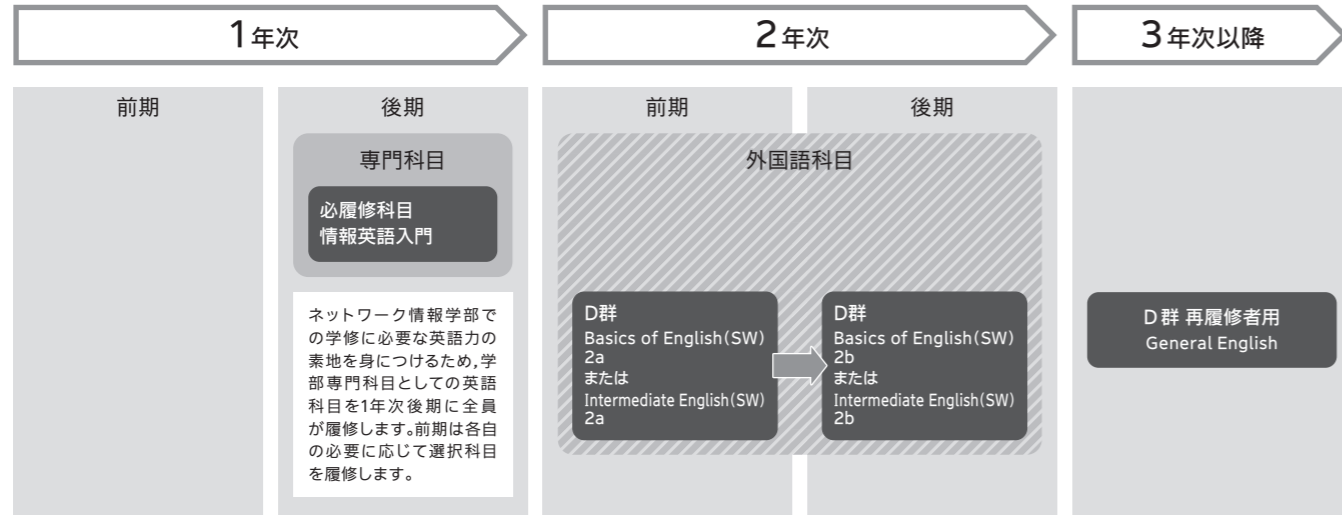
外国語科目の英語では、高等学校までで学んできた英語を土台として、新たに大学生として英語や英語を取り巻く社会状況を理解し、学修することを目指します。コミュニケーションの手段として、また情報収集、発信の手段として不可欠な英語力をさらに伸ばしていくことを目指しましょう。また、実用的な面のみならず、異文化への関心や理解を深め、人間としての視野を広げることも

大変重要です。必修の英語科目に加え、英語の4技能(Listening, Speaking, Reading, Writing)をさらに高め、グローバル化時代の多様なニーズにこたえられるよう、様々な選択科目の英語が用意されています。幅広く用意された選択科目を積極的に履修することでさらなる英語力の向上を目指すとともに、異文化への理解を深めましょう。

注意事項

- 1単位科目と2単位科目があります。
- 科目名にaがつく科目は前期開講、bがつく科目は後期開講です。矢印で結ばれた科目はセットで履修してください。
- 再履修者用必修科目および選択科目はいずれも複数展開しています。個別授業の詳しい内容はWeb講義要項(シラバス)に掲載されます。
- 実用英語技能検定(英検)、TOEFL[®]、TOEIC[®]において一定の基準を満たしている学生に単位認定する制度があります。以上の詳細については、4月に配布される時間割冊子に記載されますので、確認してください。

必修科目



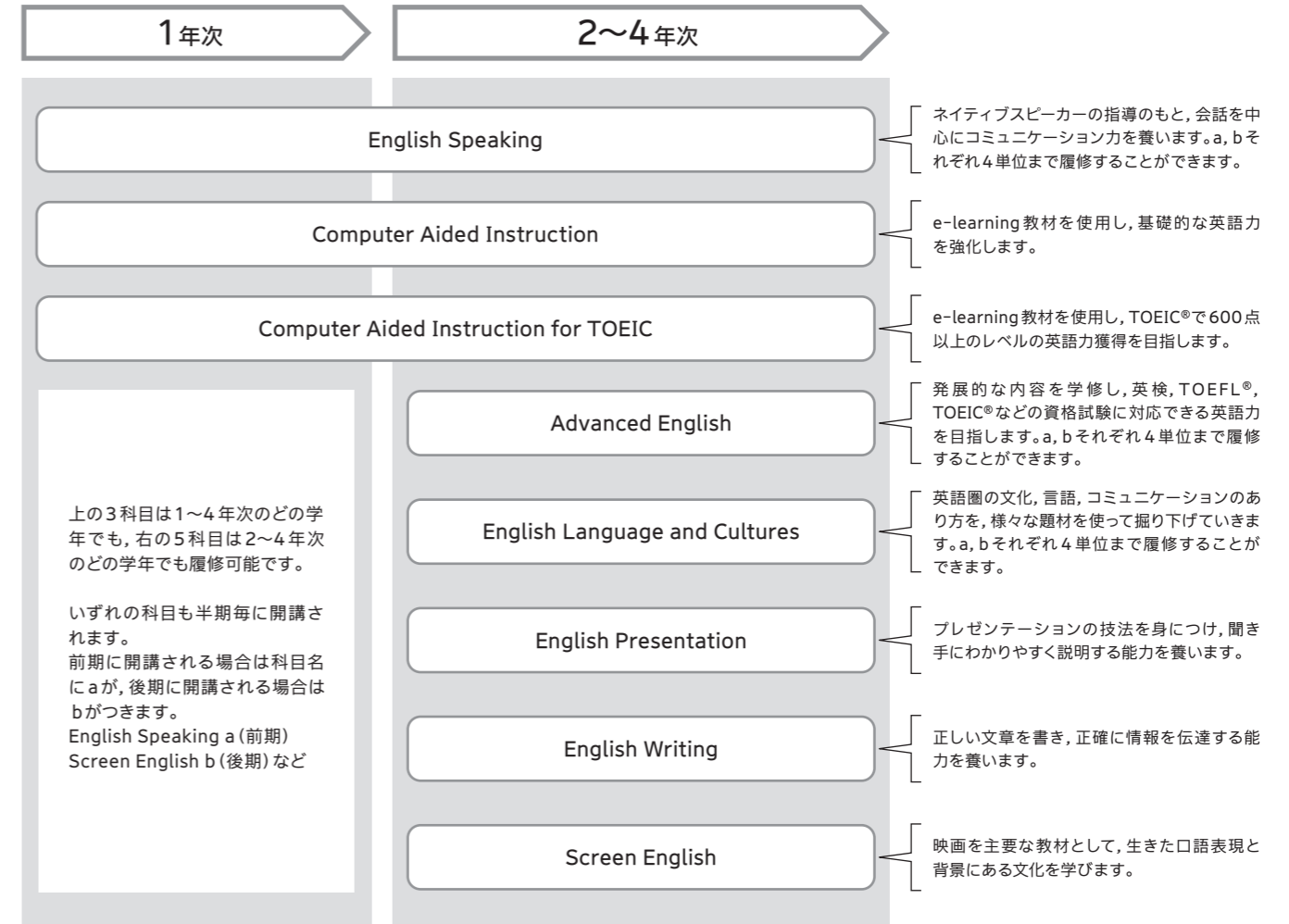
英語(D群)は習熟度別クラスで学習します。入学時の英語科目プレテストによって、Basics of EnglishとIntermediate Englishのどちらを履修するかが基本的には決定します。情報英語入門の成績が加味されることもあります。基礎的な学修が必要な場合は、Basics of English、基礎が修得されている場合は、Intermediate Englishを履修します。Intermediate EnglishはさらにMidとHighにわかれています。特に希望すれば、指定されたクラスより、1レベル上(Basics of English → Intermediate English (Mid) → Intermediate English (High))のクラスの履修を許可される事もあります。

「CALL自習室」と「語学相談」の紹介

生田・神田キャンパス1号館地下にはCALL自習室とCALLライブラリーがあり、各種語学の視聴覚教材を始め、検定試験対策教材や雑誌などが視聴、閲覧できます。また、CALL自習スペー

スは生田10号館1階情報コアゾーンにも設けられていて、DVDを中心とした教材が利用できます。語学相談も受け付けているので、積極的に利用しましょう。

選択科目



e-learning教材「NetAcademy NEXT」の紹介

専修大学のアカウントを持った学生であれば誰でも、e-learningを利用して英語を自学習することができます。TOEIC[®] L&Rテスト突破コース(500点・600点・730点)、総

合英語トレーニング 初級コース・中級コース、TOEFL[®] ITPテスト攻略コースがあります。専修大学のトップページからCALL教室の「e-learningについて」を参照して確認してください。

提携校への海外語学留学

国際交流センターでは本学の提携校で学ぶ各種留学プログラムの実施並びに留学希望者へのサポートを行っています。夏期、春期の「短期留学プログラム」、数ヶ月間集中的に語学を学ぶ「中期留学プログラム」、および正規授業科目の修得を目的とする「長期交換プログラム」、「セメスター交換留学プログラム」があります。留学は実践的に語学力を伸ばし、異文化圏での生活を肌感覚で体験できるまたとない機会であり、日本で普通に過ご

しては得ることのできない感動や刺激を与えてくれるでしょう。是非とも多くの人にチャレンジしていただきたいと思います。プログラムの研修先、内容、応募方法、研修費用、単位取得条件など詳細については、年度ごとに国際交流センター内、国際交流事務課に問い合わせてください。帰国後の単位認定については、73ページの一覧内、海外語学研修の備考欄を参照してください。

外国語科目(英語以外の外国語)

英語以外の外国語を学ぶ意義

キーワードは3つのC

外国語を学ぶというのは、言葉そのものを習得すると同時に、その背景にある社会の考え方や文化(Cultures)に触れるということです。そこから、未知の人たちとのコミュニケーション(Communication)が始まります。新しいことばは、英語だけでは知ることのできない世界とつながる(Connection)新たな窓口です。

ネットワーク情報学部では、選択科目として英語以外の外国語科目の履修ができます。ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語の各

言語を履修する場合は、1年次以降で各言語の「導入」科目(初級1a, 1b, 2a, 2b)の4科目(4単位)をセットで履修します。2年次以降の「基礎」科目(中級1a, 1b, 2a, 2b)、3年次以降の「応用」科目(上級1a, 1b)も履修することができます。科目名にaがつく科目は前期、bがつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で、半期ごとにそれぞれ成績がつきます。

また、日本語による講義科目の世界の言語と文化は1年次から、言語文化研究は2年次から履修することができます。



→で結ばれた科目は、同一曜日・時限、同一担当者の科目をセットで履修します。

注意事項

- 初級1a, 1b: 基礎となる文型や基礎的な語彙を修得し、「読む・書く・話す・聴く」の四技能を養います。
- 初級2a, 2b: 総合的な基礎力をつけ、簡単な作文を書いたり、自己紹介など身の回りのことを表現できる力を養います。
- 世界の言語と文化: 各国の言語の背景にある文化を広く学びます。
- 中級1a, 1b: 初級で学んだことの復習+さらに発展した語学力・コミュニケーション力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目まで履修することができます。
- 中級2a, 2b: 初級で学んだことの復習+さらにテーマ別に語学力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目まで履修することができます。
- 選択1a, 1b: 第三の外国語として、入門的な語学力・コミュニケーション力を養います。
- 上級1a, 1b: 個別のテーマで、中級以上のさらに進んだレベルの語学力を養います。同年度にそれぞれ2科目まで、年度を越えてさらに2科目、合計で4回履修することができます。
- 言語文化研究: 世界各地のさまざまな文化や社会およびその間の関係を深く学びます。

保健体育系科目

保健体育科目を学ぶ意義

転換・導入科目の保健体育基礎科目では、1年次必修科目(前期のスポーツリテラシー、後期のスポーツウェルネス)を通じて、次のことを目標としています。

1. 共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践し、スポーツを媒介して学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うこと。
 2. スポーツを通じた身体活動により、「学びの力」の土台となる心身の健康の維持増進を果たすとともに、健康なライフスタイルの創造に貢献するための運動習慣の醸成を図ること。
- 2年次以降は教養科目(保健体育系科目)として、スポーツを専門的レベルから学ぶ「アドバンススポーツ」、理論科目としてスポーツが有する多角的な価値を学ぶ「スポーツ

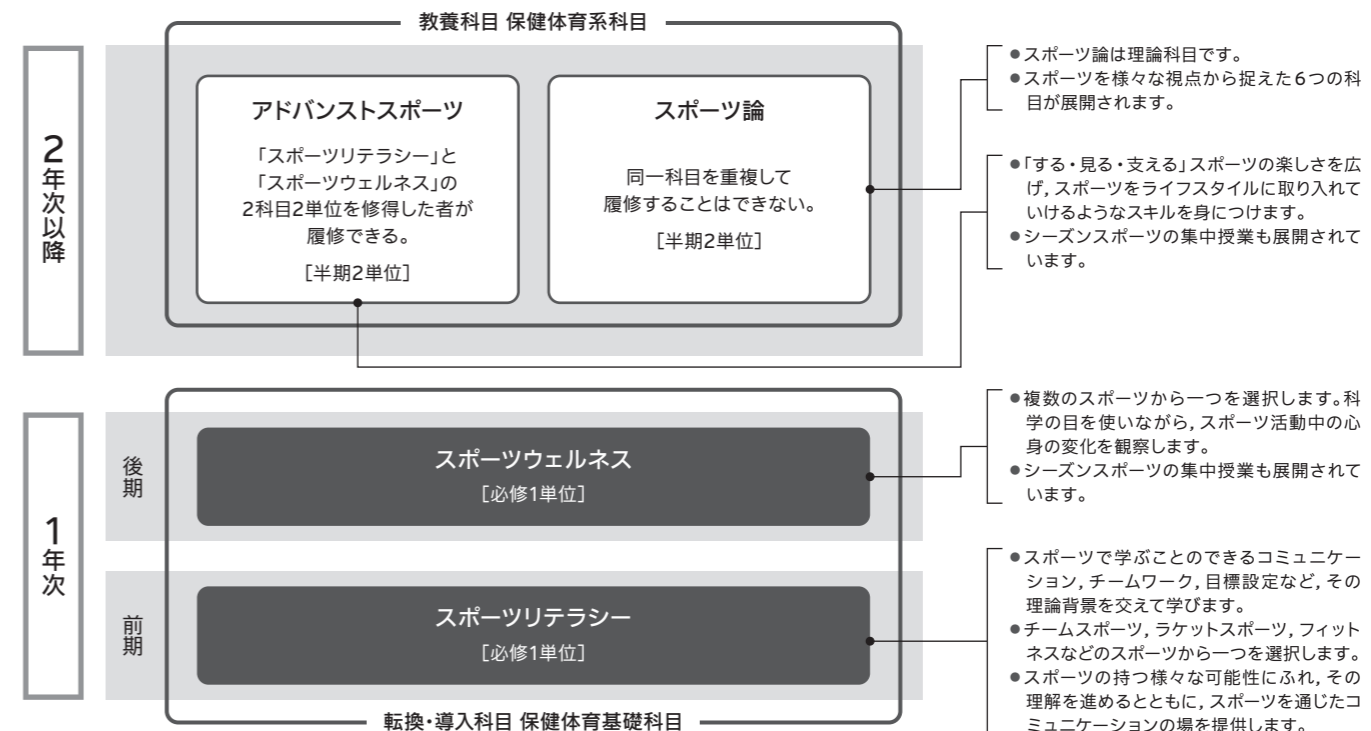
論」を選択科目として用意しています。

「アドバンススポーツ」は、対象スポーツにおける幅広い知識と専門性の高い技術の獲得を主目的としています。内容としては技術の追求のみではなく、ビデオを利用したゲーム分析や審判法、マッチメイクなどのマネジメントについての学修なども取り込み展開されます。

「スポーツ論」では、スポーツが有する多角的な価値について、社会科学、自然科学、人文科学などの視点から学びます。そして、在学時および卒業後において日常的にスポーツに親しみ、スポーツを通じて地域社会と積極的に関わりながら心身の健全な発達、明るく豊かな生活の形成に繋げることのできる能力の醸成を目指します。

注意事項

- 同一科目の「スポーツリテラシー」と「スポーツウェルネス」を同年度に履修することはできません。
- 「アドバンススポーツ」は同一科目を重複履修、また複数科目を履修することができます。
- 「スポーツ論」は、同一科目でなければ複数履修することができます。
- 個々の科目内容については、Web講義要項(シラバス)を参照してください。
- スポーツリテラシーとスポーツウェルネスを履修する際は、事前に健康診断を受ける必要があります。2年次以降に再履修する場合も同様です。
- 疾病・身体虚弱および肢体不自由など、運動を制限されている場合は、教務課窓口もしくは、第1回目の授業時に申し出てください。



- スポーツ論は理論科目です。
- スポーツを様々な視点から捉えた6つの科目が展開されます。
- 「する・見る・支える」スポーツの楽しさを広げ、スポーツをライフスタイルに取り入れていけるようなスキルを身につけます。
- シーズンスポーツの集中授業も展開されています。
- 複数のスポーツから一つを選択します。科学の目を使いながら、スポーツ活動中の心身の変化を観察します。
- シーズンスポーツの集中授業も展開されています。
- スポーツで学ぶことのできるコミュニケーション、チームワーク、目標設定など、その理論背景を交えて学びます。
- チームスポーツ、ラケットスポーツ、フィットネスなどのスポーツから一つを選択します。
- スポーツの持つ様々な可能性にふれ、その理解を進めるとともに、スポーツを通じたコミュニケーションの場を提供します。

専門科目の4年間での学び

ネットワーク情報学部では、情報学の基礎を固め、その上でより専門的な知識を獲得できるように科目を体系的に配置しています。情報学の学びでは、獲得した知識を活用していくために必要となる考え方やコンピュータ活用などのスキルを身につけることが求められます。また、獲得した知識やスキルを、個人の活動だけでなく、グループでの問題解決活動に利用していく能

力も必要です。社会での様々な場面で、情報学を学ぶことによって得られた力を活用できる仕事がたくさんあります。皆さんが、卒業後のキャリアプランを描きながら、自らの学びをデザインしていくことも大事になります。ここでは、4年間でのどのような能力を段階的に身につけていくのか紹介します。

	専門知識を学ぶ	スキルを獲得する
1年次 学びの基礎作り	共通必修科目で情報学の基礎固め コンピュータとネットワークの動作、データ処理やプログラミング、その基礎となる論理的・数理的思考法など、様々な情報に関連する領域を学修するための共通基礎を身につけます。将来の職業と情報学の関連についても学びます。	5つの必修演習で活きた学びを体験 リテラシー演習・専修大学入門ゼミナールでは、大学での学修方法を具体的に学んでいきます。情報表現演習・情報分析演習・入門プログラミングの3つの演習では、講義で修得した内容をソフトウェアで実践することで、活用できる知識にいきます。
2年次 深める方向を探る	コースとプログラムをもとに専門科目を履修 自ら興味をもった領域の基礎的な専門科目を学修しながら、2年次以降で深めるべき方向を探していきます。「コース」と「プログラム」で指定された必修・選択必修科目を考慮しながら、科目を選択していきます。	基礎演習・応用演習から選択 コースで指定された基礎演習と、自らの志向にあわせて選択した応用演習では、学んできた知識やスキルを具体的なテーマに沿って活用し、問題解決プロセスを実践します。3年次のプロジェクトの準備になります。
3年次 知識の融合と発展	コースを修了する、プログラム認定を受ける 専門性を深めたい学生のために用意された学修課程が「プログラム」です。プログラムごとに指定された必修科目・選択必修科目を修得することで修了認定を受けられます。また自ら目標を定めて、それに必要となる科目を教員と相談しながら選択していくことにより、コース修了要件を満たしていれば、プログラム認定を得ずに卒業することができます。	プロジェクト、コース毎の発展演習 10名前後の学生たちで、教員の指導を受けながら、1年かけて問題解決に取り組みます。その過程で、コミュニケーション・プレゼンテーション能力、プロジェクト管理などの能力も身につきます。Sコースには高度演習、Dコースにはフィールド演習というコース毎の発展レベルの演習もあります。
4年次 学びの仕上げ		修了能力認定 学生自らが学びの記録をまとめたポートフォリオを教員に示し、それまでに身につけたスキル等の能力が、コースごとに定めた水準まで達しているのか認定を受けます。

「プログラム」の他に、学部の共通分野として「英語」、「数学」、「経済・経営」、「キャリア教育」があります。53～58、60ページを参照し、自らの目標にしたがい、科目を履修すると良いでしょう。

ネットワーク情報学部の学修で身に付けるべき力

急速に進歩する情報学、情報技術に関する知識を十分に使いこなして、様々な社会問題に対して解決方法を提案していくためには、確かな基礎と広い視野、そして自ら課題を発見し、他者と協働していく力を身につける必要

があります。「学位授与の方針」として示している、卒業時までに身に付けていなければならない4つの項目を具体的に解説します。

1. 情報学に関する知識と理解

情報とはどのようなものでどのような性質を持っているのかという原理、コンピュータやネットワークでの情報の扱いと処理の仕組み、人間がコンピュータとともに情報を扱う仕組み、情報学の社会での様々な応用まで幅広く学修し、幅広い一般的知識を援用しながら体系的に理解し説明できるようにします。

2. 情報を扱うためのスキル

人工言語（プログラミング・数学など）、自然言語（日本語・外国語）を用いてコミュニケーションを行うスキル、データを扱うスキル、情報ツールを利用するスキル、デザインや創造活動を遂行するスキルを身に付け、活用することができるようにします。

3. 知識体系に基づく思考と知の創出

社会における様々な問題に対して、情報学の観点から自分の持つ知識や技能を統合し、論理的思考プロセスと創造的思考プロセス〈調査・分析・仮説生成・創造・表現・説明・評価・改善〉を実行し問題解決することができるようにします。

4. 学修における態度、および志向性

社会における多様な価値観、人間と地球環境の関係性などによる問題の多面性を考慮した上で、社会的責任と倫理観を持ちつつ他者と協働し、よりよく生きるためのデザインとして取り組むことができるようにします。また、それらに関する知識・技能を自ら学習することができるようにします。

★情報学の各分野で必要とされる能力

本学部の「プログラム」では、情報学の様々な領域に応じた能力を具体的に示し、身につけられるカリキュラムを用意しています。詳しくは、各プログラムの学修・教育目標を見てください。

4項目と、本学部の必修科目・選択必修科目との関連をカリキュラムマップとして用意しています。授業での学びを通して、これらの能力が徐々に身に付いているか、卒業まで、自ら確認していくようにしましょう。

●カリキュラムとDPとの対応表（カリキュラムマップ）

DPの項目ごとに、主としてどの科目で修得すべきか理解できるようにするために、本学部の必修科目・選択必修科目との関連をカリキュラムマップとして示します。

●DPの達成度評価のためのルーブリック

DPの項目ごとに、達成レベルを数段階で示したもの。本学部では「最初のレベル」、「修了のための最低レベル」、「より高度なレベル」などで表記し、入学時からどのようにレベルアップしていけばよいか、学生が理解できるようにしています。

●学修ポートフォリオ

学生が学習成果をまとめたもの。修了能力認定に向けて、DPの項目ごとに整理して、能力の修得状況の証拠となるようにします。

2つのコース

コース制の概要と意義

現在の日本の大学では、卒業時までには学生たちが「何を身につけ、何ができるようになるのか」を学位授与の方針(ディプロマポリシー: DP)で示し、それを成し遂げるような教育カリキュラムを用意して、皆さんの学修を導いていきます。情報学の学びの範囲は広く、情報学を学んだ学生に期待される能力とそのレベルも多様です。本学部では、2019年度入学生からのカリキュラムにおいて、能力の達成目標レベルに応じて、SコースとDコースの2つのコースを置くことにしました。

皆さんは、1年次では共通の教育課程で学び、2年次からはいずれかのコースに属して、卒業時までにはコース毎に指定された卒業要件を満たすように学修しなければなりません。その際、必要となる科目を修得するだけに留まらず、コース毎に求められている水準以上に能力を高めていかなければなりません。4年次には学生自らが、自分の能力が水準以上に達していることを、それまでの学修成果を利用して教員に説明し認めてもらう、修了能力認定という科目がコース毎に用意されています。その際の認定基準を、コース毎に用意しています。

ここで注意してほしいのは、本学部の2つ

のコースは、まったく別の能力を身につけるものではなく、共通の能力の習得を目指した上で、達成目標レベルの高さに差があるということです。高いレベルを目指して重点を置く能力を指定しますが、決して、他の能力を軽視して欲しくはありません。

具体的に例をあげて示します。DP3(知識体系に基づく思考と知の創出)には、自分の持つ知識や技能を統合して問題解決していく思考の型として、「論理的思考プロセス」と「創造的思考プロセス」が示されています。いずれも、その思考の型は基礎的なスキルに支えられており、1年次の共通必修科目で基礎レベルのスキルを修得できるようになっています。2年次以降、Sコースでは「論理的思考プロセス」をより高度なものとするカリキュラムが組み立てられ、一方、Dコースでは「創造的思考プロセス」をより高度なものとするカリキュラムが組み立てられています。3年次のプロジェクトなど、総合的に問題解決活動を行う演習では、高度なレベルのスキルを積極的に活用することが求められますが、チームの中でより良い解決案を導いたり、より効果的なチーム活動を行うために、基礎的なレベルのスキルが役に立つ場面が必ずやってきます。

ている学問分野」「情報に関連する職業像」にあわせて専門性を高めることができる教育カリキュラムとなっています。卒業時にプログラム修了要件を満たせば、プログラム修了認定が行われ、卒業証明書に記載されます。プログラムには、主専攻に相当する6つの大きな「プログラム」と、副専攻に相当する3つの小さな「副プログラム」があります。大きな「プログラム」は、コース毎に選べるものが異なります。

プログラム修了要件を満たさなくても卒業することはできますが、大きな「プログラム」に対応している2年次後期の「応用演習」は選択必修科目であり、いずれかの応用演

習を修得しないと卒業できません。そのため「プログラム」は、2年次の科目選択における学修指針と見なすことができます。

Q&A

Q コースはいつ選択するものですか？

A 2年次よりコースに分かれます。1年次の学期中にガイダンスを実施して、コースの申し込み時期を指示します。

Q プログラムはいつ選択するものですか？

A 各プログラムに対応している応用演習(2年次後期選択必修科目)を選択することが、修了を目指すプログラムを選ぶことにつながります。コースと同様、1年次の学期中にガイダンスを実施して、応用演習の申し込み時期を指示します。副プログラムは、必要な科目を修得することで認定されるもので、特に申し込みは必要ありません。副プログラムごとに、どの学年から学習をスタートすべきか異なるので、ガイダンスで確認するようにしてください。

Q 希望したコース/プログラムは必ず選択できますか？

A 関連する演習科目に履修者数の上限があるため、希望者数が偏ると選択できないことがあります。その場合は、主として成績によって選抜されますので、1年次の学修を怠らないようにしましょう。

Q 一度、選択したコースを変更することはできますか？

A コース変更願いを提出して、認められれば変更することができます。認められた場合、コースの変更は、翌年度の4月からとなります。詳しくは、教務課窓口で確認してください。

コースとプログラム

T型、あるいはΠ(パイ)型と呼ばれますが、本学部での学びにおいて、皆さんが開発する能力の広がり、その中で深掘りしていく能力を考えていく必要があります。そのためカリキュラムの仕組みとして、「コース」と「プログラム」があります。

コースは、卒業要件として定められている教育カリキュラムであり、卒業するためには、いずれかのコースの要件を満たす必要があります。

プログラムは、「情報学において確立され

コース	Sコース	Dコース
選択可能なプログラム	ネットワークシステム(NS) データサイエンス(DS)	コンテンツデザイン(CD) メディアコミュニケーション(MC) フィジカルコンピューティング(PC) ITビジネス(IB)

Sコース

情報通信技術の発展に伴って、これまで機械に任せるのが不可能だと考えられてきた翻訳や運転、画像診断などが人の手を介さずに行われるようになってきました。一方で、こうしたテクノロジーによって情報がどのようにして得られたのかや、AIによる判断はどのようにして行われたのかをまったく理解できなければ、これらの情報や判断を意思決定や課題解決に際して有効に活用することはできません。また、自らが行おうとしている意思決定や課題解決にどのような情報が必要なのかということすら分からなければ、これらの情報通信技術を有効に活用することは難しいと思われる。

以上のような問題意識にしたがって、情報通信技術の科学的理解を深めたい学生は、データと数理に基づいて問題対象を分析し、モデル化により解決策を考案し、その有効性をプログラミング等の手段で確認できることをめざして、Sコースは開設されました。

Sコースの「S」は、System, Simulation, Scienceの3つの能力を表しています。これら3つの能力は特定の科目を履修すれば身につく能力ではありません。そこで、Sコースでは数学系の科目やデータ解析に関する科目を学ぶことに加えて、基礎演習Sや応用演習、高度演習においても、表計算ソフトやプログラミングなどの実習を通じて、より深い理解を得る機会を用意しています。

System … 現象を表面的に理解するだけでなく、背後にある相互に影響を与え合う要素や体系、制度、組織、メカニズムも理解できる。

Simulation … 現実のシステムの挙動や結果をモデルを用いて再現・予測することができる。

Science … 科学的、論理的に思考することができる。

	1年次	2年次	3年次	4年次	必要単位数
コース必修科目		基礎演習S(4) 応用演習(4)		修了能力認定S(1)	9
数理系基礎科目	数理リテラシー、線形代数、基礎解析、プログラミングと数理 左記4科目から2科目以上				4
コース選択必修科目		アルゴリズムとデータ構造1、情報数学1、アルゴリズムとデータ構造2、情報数学2、幾何学概論、データ解析1、データ解析2 上記7科目から3科目以上			6
高度演習			コンピュータサイエンス演習1 コンピュータサイエンス演習2 データサイエンス演習1 データサイエンス演習2 情報数理演習1 情報数理演習2 上記6科目から2科目以上		4
合計					23

※Sコースに進みたい学生は1年次に、数理系基礎科目の選択必修科目群(プログラミングと数理、数理リテラシー、線形代数、基礎解析)から2科目以上履修することが推奨されます。

※高度演習の履修要件は35ページを参照のこと。

Dコース

情報通信技術の応用分野が広がるにつれて、これまでは計算することや情報を集積・検索することが中心であったコンピューティングの世界が、人と人とを繋げて社会問題を解決することや安全な社会をサポートすることなどに広がってきています。

情報通信技術によって社会をより安全で快適なものにしていくには、基礎的な技術の進歩も重要である一方、問題を発見し、その問題に我が事として関与し、試行錯誤しながら改善を継続していくことが必要です。Dコースは、このような問題認識に基づき開設されたコースです。

Dコースの「D」は、発見(Discovery)能力、デザイン(Design)能力、実証(Demonstration)能力の3つの能力を表しています。これら3つの能力は、統計学やプログラミング、コンテンツ作成、インタビュー、電子回路、Webサービスなどの基礎的な知識・技術を習得した上で初めて獲得されるものです。

発見能力: 情報通信技術の基礎的な知識を活用して問題を発見する能力

デザイン能力: 問題を解決に導くために必要なプロセスを設計する能力

実証能力: 設計したプロセスに基づき実際に行動し、その結果を発信する能力

Dコースの教育目的は、鋭い視点で問題を見抜き、改善に積極的にチャレンジすることで新たな社会的価値を創造することができる人材を育てることです。プログラムとして、コンテンツデザイン、メディアコミュニケーション、ITビジネス、フィジカルコンピューティングの4つを擁し、それぞれの領域でプロフェッショナル教育を行います。4つのプログラムでは、いずれも具体的な社会問題に対峙する実践的な応用演習を用意しています。

	1年次	2年次	3年次	4年次	必要単位数
コース必修科目		基礎演習D(4) 応用演習(4)	フィールド演習(2)	修了能力認定D(1)	11
数理系基礎科目	数理リテラシー、線形代数、基礎解析、プログラミングと数理 左記4科目から1科目以上				2
コース選択必修科目		オブジェクト指向技術、企業情報システム、グラフィックデザイン、コンテンツ産業論、情報システム開発概論、情報デザイン、認知科学、ネットワークコミュニケーション、フィジカルコンピューティング、地域とメディア、ユーザインタフェース、教育とメディア、経営分析、ネットワークとマーケティング 上記14科目から5科目以上			10
合計					23

※Dコースに進みたい学生は1年次に、数理系基礎科目の選択必修科目群(プログラミングと数理、数理リテラシー、線形代数、基礎解析)から1科目以上履修することが推奨されます。

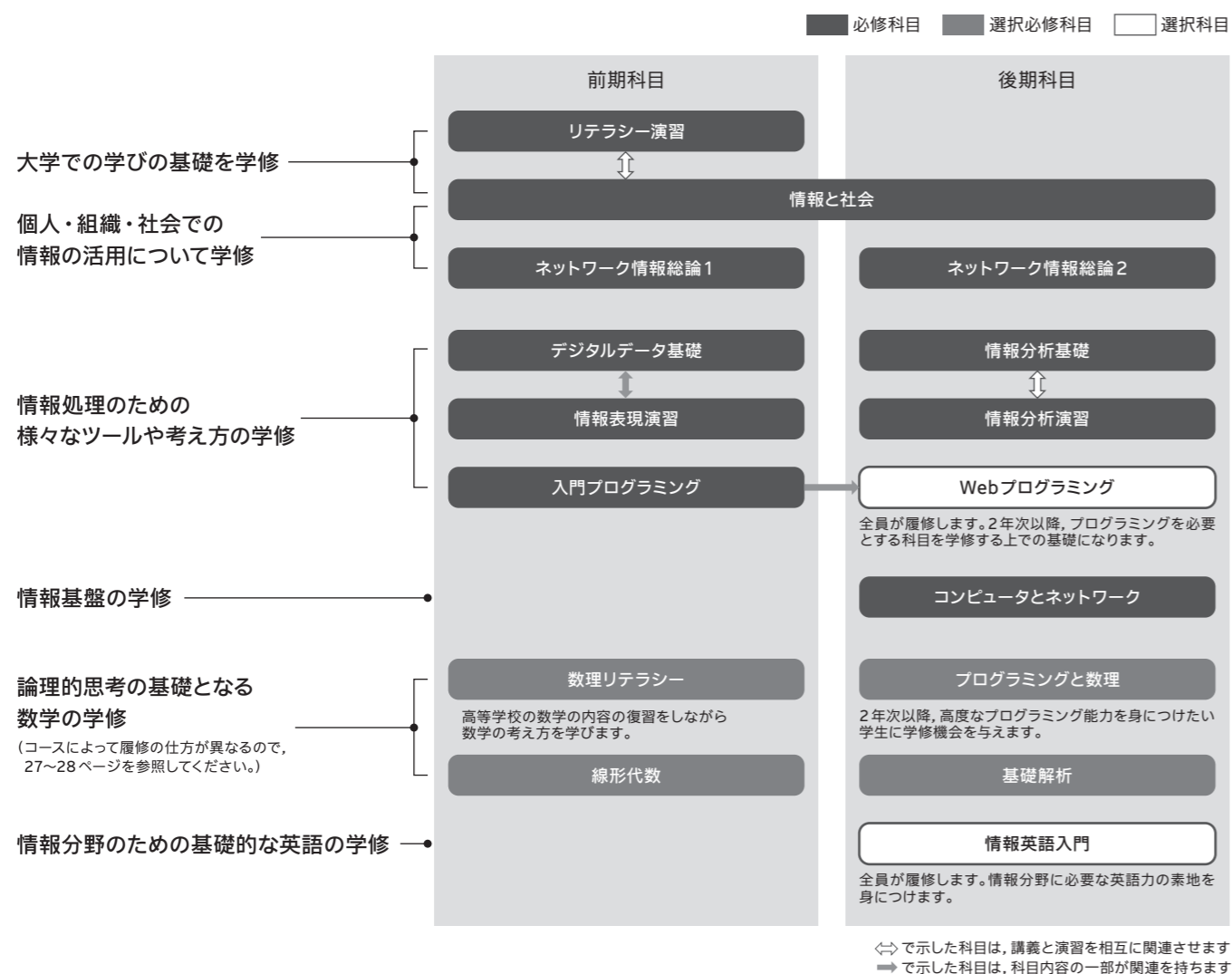
情報学の基礎を作る1年次

ネットワーク情報学部では、皆さんが情報学の基礎を幅広く学べるように、1年次に10科目(20単位)の必修科目を用意しています。これらの科目内容は、2年次以降の専門科目の基礎となる科目ですので、どれもおろそかにすることはできません。数学に関連する科目は、基礎的な「数理リテラシー」を標準としますが、高等学校で数学を十分に学習してきた学生は、線形代

数、基礎解析を最初から学ぶことができます(数理リテラシーは、線形代数、基礎解析を履修するための前提条件ではないのと同時に履修することもできます)。他に、「情報英語入門」と「Webプログラミング」は必修科目といい、全員が履修します(単位修得が必須ではありません)。

コンピュータやインターネットを用いて情報処理をするためには、その動作原理、情報処理を活用する対象(個人・組織・社会)の理解、情報処理をさせるために必要となる論理的思考のツールなど、文系・理系にまたがる幅広い知識やスキルを身につけな

ければなりません。多くの学生にとって、すべての科目が得意であることは難しいことですが、友達同士教えあって、お互いの能力を高めるように努めましょう。



大学での学びの基礎を学修

個人・組織・社会での情報の活用について学修

情報処理のための様々なツールや考え方の学修

情報基盤の学修

論理的思考の基礎となる数学の学修
(コースによって履修の仕方が異なるので、27~28ページを参照してください。)

情報分野のための基礎的な英語の学修

情報利用者の視点から情報サービス提供者の視点へ

1年次生の中には、「情報学を学ぶこと=パソコンやインターネットの使い方を学ぶこと」と単純に考えている人が多くいます。このような知識は、どの専門分野でも求められる基礎的な情報リテラシー能力であり、情報学を専門とするネットワーク情報学部生にとっては、さらに進んだ能力が求められています。皆さんが便利に使っているインターネット上の様々なサービスは、誰かが企画し、誰かが実際に

作成しています。またそのサービスでは、皆さんが利用した履歴が残され、その履歴データから、さらに皆さんにとって便利なサービスへ改善されていきます。ネットワーク情報学部を卒業する学生に求められる能力は、このような社会生活全般で役立つ、インターネットや情報を活用した新しいサービスを創出し提供することなのです。

個人・組織・社会での情報の活用についての学修

企業のような主として営利を目的とした組織体、生活を営む個人、共同体である社会いずれもが情報に基づいて行動しています。またネットワークを通じて情報を交換・共有することで、より良い行動をするように努めています。この分野に関

連する科目では、具体的に個人・組織・社会で、どのような情報を扱い、どのような情報技術を活用しているのか、そしてそこにどのような職業があり、そのためにはどのような能力が必要になるのか学修していきます。

情報処理のための様々なツールや考え方の学修

個人・組織・社会での問題を、実際にコンピュータで処理をして解決する際に必要となるのが、データや情報の分析をするための統計的な手法、コンピュータに動作の命令をするためのプログラミング、情報を人間のわかる形に表現するた

めの情報表現、コンピュータがデータを取り扱うためのデジタルデータ表現の知識です。講義だけではなく演習科目をセットにすることで、知識だけではなく、コンピュータソフトを使って活用できるスキルも身につけます。

情報基盤の学修

情報処理の様々な手法を学んだとしても、実際のコンピュータやネットワークの能力や可能性を知らなければ、実際に考えた問題解決手法やサービスを展開でき

ない可能性があります。コンピュータとネットワークの動作原理を知り、そこからどのようなことができるものなのか理解できるようにします。

論理的思考の基礎となる数学の学修

コンピュータは、論理的な計算のもとに動作するものです。人間がやらせたい仕事をコンピュータにさせるには、人間がまず論理的な思考方法を身につけて、それを元にコンピュータへ仕事の命令をし

ていく必要があります。本学部では、高等学校での数学学習履歴に応じて学修できるよう、より基礎的な内容からスタートする数理リテラシーという科目を用意しています。

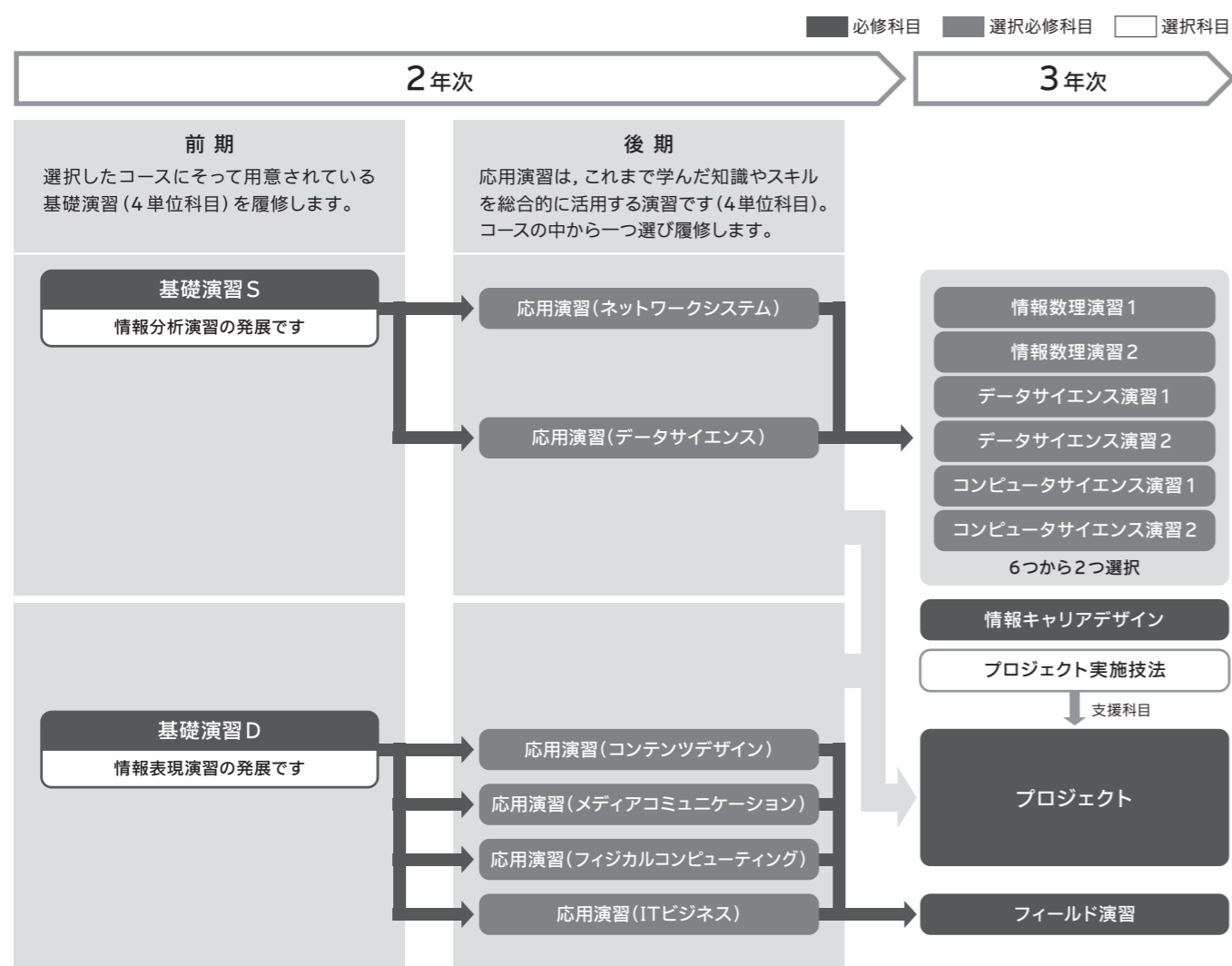
2年次への進級要件

以下の指定科目から22単位以上修得していること。
 専修大学入門ゼミナール(2単位)、あなたと自然科学(2単位)、スポーツリテラシー(1単位)、スポーツウェルネス(1単位)
 必修科目(10科目20単位)、選択必修科目の数理系基礎科目(4科目8単位の中から2単位のみ充当)
 Webプログラミング(2単位)、情報英語入門(2単位)

基礎演習, 応用演習 (2年次選択必修演習科目)

2年次からコースに分かれて学修します。2年次前期の基礎演習ではそれぞれのコースの基礎となる情報処理のスキルを高め、さらに後期の応用演習ではそのスキルを総合的に活用できるようにしていきます。身につける能力は、3年次の演習プロジェクトを遂行するために必須となるものです。また、コースご

との3年次の演習科目でさらに発展的な学修につなげます。基礎演習, 応用演習の目標は高いので、時間外の学習時間も多く必要となってきます。単なる一つの授業と考えずに、自分の持てる力と多くの時間を割いて、自らの能力を磨いていきましょう。



- 「プロジェクト」を履修するためには、基礎演習または応用演習のうち、1科目以上単位修得していなければなりません。
- Sコースを選択する人は基礎演習Sを、Dコースを選択する人は基礎演習Dを履修します。
- Sコースの修了には、ネットワークシステム、データサイエンスの2つの応用演習のうち1つを、Dコースの修了には、コンテンツデザイン、メディアコミュニケーション、フィジカルコンピューティング、ITビジネスの4つの応用演習のうち1つを修得する必要があります。
- プログラムを修了したい学生は、括弧内に修了したいプログラム名がある応用演習を履修してください。
- 3年次には各コースの発展的な演習科目があります。コースを修了するためには、それらの演習も修得する必要があります。Sコースの高度演習の履修要件は35ページを参照すること。
- 各自が関心のあるテーマやプログラムの内容について深く学修・研究するために、2年次以降のテーマ実習、4年次の卒業演習が用意されています。
- 基礎演習, 応用演習は、3年次以降二つ目を履修することができますが、コースとの関係や履修人数に条件が設定される可能性があります。詳しいことはガイダンスを実施して説明します。

2年次の演習科目に関連するスケジュール

以下はおおよそのイメージです。実際には、時期や内容が変更される可能性があります。

1年次

7月下旬

第1回説明会

コース制, プログラム, 基礎演習, 応用演習の関係について説明があります。希望のコースで学ぶために準備すべきことについて説明します。

11月上旬

第2回説明会

コースやプログラムのカリキュラムおよび内容について詳しく説明します。コースとプログラムの申し込み方法について説明があります。

この間に、オフィスアワーに行ったり、応用演習を見学する機会が設けられます。

11月下旬

希望するコースとプログラムを申し込みます。

1月下旬

第3回説明会

基礎演習および応用演習の履修者が決定します。履修することになった基礎演習ごとに春休みの事前学修が提示されます。(応用演習については、もう少し遅い段階で確定させる可能性があります。)

春休み

基礎演習の事前学修

2年次

前期

基礎演習の授業

7月中旬

応用演習の事前学修の提示

夏休み

応用演習の事前学修

後期

応用演習の授業

プロジェクト（3年次必修科目）

「プロジェクト」とは、あるテーマに対して担当教員（複数の場合もあります）と9名程度の学生がグループ（チーム）を組み、1年間かけて研究・開発の共同作業を行うもので、3年次の必修科目です。

「プロジェクト」では、問題の設定及び問題解決のプロセスの立案と遂行すべてに対して、学生たちが主体的に関与するという点で大きな困難を伴います。困難を乗り越えてやり遂げることで、大学時代の学修の一つの集大成となる科目です。

5つの目的

- ネットワーク情報学部では、プロジェクトという科目を以下のようにとらえています。
1. 学生・教員から提案された多様なアイデアに基づいて、問題発見・テーマ設定を行い、[創造性、問題解決型]
 2. 調査、分析から実践、評価、報告に至るスケジュールを設定し、[総合的な能力の開発]

3. 諸学術の理論やテクニックを活用して、[横断的な知識の再編成]
4. 主として共同作業によって[情報の共有、活用とコミュニケーション]
5. 調査や研究、作品制作を行い発表する。[成果物の公開]

テーマが決まるまで

2年次の夏休み前後から、次年度プロジェクトのグループとテーマを決めるための準備が始まります。具体的な学修内容が事前に定められていないことがこの科目の特徴です。「1年間かけてどのようなテーマを自分は追究したいのだろうか」と自問するところから、皆さんのプロジェクトは実質的に始まると言っても良いでしょう。個人的に関心の深いテーマが授業内容として公認され得るという意味で、大学生活の中でも希少な機会の1つだと思います。

やりたいテーマが決まったとしても、それに賛同してくれる仲間や担当する教員が見つからなければグループが成立しません。賛同者を募るには多くの人にアピールする必要があります。しかし、例えば、自己主張ばかりで協調性がないと人は集まってくれないでしょう。また多くの仲間が集められても、大学の科目内容としての価値が認められない場合も成立しません。教員や外部組織からもいくつかのテーマが出され、最終的には20強のテーマが決定されます。

メンバーとしての心構えと養う能力

プロジェクトテーマは、何らかの目的を果たすために、必要な機能や価値をソフトウェアやコンテンツとして実現したい、あるいは、ある事柄や現象を深く知るために調査・実験・分析したいという皆さんの欲求から出発したものであり、既存の1つの学術分野に収まることは少ないでしょう。必要に応じて様々な理論やテクニックを自ら探し、それらを統合的に活用する必要があるでしょう。アイデアを出し、工夫しながらグループワークに積極的に関わり、皆さんの個性と強みを最大限に生かしてください。

調査、分析から実践、評価、報告に至る活動を確実に進めるための計画や進捗管理、そして適度で公正な役割の分担といった組織運営も各グループに任されています。共同作業な

ので、何より各人が責任感を自覚し、決められた仕事を期限内に仕上げるよう努力すること、そして、チームワークや人間関係も成果を左右する大きな要因でしょう。この点で（教員も含む）メンバー間の円滑なコミュニケーションを図ることも大切です。このような能力を高めてもらうこともこの科目の狙いです。

最終成果物は、外部からの一般参加者も含めた発表会やWebサイトなどで公開します。学部の教育内容や雰囲気を外部的に広く知ってもらおうとともに、学外からの意見やアドバイスを直接得られる機会ともなります。皆さん一人ひとりが学部を代表しているのだという自覚と、最後までやり抜くという気概をもってプロジェクトに参加してもらいたいと思います。

プロジェクトのスケジュール

2年次

11月

テーマの募集

プロジェクトでは、テーマの異なる20余りのグループが作られます。どのようなテーマでプロジェクトを実施するかは、学生が提案するもの、教員が提案するもの、外部組織が提案するものな

どがあります。3~5名程度の起案者による学生テーマは、担当教員が見つければ提案することができます。

12月~1月

メンバーの募集

プロジェクト募集委員会に認められたテーマを掲示し、参加学生を募集します。9名程度の学生が集まれば、メンバーが決定されます。メンバー決

定後は、春休み期間から、自主的に調査・学修活動を開始するプロジェクトも多く見られます。

3年次

4月~7月

プロジェクトの具体的な企画内容の策定

テーマに基づいて、現状調査を行い、具体的な問題解決案を計画していきます。調査を行う過程で、テーマをより具体的に絞っていきませんが、より本質的な問題は何か、実行可能な対象は何か

のかを考えることで、予定していたテーマを見直すこともあります。策定した企画は、7月下旬に行う中間発表会で、公开发表をして、様々な人に意見をもらいます。

8月~11月

企画の具体的な実現

中間発表会で得られた意見を元に企画を修正し、その後、具体的な実現手段を検討していきます。コンピュータとネットワークを利用し実際に使用できるシステムを構築することもあれば、ビジ

ネスプラン、空間設計、説明動画など多様な成果物の表現方法が考えられます。アイデアを最も効果的に示す手段を選んで実現していきます。

12月~3月

成果の外部への発表と公開

12月には、キャンパス内で公开发表会を開き、在学生全員、企業などの外部の人に成果を説明します。発表会に来られない人たちのために、Webサイトに同時にその内容を公開します。学生たち

の自主的な展示発表会である「コウサ展」や学会での発表、各種展示会での発表、社会での実証実験など、様々な機会で自分たちの成果を示していきます。

プロジェクトのテーマ

過去のプロジェクトのテーマは学部のWebサイトに公開しています。プロジェクトのテーマはそのときどきの旬の内容を扱っています。過去のテーマは参考になるかもしれませんが、皆さんがプロジェクトのテーマを考えるときには新たな気持ちで考えることになるはずです。

高度演習

高度演習とは、Sコースの3年次生向けに選択必修科目として用意されている科目です。2年次までに学修した知識とスキル(特に、論理的に情報を扱うスキル)を積極的に活用することで、

一連の問題解決プロセス(問題の発見・分析、創造的な解決案を設計・表現・説明、解決案の実施・評価・改善)を、学生が能動的に実行できるようにします。

	特に関連する「論理的に情報を扱うスキル」	事前に修得されていることが期待されている科目
コンピュータサイエンス演習 1, 2 (セットで履修)	プログラミング思考 システム・モデル思考	入門プログラミングに加えて、それより上級のプログラミング科目から1科目以上 アルゴリズムとデータ構造1・2、情報数学1・2の中から2科目以上
データサイエンス演習 1, 2 (セットで履修)	データに基づく思考 システム・モデル思考	いくつかの科目を指定
情報数理演習 1, 2 (片方の履修も可)	数理的思考 システム・モデル思考	いくつかの科目を指定

Sコースの修了要件(高度演習) 2科目4単位以上を修得すること。

履修前提: 基礎演習S, 応用演習(ネットワークシステムまたはデータサイエンス)の中から1科目以上, 単位修得していること。

修得を目指すプログラムにかかわらず希望する高度演習を履修できますが、修得を期待されている科目を理解している前提で進めます。したがって、2年次までにそれらを修得するよう

にしてください。

履修前年度に開かれるガイダンスで、申し込み方法が指示されます。

フィールド演習

Dコースで重視している3D, すなわち発見(Discovery)能力, デザイン(Design)能力, 実証(Demonstration)能力は、この一連の流れを繰り返し実践することで獲得できるものです。

フィールド演習はDコースの必修科目で、基本的に個人が主体的に進める演習です。ただし、完全に個人というわけではなく、演習スタッフや級友と協力し合いながら3Dを回していきます。Dコースにおける学修の総まとめ的役割を持つ演習です。

解決すべき問題は「フィールド」で見つけます。ここでいうフィールドとは、「問題の存在する領域」のことで、特定の場所であったり、コミュニティであったり、動植物の生態であったりします。フィールド演習では実際に観測や実験ができるフィールドを重視します。履修者は自身をフィールドに投じて、時に観測者

となり、時に実践者となり、時に被験者となり問題に対する洞察を深めます。

具体的には、以下のような活動を想定しています。

- 専修大学万葉植物園を再生する
- 学内に学生運営カフェを作る
- 多摩川の在来生物を守る
- 地元小学生対象のプログラミング教室を開催する
- 自費出版「専修大学生田キャンパスに住む生物」

演習の期間は通年で、隔週に演習時間が設定されています。ただし、演習時間には全体説明や進捗確認などを行い、実際の活動は演習時間外に行います。

※Dコースの学生が高度演習を、Sコースの学生がフィールド演習を履修したい場合については、ガイダンスで説明します。

実習・演習科目(選択)

ネットワーク情報学部では、時間をかけて、あるテーマや内容を深掘りしていく選択科目として、ITスキル実習, テーマ実習, 卒業演習を用意しています。卒業をするために修得する必要がある科目ではありませんが、通常の科目での学びでは難しい、自主的な探求をする機会となりますので、当該科目のガイダンスに

出席した上で、興味があれば積極的に履修すると良いでしょう。ただし、これらの科目は、履修人数に上限があり、希望理由によって履修の可否が決定します。適切な希望理由を述べられるように、日頃から関心を持つようにしておいてください。

ITスキル実習

授業科目の中で扱われていないITスキルを身につけるための実習科目として、ITスキル実習を用意しています。ITスキル実習は1から6まで(各1単位)ありますが、授業内容のボリュームにより、認められる単位数が異なります。毎年同じ内容のものが開講されるものではなく、

年によって用意される内容が異なることがありますので、関心があるものが開講された場合は、積極的に申し込むと良いでしょう。夏休みや春休みに集中開講されたり、別途、実習費用がかかる場合もあります。

テーマ実習

情報学の分野では、新しい技術や手法が急速に出現するので、授業科目として用意されていない内容を学修したいことが出てくるでしょう。あるいは、授業科目で扱われていた内容を、さらに時間をかけて追求したいということもあるでしょう。そのようなニーズに対応すべく、テーマ実習を用意しました。

テーマ実習は、教員の指導のもと、自主学習を進めていく選択科目です。2年次前期から4年次後期まで、半期毎にテーマ実習1~6(各1単位)が設定されています。半期毎に参加でき、学期が異なれば別の教員のテーマ実習を履修することができます。

卒業演習

指導教員の指導のもと、3年次までの学びをふまえて、4年次の1年間かけて、あるテーマについて探求し、それを何らかの成果物(論文、制作物など)としてまとめていく選択科目です。各学期末において、それまでの成果を発表し、その内容について指導教員以外の教員、他の学生と議論する機会が設けられます。単位修得するためには、その機会に参加して発表・議論を行わなければなりません。卒業演習1(前期)と卒業演習2(後期)に分かれますが、原則とし

て、連続したセットで成績評価をします。

テーマの設定、成果を得るための手法の選択と実施、成果物のまとめといった1年間の過程において、教員との対話を通して学問の奥深さや広がりについて意識でき、大学での学びの価値を感じることができるよう。

ガイダンスにおいて、教員が指導可能なテーマの範囲を示しますので、具体的なテーマを相談しながら決めていくことになります。

専門科目(選択科目)

皆さんの履修のガイドとなるように、科目をいくつかのグループに分けて紹介します。
科目間の具体的な関連は、Web 講義要項(シラバス)に記載されますので、参照してください。

- これまで専門科目として、必修科目、選択必修科目(数学科目、基礎演習、応用演習)について紹介してきました。ここでは、選択科目として履修できる科目(1科目2単位)を紹介します。
- 卒業するためには、74(Sコース)、75(Dコース)ページに示す専門科目(選択科目)の中から27単位以上修得しなければなりません。27単位を超えて修得した専門科目(選択科目)の単位は、自由選択修得要件単位として認められます。

- 特に注釈がない限り、2~4年次で履修できます(▽は2~3年次配当、▲は1~4年次配当、■は3~4年次配当)。
*がついている科目は2~4年次配当となっていますが、3年次以降履修することが推奨されます。
- 一部の科目は、前提となる知識が必要となるものがあります。
- 科目名に1,2とつけられている科目は、注釈がない限り、番号順に履修することが求められています。

モデリング方法論

コンピュータ上で様々な事象を処理できるように、数学を活用してモデル化することを学ぶ科目です。

経済のモデル(マクロ経済学)
経済のモデル(ミクロ経済学)
シミュレーション
ゲームの理論
*動的モデル
数理計画法

応用モデル

具体的な応用領域を対象として、それがどのようなモデルでシステムとなっているのか学ぶ科目です。

戦略のデザイン
*モデル分析
認知科学
■政策科学

情報と人間, 社会

情報の様々な側面が、社会の活動にどのように影響を与えているのか学ぶ科目です。

環境防災論
ネットワークコミュニケーション
コミュニティ開発論
情報と法
■学習環境のデザイン

デザイン方法論

情報を分かりやすく伝えるための方法や情報に形を与えて表現することを学ぶ科目です。

グラフィックデザイン
■Webデザイン
情報デザイン
ユーザインタフェース

コンテンツとメディア

エンターテインメント産業やネットワーク情報の内容など、人々に情報を伝えることを学ぶ科目です。

教育とメディア
メディア論
コンテンツ産業論
地域とメディア

メディア表現

出版・映像・ネットコンテンツなど様々なメディアを、目的と対象者に応じてプロデュースすることを学ぶ科目です。

メディア表現技法
映像表現
アニメーション
メディアコンテンツ制作
映像演習基礎
映像演習応用

会計と経営

企業の会計システムが、経営判断や意思決定にどのように関わるのか学ぶ科目です。

会計システム(財務会計)
会計システム(管理会計)
*財務諸表論
経営学入門1
経営学入門2
経営分析

ビジネス

ビジネス活動を理解したり、情報を活用したビジネス戦略を学ぶ科目です。

ビジネスゲーム
*ファイナンスプランニング
*ネットワークとマーケティング
マーケティング
*ビジネスプロセスデザイン
■プロジェクトマネジメント

情報システム

情報技術を活用して企業活動をサポートする情報システムについて学ぶ科目です。

サービス情報システム
企業情報システム
■情報システム管理
情報リスク管理

データアナリティクス

様々なデータを分析するために必要となる理論や手法を学ぶ科目です。

データ解析1
データ解析2
■応用確率統計
■データマイニング
質的調査法
社会調査法

数 学

数学は情報学にとどまらず、様々な学問分野でその仕組みを表すための共通の言語及び思考ツールです。

▲線形代数
▲基礎解析
情報数学1
情報数学2
幾何学概論
数学セミナー

情報英語

情報社会や情報技術について学ぶ上で必要な英語力をつけるための科目です。

▲情報英語基礎
情報英語発展(情報社会1・2・3)
情報英語発展(情報技術1・2・3)
▲国際研修1~6

ソフトウェア開発

様々なソフトウェアを開発するために必要となる技術・手法を学ぶ科目です。

オブジェクト指向技術
情報システム開発概論
フィジカルコンピューティング
■分散情報システム
データベース
*システムモデリング
応用プログラミング1, 2, 3, 4

アルゴリズム

プログラムとして計算できるようにするために必要となる手順や効率に関して学ぶ科目です。

アルゴリズムとデータ構造1
アルゴリズムとデータ構造2
■計算法論
情報理論

アーキテクチャ

コンピュータやネットワークを動かす基盤となるハードウェア及び基本ソフトウェアを学ぶ科目です。

パソコンアーキテクチャ
オペレーティングシステム
UNIX
データ通信
インターネット情報システム
フィジカルコンピューティング開発論

特殊講義

新しいテーマを取り上げた講義や演習科目です。科目名の後ろに括弧付きで実際の内容が表されます。開講内容が変わりますので、毎年確認するようにしてください。

*特殊講義
*特殊演習
*寄付講座

実習・演習

卒業演習は4年次開講科目で、指導教員の指導のもと行う演習科目です。卒業演習1は前期、卒業演習2は後期で、連続して受講することができます。

卒業演習1
卒業演習2
テーマ実習1~6
▲ITスキル実習1~6

共 通

様々な指向性をもつ学生たちにとって共通に興味を持つことができる科目です。

*プロジェクト実施技法
▽企業研修

目的指向のプログラム制

プログラム制の目的

プログラムは、情報学における典型的な学問分野、情報に関連する職業像にあわせて6つ用意されています。将来の目的にあわせて、より高度な情報学を身に付けたい学生にとって、プログラム制は有意義なものです。

6つのプログラムはコースと関連しており、Sコースに2プログラム、Dコースに4プログラムが対応しています。コースの要件を満たすと同時に、プログラムごとに指定する必修科目及び選択必修科目合わせて指定された単位数を修得すれば、それぞれのプログラムを修了することができます。

プログラムの他に、3つの副プログラムが用意されています。

情報数理副プログラムと情報英語副プログラムは、コースに関係なく情報学に関連する数学や英語の力を伸ばすことを目的としています。Basic ICT副プログラムは、ネットワークシステムプログラム以外の学生が情報通信技術の知識とシステム開発のスキルを身につけることを目的とした副プログラムです。

このページでは、6つのプログラムと3つの副プログラムを一覧できる情報を用意しています。このプログラム、副プログラムの詳細は、後述の41~55ページを見てください。

※73~76ページに示す卒業要件を同時に満たす必要があります。

プログラムを修了するためのステップ

各プログラムに対応するコースの基礎演習を履修し、各プログラムで指定されている応用演習を2年次で履修します。3年次においても受講人数に余裕がある場合は履修が認められます。

専門科目は指定された科目の中から指定された単位数の科目を履修しなければなりません。プログラムには必修科目と選択必修科目が指定されています。コースの選択必修科目と組み合わせて履修する必要があります。どのように科目を履修していくことが望ましいかは、各プログラムのページに記載しています。

応用演習は、その科目の性質上、受講人数に限りがあります。詳細は、プログラム制に関するガイダンスで示されます。ガイダンス実施の連絡がin Campusに提示されますので、見逃さないようにしてください。

プログラムで学んだことを元に、4年次の卒業演習1,2で、教員の指導のもと各自がテーマを決めて成果を出すことが期待されます。卒業演習はプログラムやコースの修了要件ではありませんが、プログラムの学修によって高められる専門性を生かす場となります。

プログラム名	Sコース		Dコース		Dコース	
	PROGRAM 01 ネットワークシステム	PROGRAM 02 データサイエンス	PROGRAM 03 コンテンツデザイン	PROGRAM 04 メディアコミュニケーション	PROGRAM 05 フィジカルコンピューティング	PROGRAM 06 ITビジネス
応用演習(4単位)	応用演習(ネットワークシステム)	応用演習(データサイエンス)	応用演習(コンテンツデザイン)	応用演習(メディアコミュニケーション)	応用演習(フィジカルコンピューティング)	応用演習(ITビジネス)
プログラム必修科目	インターネット情報システム データベース 情報システム開発概論 応用プログラミング1	データベース	Webデザイン 特殊講義(サービスデザイン) 特殊演習(デザインサーベイ)	映像表現 映像演習基礎 メディア表現技法	フィジカルコンピューティング開発論 パソコンアーキテクチャ	ビジネスゲーム ビジネスプロセスデザイン
	アルゴリズムとデータ構造1	データ解析1 データ解析2	ユーザインタフェース グラフィックデザイン 情報デザイン	グラフィックデザイン ネットワークコミュニケーション	フィジカルコンピューティング オブジェクト指向技術 情報デザイン 認知科学	企業情報システム 情報システム開発概論 経営分析
プログラム選択必修科目	アルゴリズムとデータ構造2 幾何学概論 情報数学1 情報数学2 データ解析1 データ解析2	アルゴリズムとデータ構造1 アルゴリズムとデータ構造2 情報数学1 情報数学2 幾何学概論	コンテンツ産業論 認知科学 地域とメディア 教育とメディア ネットワークとマーケティング ネットワークコミュニケーション オブジェクト指向技術 企業情報システム 情報システム開発概論 フィジカルコンピューティング 経営分析	情報デザイン ユーザインタフェース 認知科学 教育とメディア コンテンツ産業論 ネットワークとマーケティング 地域とメディア オブジェクト指向技術 企業情報システム 情報システム開発概論 フィジカルコンピューティング 経営分析	グラフィックデザイン ユーザインタフェース 企業情報システム コンテンツ産業論 情報システム開発概論 ネットワークコミュニケーション 地域とメディア 教育とメディア ネットワークとマーケティング 経営分析	ユーザインタフェース 認知科学 情報デザイン オブジェクト指向技術 コンテンツ産業論 グラフィックデザイン ネットワークコミュニケーション フィジカルコンピューティング 教育とメディア ネットワークとマーケティング
	(ここから4単位以上)	(ここから2単位以上)	(ここから4単位以上)	(ここから6単位以上)	(ここから2単位以上)	(ここから4単位以上)
	企業情報システム ユーザインタフェース 情報リスク管理	ゲームの理論 社会調査法 マーケティング 会計システム(財務会計)	質的調査法 特殊講義(マニュアルライティング) 特殊演習(ワークショップ)	メディアコンテンツ制作 コミュニティ開発論 情報と法 マーケティング Webデザイン	データ通信 分散情報システム コミュニティ開発論 アルゴリズムとデータ構造2 情報リスク管理 特殊講義(人工知能入門)	システムモデリング プロジェクトマネジメント ファイナンスプランニング
	(ここから2単位以上)	(ここから6単位以上)	(ここから2単位以上)	(ここから2単位以上)	(ここから4単位以上)	(ここから4単位以上)

Sコース NSは、応用演習の他に、プログラム必修科目と選択必修科目合わせて16単位以上
DSは、応用演習の他に、プログラム必修科目と選択必修科目合わせて14単位以上

Dコース 応用演習の他に、プログラム必修科目と選択必修科目合わせて18単位以上

各プログラムのマップ図に掲載されている
コース選択必修科目

副プログラム名	副プログラム		
	副プログラム 01 情報数理	副プログラム 02 情報英語	副プログラム 03 Basic ICT
副プログラム認定のための必修科目	基礎解析 線形代数 応用確率統計 情報理論 数理計画法 情報数理演習1,2 数学セミナー	情報英語基礎 国際研修1 国際研修2	
副プログラムの認定のための選択必修科目		情報英語発展から 4単位以上	プログラミング系 関連科目から 4単位以上
		教養科目の指定された 英語科目から 2単位以上	情報通信技術/ 情報システム関連科目 から10単位以上

Question & Answer

Question 1 プログラムを修了しなくても卒業できますか?
はい。73~76ページに示す卒業要件を満たせば卒業できます。

Question 2 プログラムを修了したことを示す証拠が用意されますか?
卒業証明書、成績証明書に記載されます。

Question 3 卒業演習の演習内容は、どのようなものでも良いのでしょうか?
3年次までに学んだことを活かせるように、指導教員と相談して決めていきます。

Question 4 2つのプログラムを修了することができますか?
はい。そのためには、3年次以降にもうひとつの応用演習を履修しなければなりません。応用演習には、履修人数の上限がありますので、履修希望が多い場合は2つめの応用演習を履修できない可能性があります。

ネットワークシステムプログラム

ネットワークを介して様々なコンピュータが結合し、データベースに蓄積された大量のデータをやりとりしながら、サービスを展開していく現代のIT技術を広く理解し、それらを活用した情報システムを開発する能力を身につけられるよう、コンピュータサイエンスの基礎を、体系的かつ実践的なカリキュラムで学びます。さらに、サービスを提供する側と利用す

る側の2つの視点から、便利で安全なシステムを考案・開発できるようにするため、企業・社会・人間を理解する関連科目を学ぶとともに、ソフトウェア開発現場に近い環境でチームによる実践的な演習も行います。セキュリティや人工知能を学ぶ発展科目も用意しています。

学修・教育目標

- 1 組織や社会の問題を解決するために、情報システムで何ができるのかを説明できる。
- 2 情報システムを支える情報通信技術 (ICT) の原理を理解し、説明できる。
- 3 情報システムの実現手段としてのプログラミングの利点と問題点について理解し、説明できる。
- 4 情報通信技術を適切に利用して、組織や社会の問題解決に資する情報システムを設計・実現できる。
- 5 より良い情報システムを開発するために必要とされる論理的思考能力、コミュニケーション能力及び開発プロセスを計画し実行する能力を身につける。

1年次で学んでおいた方がよいこと

必修および必修科目の内、2年次以降の学びのために重要な科目は、「入門プログラミング」、「Webプログラミング」、「コンピュータとネットワーク」(情報通信技術)、「ネットワーク情報総論1」(情報システム)、「デジタルデータ基礎」(デジタルデータの取り扱い)、「情報分析基礎」

(統計データ等の取り扱い)です。数理系選択必修科目の中では「プログラミングと数理」が必要となります。「数理リテラシー」の内容を確実に理解し基本をおさえることが優先されますが、余裕があれば「線形代数」の履修をしておくといでしょう。

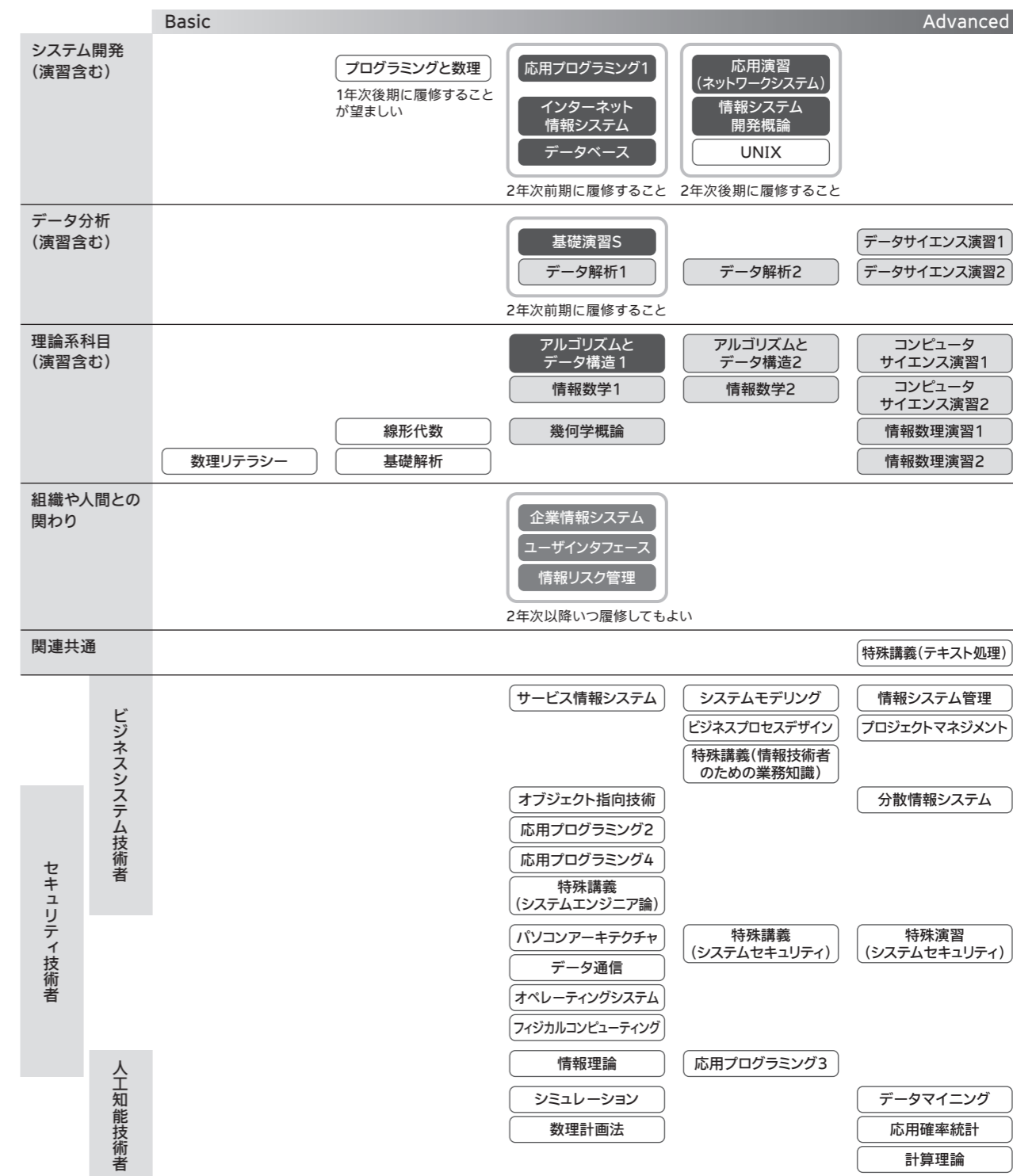
プログラムでの学びのポイント

これからのIT技術者にとって、セキュリティ、人工知能への理解も必要となってきます。そのため、「ビジネスシステムエンジニア」、「セキュリティエンジニア」、「人工知能エンジニア」の3つの学修体系を用意しました。科目MAPを参考に、一つの分野を深く学修する、複

数の分野をまたいで広く学修するなど、将来のビジョンにあわせて多様な学修ができます。上級の科目を履修する上で、その基礎となる科目を修得することは欠かせません。体系を理解した上で、どの学年で何を学ぶべきか考えていくことが大切です。

科目MAP (ネットワークシステム)

■ Sコース必修科目/プログラム必修科目 ■ プログラム選択必修科目
 □ コース・プログラム選択必修科目 □ プログラム推奨科目



卒業後の進路例

システムエンジニア、ソフトウェア開発・ネットワーク・データベース・セキュリティなど、情報処理技術者試験の対象となる技術者が考えられます。また、情報系大学院に進学し、さらに専門性を高め、より高度なソフトウェア・人工知能・セキュリティ関連技術の開発者となるのが考えられます。

データサイエンスプログラム

インターネットが普及して、様々な人やモノがつながり、人々のつばやきから日々の行動まで膨大なデータの蓄積が始まっています。このようなビッグデータの時代の中で、現代の企業・政府では、データに基づいた戦略的な意思決定の成否が重要になっています。そのため、情報を分析する統計的手法、データベースやアルゴリズムといった情報をハンドリン

グする手法、経済や経営の知識を踏まえて仮説の立案・検証を行う手法それぞれに精通した人材に対する社会的ニーズが高まっています。数理的な能力と社会科学の知識を兼ね備え、AI(人工知能)やデータを駆使してビジネスやNPO、スポーツの分野で価値を創造する人材を育成します。

学修・教育目標

- 1 個人の行動から企業や組織(政府自治体やNPO)の戦略、さらには経済や社会全体が動く仕組みの概要を理解できる。
- 2 統計学など(データアナリシス)のデータを扱う理論の基礎を理解し、実際のデータを分析することができる。
- 3 大規模データを加工・処理するための情報学・コンピュータの基本的なスキルを理解し、実行する能力を身につける。
- 4 企業活動や公共政策など多様な分野の課題を把握し、データに基づいた意思決定を行い、社会で新たな価値を生み出すことができる。また、社会で新たな価値を生み出すためにはどのようなデータを収集し、どのように分析を行えばよいのかが分かる。

1年次で学んでおいた方がよいこと

基礎となる科目は社会の課題解決と情報システムとの関わり合いを学ぶ「ネットワーク情報総論1」、統計解析の初歩を学ぶ「情報分析基礎」、情報分析を実際に体験する「情報分析演習」です。データの分析にあたっては高度な数学的知識は必要ではありませんが、高等学校文系程度の数学力が必要ですので、1年次のうちに数理系基礎科目を履修することを勧め

ます。また、ICTをとりまく社会や経済、企業の動向に関心を持つことが重要です。1年次のうちに社会科学基礎科目を履修することを勧めます。卒業演習のテーマを考える上でも、ビジネスや社会の課題を把握するためにも、平日頃からニュースなどで社会の動向を把握し、自ら調べ、深く掘り下げて考えることを勧めます。

プログラムでの学びのポイント

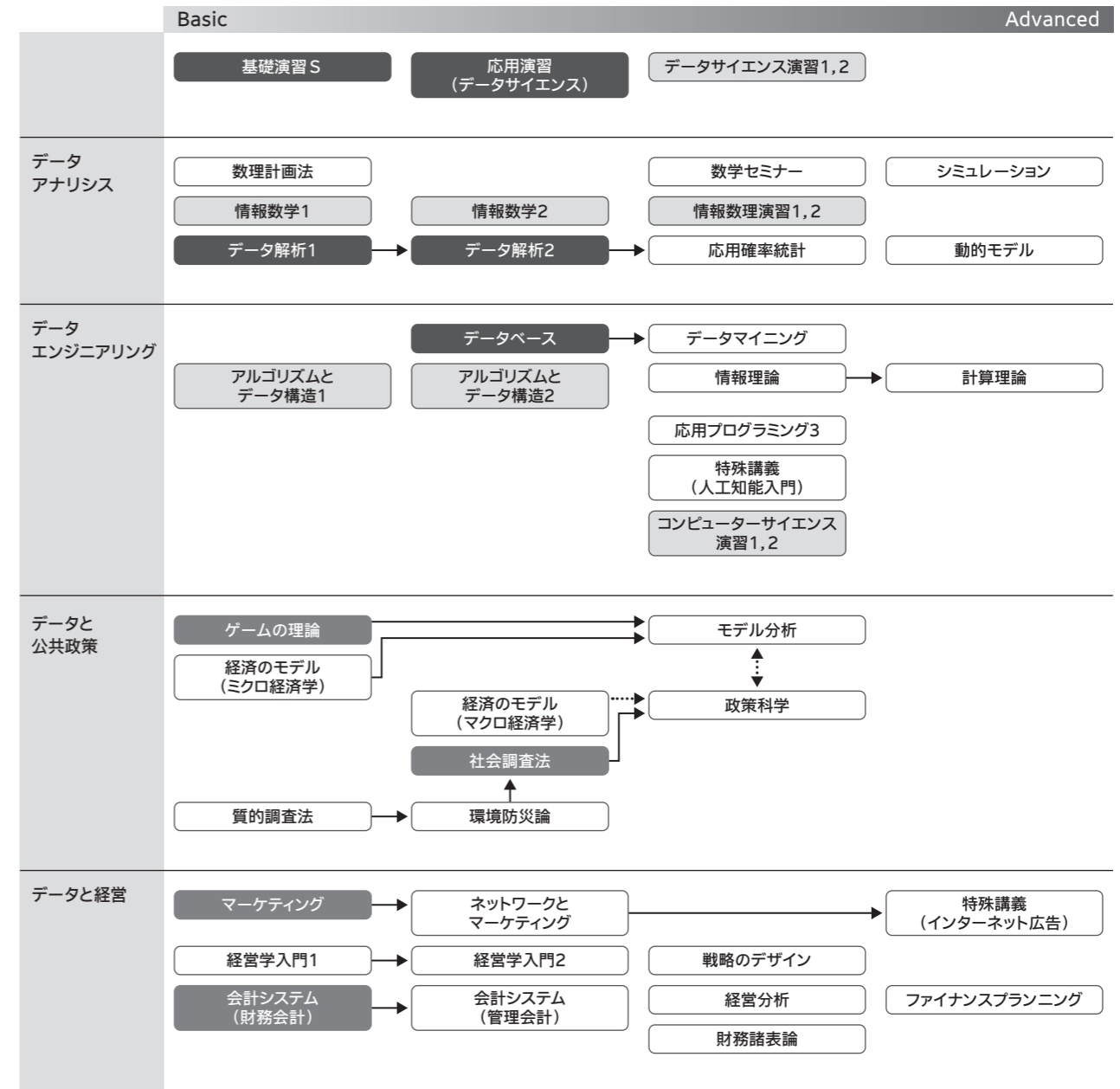
このプログラムでは単に統計に関する知識やデータをハンドリングする技術を学ぶだけではありません。データに基づく意思決定を行うには、どのようなデータを集めればよいのかを考えた上で仮説を立案することが必要です。また、分析結果から具体的な戦略を考えることが必要です。これらの能力を身につけるには講義を聞くだけでは不十分で、自らコンピュータを操作してデータに触れ、分析

を行い、提案を実際に行うことが必要です。演習では実際の企業のデータを積極的に収集して株式投資に関する意思決定を行ったり、社会調査のデータをもとにした分析を体験したりしています。なお、株式投資やマーケティング、政策立案といった実際の現場で活躍する人やデータサイエンティストの方をお招きして評価に加わっていただくなど、実務により近い環境で評価を受けるようにしています。

卒業後の進路例

科目MAP(データサイエンス)

■ Sコース必修科目/プログラム必修科目 ■ プログラム選択必修科目
 □ コース・プログラム選択必修科目 □ プログラム推奨科目



経済学部・経営学部の経済・経営・会計学科目 など

データサイエンティストを目指す道もありますが、それ以外でも文理両面の知識と技術を備えた人材、情報も学んだ上で社会やデータ分析も学んだ人材として活躍する場は社会に広く存在します。IT企業やメーカー全般、金融機関や医療・介護系企業、さらには公務員や数学・情報の教員も目指すことが可能でしょう。また、より学びを深めたい人は大学院(情報系、理工系、社会科学系、公共政策系)への進学も可能です。

PROGRAM
03

コンテンツデザインプログラム

社会やビジネスのさまざまな領域においてデザインを取り入れる動きが広がっています。デザインは決して色や形などの見た目だけでなく、私たちの生活する世界を変えていくもっと大きな可能性をもつものです。コンテンツデザインプログラムでは情報技術と認知科学を活用しながら、人々の中

に「一見つまらないことを楽しく変える」「自発的にやりたくなる」などの能動的な体験をつくりだすためのデザインを行うことができる人材を育てます。現場をよく調べることや人々と一緒に考えることを通して、新しい価値をつくりだしていくデザインの考え方とスキルを実践的に学びます。

学修・教育目標

- 1 コンテンツ制作における基本的な制作技術を体得する。特にコンピュータの上だけでなく、積極的に手も足も使った情報収集・表現・伝達の方法を手に入れる。
- 2 適切な情報伝達を評価するための基礎となる人間の認知的な特性、感情的な特性を理解する。
- 3 グループワークや外部組織との交流を通して、協調的な意思決定が行える力、適切なプロセスを踏まえながら創造的な活動を推進する力を身につける。
- 4 実世界と情報世界の両方にまたがって人間の知的な活動に関わる問題を発見できる柔軟な視野を獲得する。

1年次で学んでおいた方がよいこと

基礎となる科目は、コンテンツ制作のための情報編集技術や、プレゼンテーションなどの表現を学ぶ「情報表現演習」、情報とメディアの特性、コンテンツビジネスの概観を学ぶ「ネットワーク情報総論2」、コンピュータでデータをどのように扱うのかを学ぶ「デジタルデータ

基礎」です。また、情報を読み解く力と情報を表現する力の両方が必要になりますので、様々なメディアを介して行われている表現に対して、普段から積極的に情報収集し、なぜ、そのような表現が行われているのかを自分なりに考察してみるとよいでしょう。

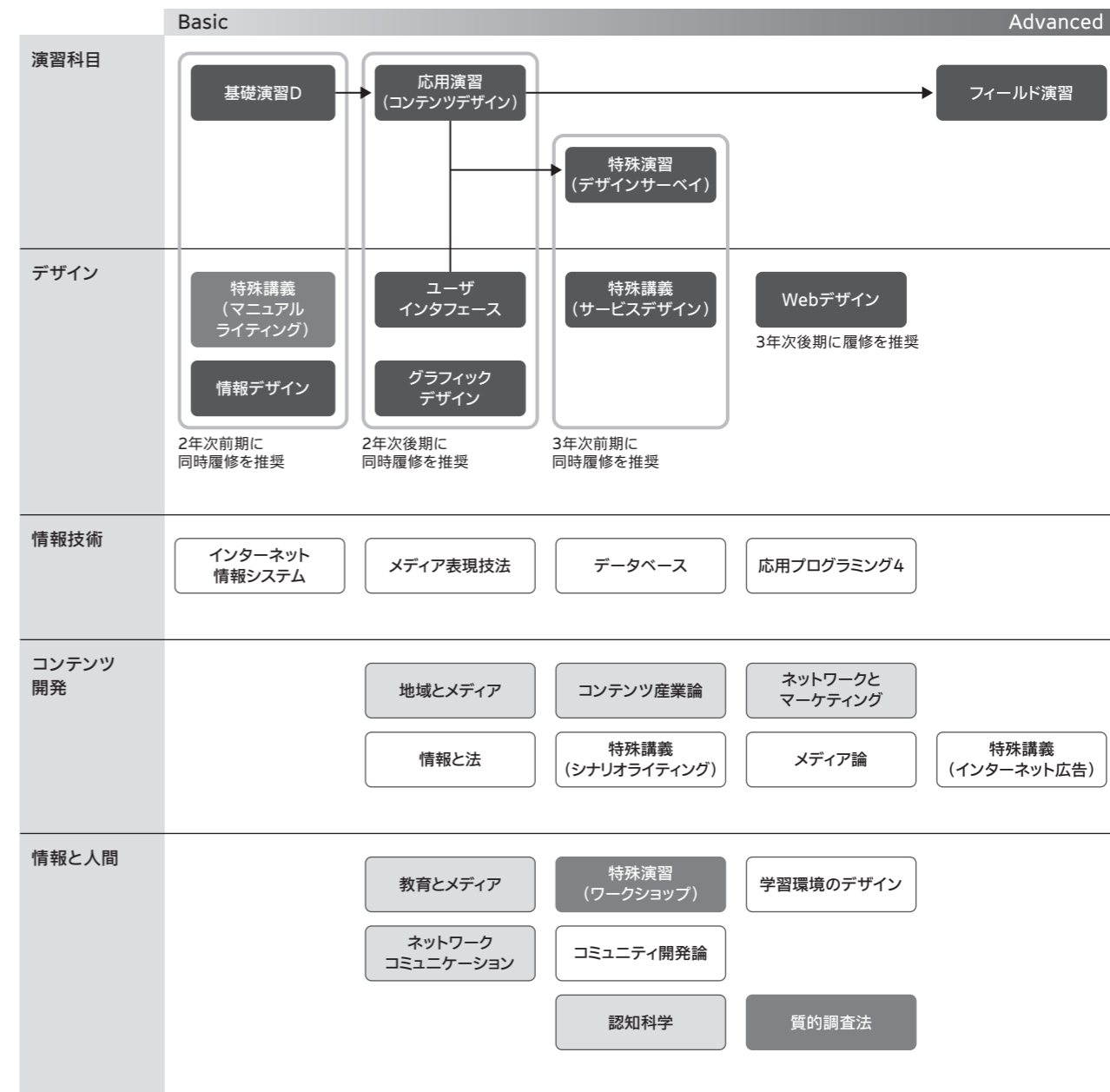
プログラムでの学びのポイント

最近の演習では、地域の学童施設やサイエンスミュージアムと連携しながら、親子で遊べる「カガクおもちゃ」を開発し、実際に親子に体験してもらった実践的なプロジェクトを行っています。ここではアイデアを提案しただけで終わるのではなく、自分たちで考えて生み出したものを

使ってお客さんたちを笑顔にすることで、大きな達成感を味わうことができます。このような体験をベースに、さまざまな講義の中で知識を接続させ、実際の業務でも用いられるデザインの考え方やコンテンツ開発の手法を学んでいきます。

科目MAP (コンテンツデザイン)

■ Dコース必修科目/プログラム必修科目 ■ プログラム選択必修科目
■ コース・プログラム選択必修科目 □ プログラム推奨科目



卒業後の進路例

Webデザイナー、UXデザイナー、Webディレクター、インタラクションデザイナー、企業のサービス開発や企画・宣伝・広報、情報科教員などを想定しています。人とコミュニケーションを取る仕事全般に広く対応できるはずですよ。

PROGRAM
04

メディアコミュニケーションプログラム

高度情報化社会において、確かなメディアリテラシーと豊かなコミュニケーション能力を兼ね備え、メディアとコミュニケーションの理論と技能を創造的に活用し、人間、組織、地域社会(コミュニティ)の諸課題を革新的に解決できる人材を育てます。コンテンツの発信者や受信者とのコミュニケーションを通して、両者をつなぐメディアの新たな価値をプロ

デュースできる力を育てます。地域社会との連携活動を通して、メディアコンテンツの企画開発、プロジェクト管理、知的財産権の処理、コミュニケーションデザインなど、メディアとコミュニケーションを有効活用する考え方を実践的に学習していきます。

学修・教育目標

- 1 メディアとコミュニケーションを、以下の観点から理解できるようになる。
ネットワーク環境、表現、ビジネス、人間、社会
- 2 メディアの特性と送り手・受け手の関係性を理解し、適切かつ創造的に情報を扱えるようになる。
- 3 人間の認知・学習・コミュニケーションの仕組みを理解し、適切な情報の伝達・共有・意思決定が行えるようになる。
- 4 人間、組織、地域社会(コミュニティ)における諸課題を、コミュニケーションを深めることにより発見、探究し、メディアを創造的に活用して、革新的に解決できる知識と技能を身につける。

1年次で学んでおいた方がよいこと

1年次の必修科目のうち、特に、「情報と社会」、「リテラシー演習」、「情報表現演習」、「ネットワーク情報総論2」の4科目は、メディアコミュニケーションプログラムを学修するための基本的な知識とスキルを提供するものとなっています。特に、文章表現とメディア表現、情報の収

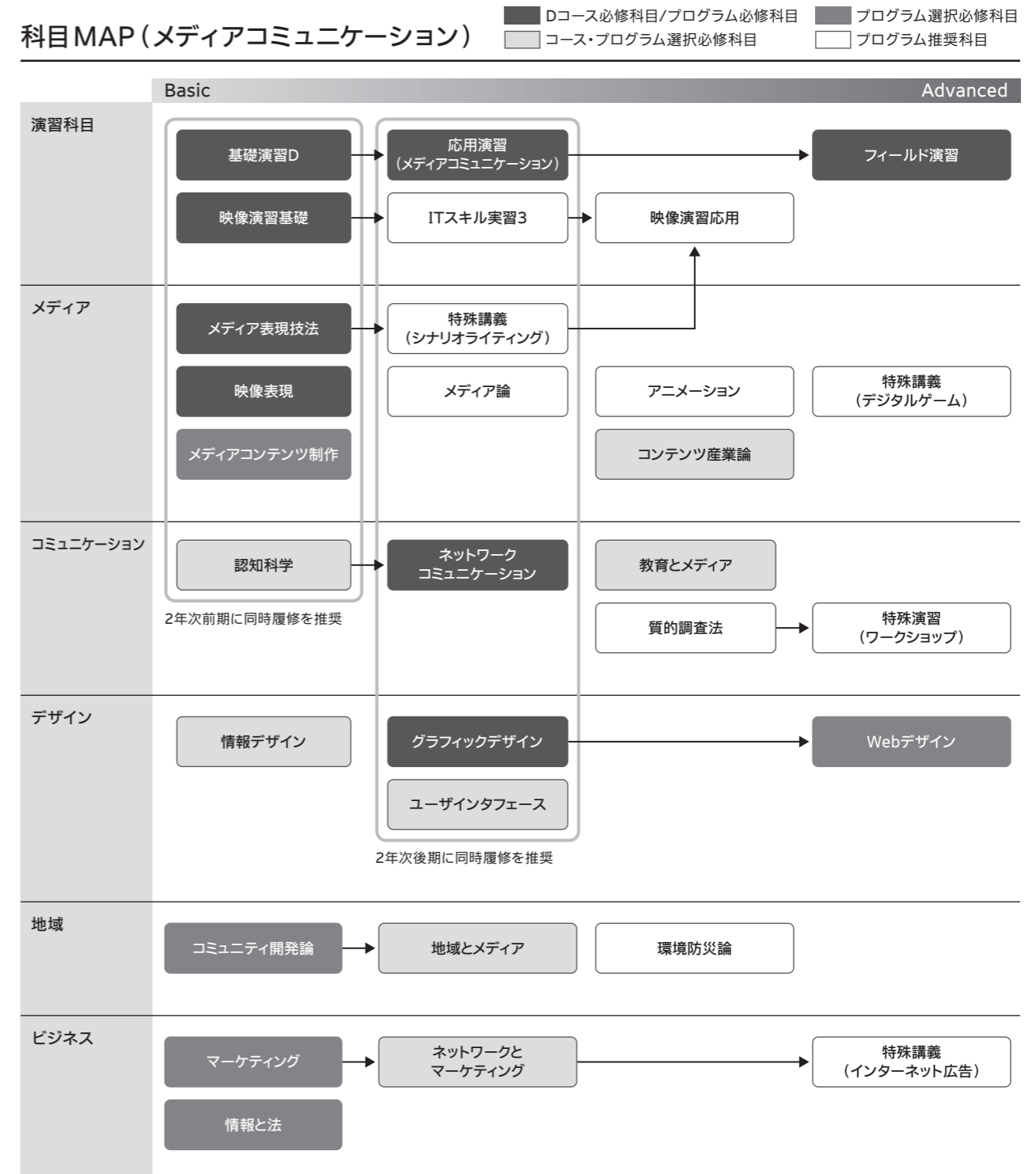
集・分析・編集、プレゼンテーションとコミュニケーションの能力は、この領域で最も必要な力となります。普段、メディアをどのように活用しているか、また、どのようにコミュニケーションをしたらよりよい関係を築けるかを考えてみるとよいでしょう。

プログラムでの学びのポイント

NPOや市民活動団体と連携し、取材や資料収集などを通して、クライアントの団体をプロモーションするためのコンテンツを制作します。具体的には、紙媒体、Web、映像によるクロスメディア展開を通じて、団体の広報支援を行います。この過程においては、クライアントのニ

ーズを汲み取るコミュニケーション力と、メディアで表現するための情報技術が重要となります。また、企画・開発、プロジェクト管理、知的財産権の処理、コミュニケーションデザインなどの技能が求められます。成果物は、学内外の視点から厳しい評価を受けるようにしています。

科目MAP(メディアコミュニケーション)



卒業後の進路例

メディアプランナー、映像制作者、コミュニケーションデザイナー、メディアコンテンツ産業従事者など。メディアの特性やコミュニケーションの仕組みを理解し、創造的に情報を活用して、人間、組織、地域社会(コミュニティ)における諸課題を解決していくプロデューサー志向のキャリアが将来的に期待されます。

フィジカルコンピューティングプログラム

超小型のCPUとセンサ、そしてPCやスマートフォンなどを自由に結びつけるネットワークによって、私たちの生活は大きく変わりつつあります。こうした変革期にあって重要なことは、ハードウェアやプログラミングあるいはWeb技術のような基礎的な情報通信技術の知識を身につけるだけでなく、そ

れらを応用的に組み合わせることによって解決できる問題を発見する能力です。フィジカルコンピューティングプログラムでは、具体的なモノを作る演習を繰り返すことによって発想力を鍛え、人間社会に役立つ情報通信技術の利用法や活用法を提案できる人材を育てます。

学修・教育目標

- 1 様々な情報を図を用いて整理・取捨選択しながらアイデアを創出する方法を身につける。
- 2 センサやアクチュエータ等を使ってデバイスを作成するための基礎知識を身につける。
- 3 人間の行動を身体・認知の両面から探求する重要性を理解し、ハードウェアおよびソフトウェアを応用したプロトタイプを作成することによって他者にそれを説明できるようになる。
- 4 グループワークや外部組織との交流を通して、協調的な意思決定が行える力、適切なプロセスを踏まえながら創造的な活動を推進する力を身につける。

1年次で学んでおいた方がよいこと

フィジカルコンピューティングで扱う内容は多岐に渡ります。1年次の必修・必修履修科目で関連の深いものを挙げるとすると、「ネットワーク情報総論1」、「入門プログラミング」、「Webプログラミング」、「デジタルデータ基礎」、「コンピュータとネットワーク」、「情報表現演習」などになります。

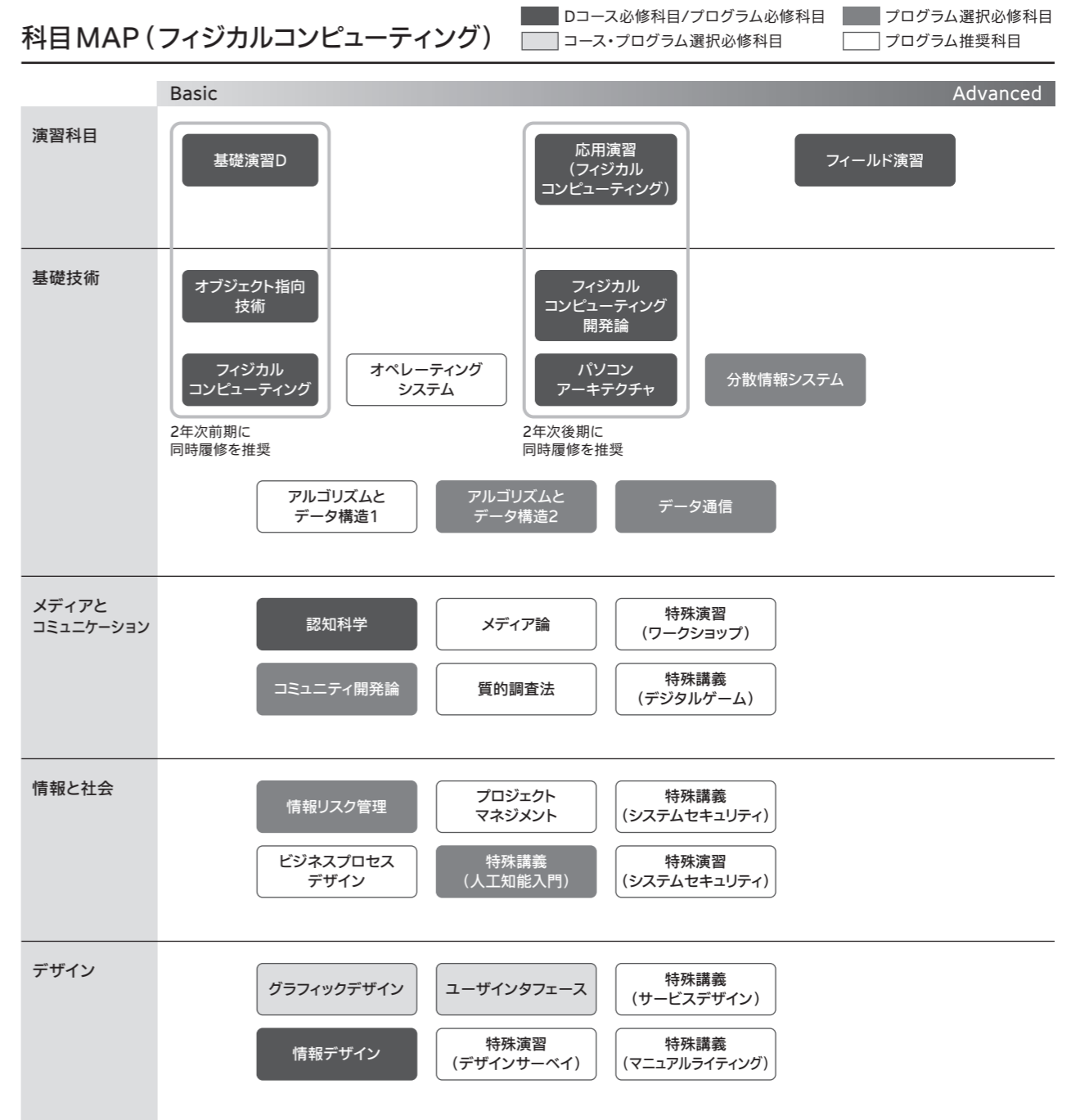
ただし、フィジカルコンピューティングでは技術のみが重要なわけではありません。むしろ社会で技術がどのように使われているかを知ることが大切です。そのために、日頃から新聞やIT関連の情報を掲載しているネットメディアに接することをお勧めします。

プログラムでの学びのポイント

応用演習では、「マイクロコントローラと電子部品を組み合わせ電子回路を作り、動作させるためのプログラムを書く」という組込みシステム開発のプロセスを学びます。また、作成したデバイスをインターネット上のサービスと結びつけ

て、より高度なシステムを構築する実習も行います。ただし演習の目的は単にモノを作る方法を学修することに留まる訳ではなく、様々な技術を知った上でそれらを組み合わせ、新たな価値を創造する発想力を鍛えることにあります。

科目MAP (フィジカルコンピューティング)



卒業後の進路例

進路としては、組込み系システムエンジニア、Webエンジニア、Webデザイナー、サービス企画職などを想定しています。これまでの実績的にもエンジニアになる人たちが多くいます。フィジカルコンピューティングの認定を受けて卒業したのちには、ITに強いアイデアパーソンとして活躍できることが期待されています。

PROGRAM
06

ITビジネスプログラム

ビジネスにおいては、ITを単なる業務省力化やコスト削減のツールとするのではなく、ITを活用して新たなビジネスモデルを構築することによって価値を創造することが求められています。今日ではスマートフォン、自動車、家電品などから発生した大量の情報がインターネットを介してリアルタイム

でやりとりされていますが、これらの情報を活用してビジネスのしくみを変えることも価値を創造するための手段の一つです。ITビジネスプログラムは、問題解決能力と情報技術と経営知識を武器として、このような問題に取り組むために必要とされる「イノベーター」となるような人材を育成します。

学修・教育目標

ITソリューションを企画・設計するために、問題解決能力、情報技術、経営知識を3本柱とした知識・技術・手法について学びます。

- 1 問題解決能力の修得：ビジネス課題を設定し、その解決策を導き、実行するために必要な能力を修得する。
- 2 情報技術の基礎の修得：最先端の情報技術および現行の情報システムを理解するための基礎技術を修得する。
- 3 経営知識の基礎の修得：ビジネスを行うための戦略・戦術や業務手順を理解するための基礎知識を修得する。

1年次で学んでおいた方がよいこと

ITビジネスプログラムで学修する上で基礎となる科目は次の通りです。

- (1) 情報技術関連：「ネットワーク情報総論1」、「情報分析基礎」、「情報分析演習」、「入門プログラミング」、「Webプログラミング」、「コンピュータとネットワーク」。
- (2) 問題解決能力関連：「リテラシー演習」、「情報と社会」、人文・社会・自然

などの科目。
(1)(2)で述べた1年次基礎科目をしっかり学びと学ぶことはもちろんのこと、普段から身の回りのことや社会の問題に関心をもち問題の構造や解決方法について学修することをお勧めします。なお、経営知識に関する内容については主に2年次以降に学びます。

プログラムでの学びのポイント

ITビジネスプログラムの演習授業の特徴は、産官学連携を行いながら、ITとビジネスに関する実践的なケーススタディを行うことです。演習の前半は、ビジネスプランの立案方法を学びます。学内のベンチャービジネスコンテストに応募して入賞を目指します。後半は、ビジネスプロセスのモデリングと改善方法を学び

ます。具体的には、ある家具メーカーのグローバルサプライチェーンを題材として、部品調達から製品の製造、販売までのビジネスの流れを理解し、それをSCOR (Supply-Chain Operations Reference) モデルを用いて、問題点の発見、分析、改善を行います。

科目 MAP (ITビジネス)

■ Dコース必修科目/プログラム必修科目 ■ プログラム選択必修科目
■ コース・プログラム選択必修科目 □ プログラム推奨科目

	Basic			Advanced		
演習科目	基礎演習D	応用演習 (ITビジネス)	フィールド演習			
問題解決能力	情報システム開発概論	ビジネスプロセスデザイン		プロジェクトマネジメント	特殊講義 (コンサルテーションスキル)	特殊講義 (サービスデザイン)
情報技術	ユーザインタフェース	システムモデリング	特殊講義 (人工知能入門)		情報リスク管理	
	データベース	応用プログラミング2	情報システム管理		データマイニング	
経営知識	ビジネスゲーム	経営分析	ファイナンスプランニング		ネットワークとマーケティング	
	企業情報システム		特殊講義 (情報技術者のための業務知識)	特殊講義 (システムエンジニア論)	特殊講義 (インターネット広告)	
その他	データ解析1		グラフィックデザイン		情報デザイン	
	認知科学		特殊演習 (ワークショップ)		メディア論	

卒業後の進路例

上級システムエンジニア、経営コンサルタント、システムコンサルタント、一般企業の経営企画部門、ベンチャー企業の経営などを想定しています。また、情報系や経営系の大学院に進学し、さらに専門性を高めることも奨励します。

副プログラム

01

情報数理副プログラム

現代社会では様々な情報技術が活用されていますが、ものごとを数理的に解明する思考がその基礎にあります。情報技術を数理的に理解する基礎力と知的好奇心を育成

して、卒業後の発展に備えることを目指します。どのプログラムの修了を目指す学生でも、情報数理副プログラムをあわせて修了することができます。

学修・教育目標

- 1 情報に関する現象や技術の数理的な側面を理解する基礎力を身につける。
- 2 情報に関する現象や技術の数理的な考え方・原理を理解する。
- 3 数理的な課題解決を実践し、課題解決能力を養う。

認定基準

下記の科目を全て修得する。
情報数理演習1, 2, 数学セミナー, 基礎解析, 線形代数, 応用確率統計, 情報理論, 数理計画法

基礎数学	線形代数	基礎解析	
応用数学	応用確率統計	情報理論	数理計画法
演習科目	情報数理演習1	情報数理演習2	数学セミナー

副プログラム

02

Basic ICT副プログラム

ITスキル標準レベル2 (基本情報技術者試験合格) に相当する、情報通信技術の知識とシステム開発のスキルを身につけることを目的とした副プログラムです (注: ネットワークシステムプログラムとあわせて認定されません)。プ

ログラミング関連科目から4単位以上、情報通信技術又は情報システム関連の科目から10単位以上修得することで認定されます。3年次から修得を目指すこともできますが、科目コード水準を確認して体系的に履修してください。

プログラミング関連科目	Webプログラミングプログラミングと数理	応用プログラミング1 応用プログラミング2	応用プログラミング3 応用プログラミング4	4単位以上
情報通信技術/情報システム関連科目		データベース データ通信 オブジェクト指向技術 情報リスク管理 企業情報システム	インターネット情報システム アルゴリズムとデータ構造1 オペレーティングシステム 情報システム開発概論	10単位以上

副プログラム

03

情報英語副プログラム

情報に関連する研究、仕事はグローバルに行われており、そこで広く使用されている言語は英語です。皆さんが獲得する情報に関する能力を、将来、様々な場面で発揮す

るための英語力の基礎を身につけられるようにします。どのプログラムの修了を目指す学生でも、情報英語副プログラムをあわせて修了することができます。

学修・教育目標

- ネットワーク情報学部で扱う内容に関して、以下の項目を達成できるようにする。
- 1 関連した基本的な英語を理解し、自分の意見を英語で表現できる。
 - 2 英語をコミュニケーションツールとして実際の場面で活用する経験を得る。

認定基準

- 下記の科目から10単位修得する。
1. 必修科目 (4単位)
情報英語基礎, 国際研修1, 国際研修2
 2. 専門科目の指定された英語科目から4単位
情報英語発展のいずれか
 3. 教養科目の指定された英語科目から2単位
海外語学研修, 海外語学中期研修, English Presentation, English Writing, English Speaking, Advanced English

科目関連図



副プログラムを履修する上で考慮しておきたいこと

- 副プログラムも、主プログラムと同じように卒業時に認定され、修了証が授与されます。
- 主プログラムは6つとも、予習復習を含んで充実した学習ができるように組まれています。料理に例えれば一人前に相当します。そのため、副プログラムを履修する場合は、2~4年で計画的に学ぶことが大切です。
- 食べる量に個人差があるように、一定期間に学べる量にも個人差があります。アルバイトやサークルで拘束時間が長い人は、通常のカリキュラムにプラスした学習時間を確保できるかをよく考慮した上で履修してください。
- NSプログラムに興味を持っているが、ついていけないか自信がない場合、あるいは希望したが選考されなかった場合など、NS以外のプログラムとBasic ICTプログラムを組み合わせることで履修すれば、情報システムについて体系的に学ぶことができます。そうした履修の組み方も検討してみてください。

数理・データサイエンス・AI科目履修の勧め

ネットワーク情報学部では、数理・データサイエンス・AI(人工知能)に関連する教育を進めてきており、基礎的な1年次必修科目から、データサイエンスプログラムの学生が主に履修するような発展的な専門科目まで数多くの科目を開講しています。

政府が「AI戦略2019」において、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要があることを示しました。それに基づき、高等教育に対して、全員が学ぶべき「学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力」(リテラシーレベル)、半数程度が学ぶべき「数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力」(応用基礎レベル)を育成する教育プログラムの構築を求め、それを文部科学大臣が認定する制度がスタートしています。

その認定制度の要件にあうように、専修大学では、本学独自の教育プログラム「Siデータサイエンス教育プログラム(基礎リテラシーレベル)」及び「同(応用基礎レベル)」を発足しました。(令和5年度の認定へ向け申請準備中)

このプログラムはいずれのレベルも、各学部が用意する科目の中から必要な科目の単位を修得することで修了が認定されるもので、ネットワーク情報学部では、1年生の必修3科目をもって「基礎リテラシーレベル」(大学卒業生全員に求められる能力)の要件を満たすため、全員が修了できます。

情報学を専門とする皆さんには、さらに「応用基礎レベル」に示した科目、そして、より高度な学修をするための関連科目を履修し、自らの能力を高めてもらいたいと考えています。

基礎リテラシーレベル

データ・AIに関する導入・心得

ネットワーク情報総論1

基本的活用法

情報分析基礎

情報分析演習

応用基礎レベル

データ・AIに関する数学基礎

情報分析基礎

数理リテラシー

基礎解析

線形代数

データ解析1

データ・AIに関するデータ表現とアルゴリズム

プログラミングと数理

基礎演習S

AI基礎

特殊講義
(人工知能入門)

AIデータサイエンス実践

応用演習
(データサイエンス)

データサイエンス演習1

データサイエンス演習2

特殊演習
(データ・AI活用)

認定要件の詳細は専修大学「Siデータサイエンスプログラム」のホームページにて確認ください。

より高度な学修をするための関連科目

数理に関する科目は「数学科目の履修の勧め」(56ページ)、データサイエンスに関する科目は「データサイエンスプログラム」(44ページ)の科目MAPを参考にしてください。

数学科目の履修の勧め

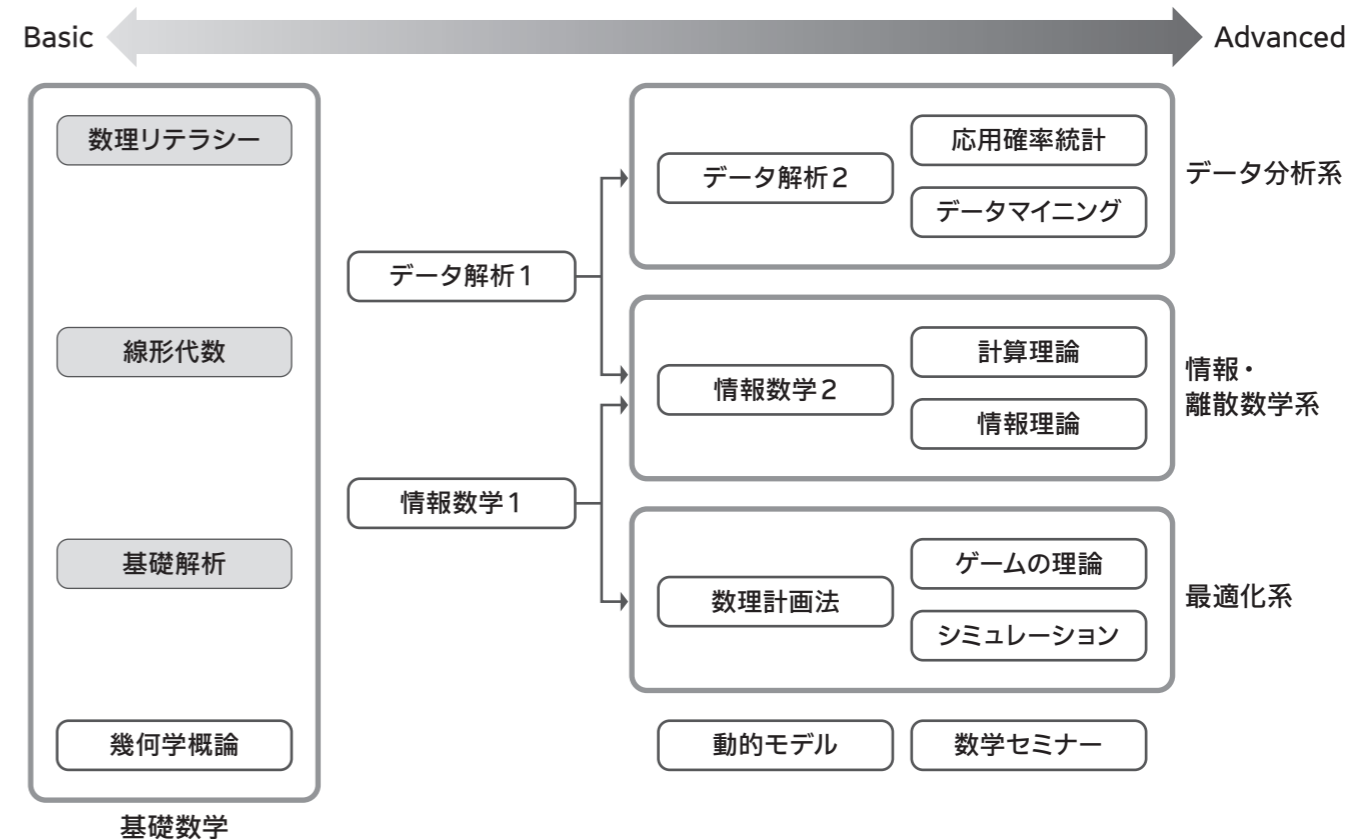
ネットワーク情報学部では数学関連科目を多数展開しています。それはコンピュータのプログラミング言語、データの解析方法、情報処理技術や理論などを学ぶとき、数学がベース(共通語)となっているからです。「数学は諸学の女王(母)」と言われる所以です。

本学部では「数学」の教員免許が取得できるように、幾何学などの基礎科目も学べるように数学の基礎科目が揃っています。教員免許を目指す学生、Sコースで学ぶ学生以外でも、関心に応じて、その中のいくつかの科目を履修すると良いでしょう。特に大学院進学を考えている学生は、積極的に履修することが望まれます。

その際に注意することは、数学は積み重ねの学問であるため、

科目間で基礎科目と応用科目の区別があるということです(下図を参照のこと)。応用科目を学ぶためには、その科目が前提とする科目を履修しておく事が望まれます。例えば、応用確率統計ではデータ解析1,2を前提科目にしています。履修の順番は、単位取得ができるかどうかではなく、その授業内容をしっかり理解するために必要なことです。

数学の勉強法は、古代ギリシャのユークリッドの言葉「幾何学に王道なし」と同じで、簡単な方法はありません。登山のように一歩一歩、着実に登ることでしょう。そして「判ること」と「判らないこと」を「分けること」ができるように努力をすることが重要です。その結果、自ずと「論理的思考」能力が養われることになります。



英語科目の履修の勧め

ネットワーク情報学部では、グローバルに活躍するための能力を身につけることを教育目標の一つとしています。その一環として、情報英語副プログラムを認定し、学部独自の英語科目を提供しています。

まず、入学後の英語力を確認するために、4月にプレイズメントテストを全員が受験します。自分の実力を確認した後、前期いっぱいをかけて、各自で後期に履修する情報英語入門に備えた学習をします。情報英語入門は、必履修科目となっており、全員が受講し、英語力の素地を身につけるための学習を行います。

1年次12月には、TOEIC®L&Rの団体受験を実施します。そこで、個々人の英語力を確認した上で、適切な改善策を検討してもらいます。TOEIC®L&Rにおいては、1年次4月に受験する英語

プレイズメントテストの結果により、実現可能な到達目標を設定しています。大学での学習機会を活用し、各自のスコアを超える英語力を身につけることを目指すところから、学部の英語教育は始まります。自分の学習方法が、その後の成果を約束するものかどうかを正しく確認し、その後の英語学習に活かすことが目的です。

その後、3年間をかけて皆さんは英語力を磨くことになります。大学では、学部独自の英語科目、外国語科目の英語科目、e-learning教材NetAcademy NEXTやその他CALLライブラリ所蔵教材の活用が可能です。国際交流活動に参加することや、各自が留学機会を自分で探すことも有用と言えるでしょう。

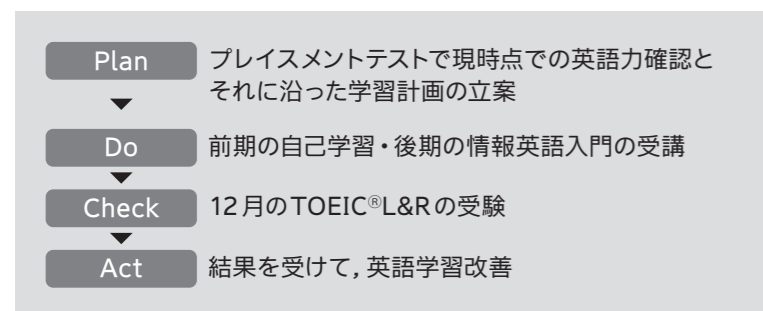
■1年次12月時点でのTOEIC®L&R目標スコア

プレイズメントテスト結果	TOEIC®L&R目標スコア
80点以上	450点
60点～79点	400点
40点～59点	350点
39点以下	300点

目標スコアに到達している人は、学習方法は大きくは間違っていないと言えるでしょう。継続的に学習を行うことで、その後の英語力の向上が期待されます。目標スコアに到達していない人

は、学習方法の改善に関して、教員の助言を仰ぐことが効果的です。

■1年次のPDCAサイクル



卒業時に目指すべき英語力の目安はTOEIC®L&R600点です。TOEIC®L&Rのスコアは、正しく英語学習を行うことで1年間に100点伸ばすことが可能です。諦めずに学習を継続するこ

とで、ネットワーク情報学部生全員にそのレベルまで到達する可能性があります。とって下さい。

経済・経営科目の履修の勧め

単なる数字や文字の配列も情報と呼ぶことがありますが、それだけでは現状把握にも意思決定にも利用することはできません。そこから何らかの知識を得て、初めて社会で利用することが可能になります。したがって、単にソフトウェアの利用方法に精通するだけでは情報を活用することはできません。情報を扱う際には最終的に社会でどのような価値を生み出すのか、そして、社会で求められているニーズに対応するためにはどのような情報が必要なのかを考える必要があります。このような視点に

立つと社会現象について深く理解することが必要であり、ネットワーク情報学部ではそれに必要な科目を多く提供しています。なお、以下に掲げた科目は専門科目のみです。これら以外に教養科目の社会科学基礎科目も履修する必要があります。また、さらに進んだ学修を志す人は他学部で開講されている経済学・経営学・社会学に関する専門科目を学部間相互履修制度を用いて履修することも可能です。

1 社会全体について理解する

市場を理論的に理解する

経済のモデル
(ミクロ経済学)

経済のモデル
(マクロ経済学)

ゲームの理論

モデル分析

政策を理解する

環境防災論

政策科学

2 顧客を理解する

マーケティング

ネットワークと
マーケティング

特殊講義
(インターネット広告)

3 企業を理解する

会 計

会計システム
(財務会計)

会計システム
(管理会計)

財務諸表論

金 融

ファイナンス
プランニング

経営分析

戦 略

戦略のデザイン

情 報

企業情報システム

サービス情報システム

管 理

プロジェクト
マネジメント

4 演習や実習を通じて体験する

ビジネスゲーム

ビジネスプロセス
デザイン

データマイニング

シミュレーション

企業研修

コミュニケーションの基礎力をつける

1年次は、ネットワーク情報学部の専門知識の基礎を学ぶ時期ですが、同時に、大学や社会で必要となる基礎力を身につける時期でもあります。ネットワーク情報学部では、専門科目の

「リテラシー演習」と専修大学入門科目の「専修大学入門ゼミナール」を軸にして、コミュニケーションの基礎力を養います。

リテラシー演習 (前期)

リテラシー演習では、レポートライティングについて体系的に学びます。テーマの設定、情報収集、アウトラインの作成、文章の作成、推敲から完成までのプロセスを、順を追って経

験します。自分の意見や主張を、論理的に組み立てて、人に伝えるためのスキルを身につけます。最後は、完成したレポートの要旨を発表します。

専修大学 入門ゼミナール (後期)

大学入門ゼミナールでは、プレゼンテーションやインタビューなど、対面でのオーラルコミュニケーションに慣れる経験を積みま。前半は、自分の大学に対する考えや、新しいア

イディアなどを仲間の前でプレゼンします。後半は、先輩にインタビューを行い、その内容を記事にまとめ、多くの人に向けて発表します。

様々な狙いをもつレポート課題

ネットワーク情報学部の1年次生にとって、最も驚かされることは、レポート課題が多いことでしょう。様々な先生が、様々な狙いのレポート課題を課してくるので、それに早く慣れることが大切です。ここでは、いくつかのパターンを示します。レポートが出題されたときに、どのパターンのものなのか的確に判断できるようになれば、よいレポートを書けるようになります。

- **理解を確認する**：授業中に説明したことを理解しているかどうか確認するレポートです。授業の説明に基づいて、自分が理解したことを記述する必要があります。
- **自分の見解を考えてもらう**：「理解を確認する」の発展したもので、理解した上で、それに対して様々な情報を利用して自分の考えをまとめ、記述する必要があります。

- **調査をしてまとめる**：授業中に説明しきれないことを、皆さんに調べてきてもらって補うことを目的とするものです。どのような資料にあたって調べるのかが問われます。
- **経験してもらう**：授業中に説明した理論や方法を、先生が示した方法で実践してもらい、その結果、及びそこから皆さんが考えたことを報告してもらうものです。
- **自分なりの工夫をして作る**：「経験してもらう」の発展したもので、実践の場面で、皆さんの独自の工夫が求められるものです。プログラミングやデザインに関連する授業で多く見られます。自分の工夫を説明する必要があります。
- **応用力を試す**：それまで様々な授業で学修したものを、総合的に活用することが求められるものです。

プレゼンテーションとグループワーク

大学に入ったばかりの学生は、自分の考えや成果を人前で発表した経験があまりなく、気後れがするという人が多いでしょう。でも、大学でも社会でも、発表する機会は必ずやってきます。そのためには、場数を踏んで慣れておくことが大事です。また、ネットワーク情報学部はグループワークが多く、演習科目や3年次のプロジェクトで、メンバーと議論をしたり一緒に制作をしたりします。そのときに、お互いに十分コミュニケーションをとることが

大事になります。こうしたプレゼンテーションやグループワークの経験は、将来社会の様々な場面で、きっと役立つはず。そのためのステップとして、1年次から、対面で人に自分の考えを伝えること、人からしっかり話を聞くこと、そして仲間と十分話し合うことを経験しましょう。

キャリア教育について

専門科目が軸となる キャリアデザイン

ネットワーク情報学部のキャリア関連専門科目は3つあります。1年次の「情報と社会」と3年次の「情報キャリアデザイン」はいずれも必修科目です。この2つの科目の共通点は、学外から招いたゲストスピーカーによる講演が主体になっていることです。社会の様々な分野の最先端で仕事をしている方々の講演を通して、自分のキャリアデザインについて考えます。「情報と社会」では、将来を見据えなが

ら大学における学びを考え、「情報キャリアデザイン」では、大学での学修成果を踏まえて卒業後の進路を考える機会を提供します。

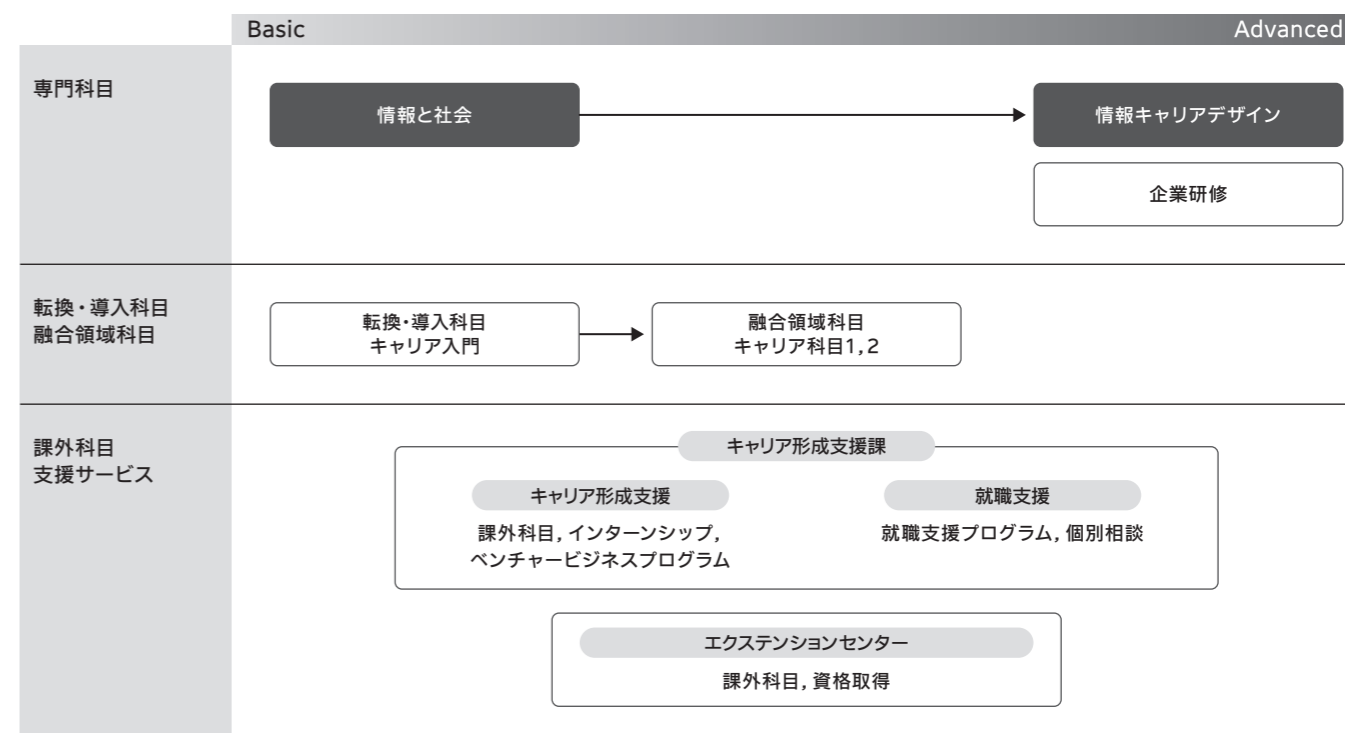
また、選択科目の「企業研修」では、前期中に自己/仕事分析や社会人マナーなどを学び、夏期に企業において就業体験型インターンシップを行うことができます。このように、ネットワーク情報学部では、専門科目の中で十分にキャリア教育を受けることができます。

専門科目以外の科目や講座

専門科目以外にも、転換・導入科目の「キャリア入門」や、融合領域科目の「キャリア科目1,2」を選択することができます。これらの科目は、体系的にキャリアデザインについて学びたい方にお勧めします。

課外科目としては、キャリア関連の様々なサポートがあります。キャリア形成支援課による各種講座やインターンシップ、キャリアカウ

ンセリングなどは、低年次から利用することにより、将来を見据えた大学生活を送ることに役立ちます。さらに、エクステンションセンターでは、各種資格や試験に向けた実力養成のための講座が利用できます。そしていよいよ就職活動を迎える時期になればキャリア形成支援課が就職活動の支援を行います。



学部間相互履修制度

全学公開科目

本学は、各学部・学科の教育方針に即して、多様な授業科目を開講しています。

学部間相互履修制度により、他学部で開講されている専門科目の中で、「全学公開科目」と呼ばれる科目を卒業要件単位として履修することができます。

各学部で開講する全ての専門科目が公開される訳ではありません。どの科目を「全学公

開科目」とするか、そして、何年次に配当するかは科目を開講している各学部で定めます。また、各学部で公開された科目のうちで、ネットワーク情報学部の学生には必要がないと判断された科目は履修できないことがあります。

卒業するまでに、どんな科目が「全学公開科目」として履修できるかは、Webでお知らせします。

講義内容

「全学公開科目」についての特別な講義要項は作成しませんので、講義内容を知りたい場合は、その科目を公開する学部の講義要項を

閲覧する必要があります。履修希望者は、Web上で講義要項を閲覧してください。

履修手続

「全学公開科目」は、公開している学部での履修に支障をきたさないよう、履修人数の制限を行うことがあります。このため、履修を希望する学生は、その科目担当者の履修許可を

得なければならないことになっています。履修手続・選考などの詳細は、ガイダンスでお知らせします。

修得した単位の扱い

「全学公開科目」で修得した単位は、卒業要件単位のうち自由選択修得要件単位として認定されます。

自由選択修得要件単位

8ページに述べたように、転換・導入科目から6単位、教養科目と外国語科目から合わせて16単位、専門科目から76単位修得しなければなりません。卒業要件単位124単位に達するためには、さらに26単位修得する必要があります。その26単位分を、専修大学では自由選択修得要件単位と呼んでいます。下の

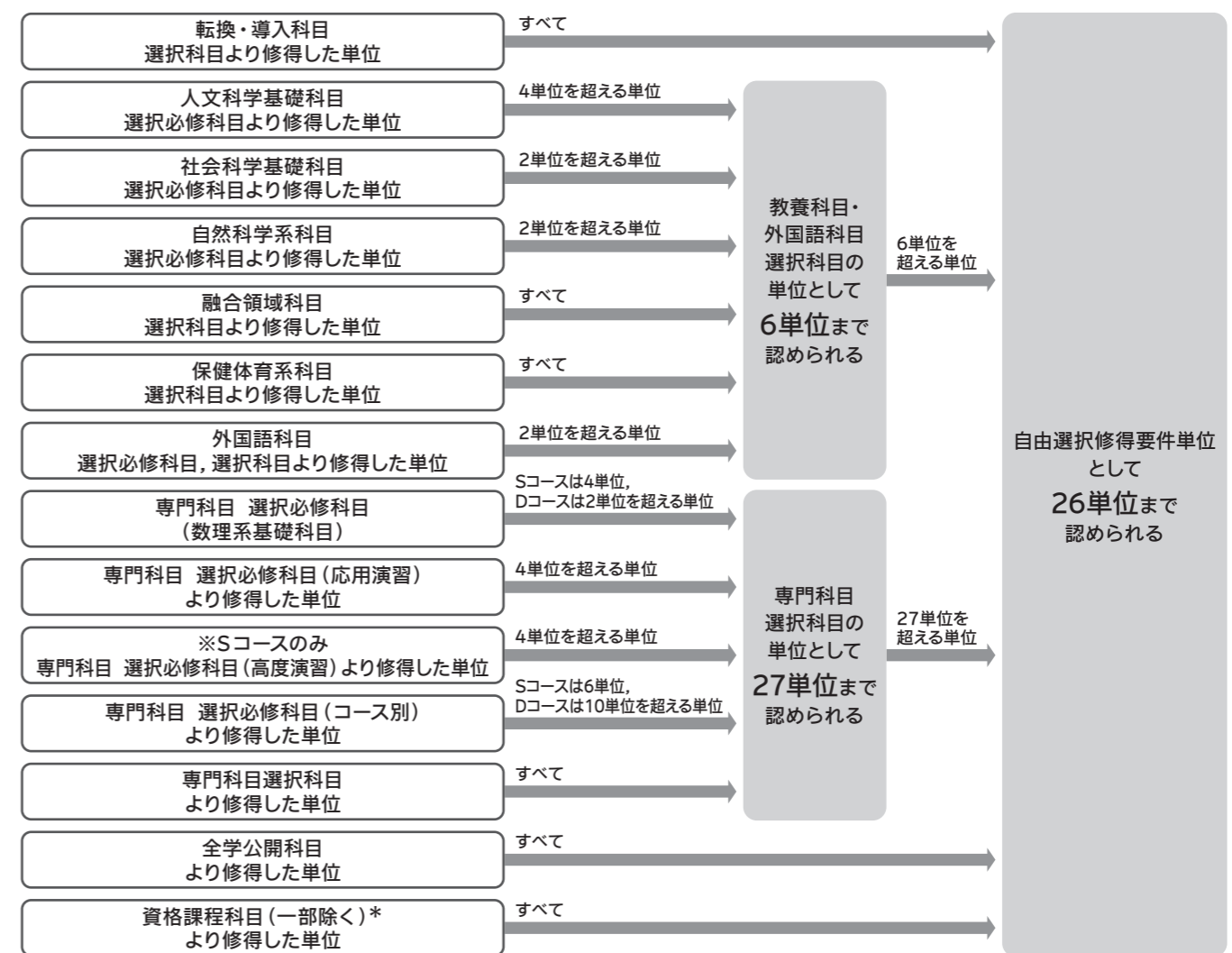
図で示す通り、各科目群において、必要とされる単位数を上回って修得した単位を自由選択修得要件単位に充当することができます。

自由選択修得要件単位を、どのグループから履修するかによって、皆さんの学修に変化をつけることができます。例えば、

- 特定の専門領域から専門科目を多く履修することで、専門性を深める。
- 複数の領域から専門科目を履修することで、専門性の幅を広げる。
- 外国語科目の選択科目から履修することで、外国語の能力を高める。
- 教養科目や全学公開科目を履修することで、ネットワーク情報学部の専門分野以外の学問分野を学修し、学際的な能力を高める。

といったことが考えられます。あるいはこれらを複数組み合わせることもできるでしょう。本ガイドブックを読むことで、具体的にどのような可能性があるのか理解することができます。専修大学

で提供される授業は非常に多くあるので、自分で調べることは大変かもしれません。身近な先生方に相談してみるのも良いでしょう。



*詳細は「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」を参照してください。

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程

教育職員免許状を取得したり、司書・司書教諭・学校司書・学芸員の資格を取得したい学生のために用意されている課程です。教職課程において教育職員免許状取得要件を満たすために必要な履修科目や、司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程の履修方法などについての詳細は、必ず前期最初に行われる教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。履修初年度のガイダンス時に、「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」を配布します。

教育職員免許状の取得について

ネットワーク情報学部では、次の教育職員免許状(以下「免許状」という)を取得できます。

- 中学校教諭一種免許状 数学
- 高等学校教諭一種免許状 情報・数学

免許状の取得には、原則として3年間以上教職課程の科目を履修し、各教科及び教職に関する科目59単位と、免許法施行規則第66条の6に定められた科目8単位の修得が必要です。

なお、教職課程を履修する場合は、履修初年度に教職課程受講料を納入する必要があります。また中学校の免許状を取得する場合、7日間の介護等の体験が義務づけられています。

詳細については、「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」を参照するとともに、前期最初に行われる資格課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。

生徒に責任をもって教えるには、相当な教科の学力が必要です。数学は教育実習前年度までに、線形代数・幾何学概論・基礎解析・データ解析1の合格時の評点平均80点以上を取得す

るか、実用数学技能検定準1級以上に合格すること、情報は教育実習前年度の情報科教育法1の学期末テストで合格することが必要です(教育実習を行うには、これ以外にも必要な条件があります)。この結果、希望教科で教育実習を行えないこともあります。数学・情報の両方の免許を取得するつもりで取り組むこと、授業外でも自ら進んで発展的な学修をすることが必要です。

一部の道県等では、情報の教員採用において他教科の免許が必要なことがあります。また、数学の教員採用では中・高両方の免許が必要なことがあります。

なお、教職課程の履修者は受講料として25,000円を履修初年度に納入する必要があります。

司書は各種図書館、研究機関などで資料の収集・整理・保存・提供などを行う専門職です。司書教諭は初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門的な仕事に携わる教員です。学校司書は学校図書館の職務に司書教諭と協働しながら従事する職員です。

本学で司書の資格を取得するためには原則として3年間以上、司書課程の授業を履修し、学部の卒業単位の他に15科目30単位以上を修得

しなければなりません。また、司書教諭については5科目10単位以上、学校司書については13科目26単位を修得しなければなりません。なお、司書課程の履修者は受講料として25,000円、司書教諭課程の履修者は受講料として10,000円、学校司書課程の履修者は受講料として25,000円、司書課程と学校司書課程の両方の課程を履修する場合は35,000円を履修初年度に納入する必要があります。

学芸員は博物館(美術館、歴史資料館、民芸館など)において資料の収集、展示、保管、調査研究などに関連する活動を中心とする専門職です。本学では、人文系の歴史・考古・民俗・美術史を専門とする学芸員を養成しています。

学芸員の資格を取得するためには、原則として

2年以上学芸員課程の授業を履修し、学部の卒業要件を満たすとともに、別に定める13科目27単位以上の単位を修得しなければなりません。

なお、学芸員課程の履修者は受講料として履修初年度に15,000円を納入しなければなりません。

専修免許状の取得

大学において教育職員免許法に定める所定単位を修得し、中学・高等学校教諭一種免許状の授与を受けた者が、大学院の修士課程を修了した場合、中学・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。詳細については、教務課資格課程事務室で確認してください。

科目等履修生

在学中の単位不足などにより本学卒業後、教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程を履修したい者は、科目等履修生として必要単位を修得できる制度があります。ただし、科目等履修生となるためには、2月中旬～下旬頃に出願し、面接試験等に合格する必要があります。詳細は教務課(神田校舎)で確認してください。

外国人留学生の特例履修科目

留学生試験に合格して入学した学生には、大学での勉学に必要な日本語教育や日本事情などの科目が用意されています。これらの科目は、日常生活で使う日本語とは異なり、大学での学修に必要なカリキュラムになっています。特に外国語科目・日本語は、読む・聞く・話す・書くについて、それぞれレポートや論文を

読む、講義や発表を聞く、プレゼンテーションを行う、レポートや論文を書く、という大学でのシーンを想定した内容になっており、大学での学修の基礎になるものです。主要な科目は外国人留学生の必修科目になっているので、ガイダンスの説明で注意点をよく確かめて、履修してください。

外国語科目

日本語(必修科目)

日本語文章理解1 → 日本語文章理解2 2科目 2単位

日本語音声理解1 → 日本語音声理解2 2科目 2単位

日本語口頭表現1 → 日本語口頭表現2 2科目 2単位

日本語文章表現1 → 日本語文章表現2 2科目 2単位

同一曜日・時限、同一担当の科目をセットで履修。前期末修得の場合、後期は履修できない

日本語応用科目(選択科目)

応用日本語理解1・応用日本語理解2 2科目 2単位

応用日本語表現1・応用日本語表現2 2科目 2単位

前年度までに必修の日本語科目を全て単位修得していること

同一年度に同一科目を履修はできないが、年度を越えれば、1で3科目3単位、2で3科目3単位まで履修可能。自由選択修得要件単位として卒業単位に換算される

教養科目

留学生専修科目(必修科目)

一般日本事情1・一般日本事情2 2科目 4単位

補足

- 外国人留学生は、母語の科目を、外国語科目(世界の言語と文化、言語文化研究を除く)として履修することはできません。
- 日本語でのコミュニケーションに困難を感じる場合は、日本語の授業だけでなく、1年次のクラス担任(後期「専修大学入門ゼミナール」も担当)、前期「リテラシー演習」の担当教師に相談してください。
- 留学生試験以外の入試で入学し、日本語を母語としない学生は、カリキュラム上は留学生科目を受けませんが、希望すれば日本語科目を選択して受講することもできます。学部のガイダンスで相談してください。

☐☐☐ コンピュータ・ネットワーク設備 の利用について

11ページに述べたように、ネットワーク情報学部では、大学のコンピュータ・ネットワーク設備を使用した演習や課題が多く課されます。1号館には、学部専用端末室が下の図のように用意されています。授業時間以外は端末室で自習することができますので、利用のルールやモラルをきちんと守りながら、積極的に利

用してください。

1年次の情報表現演習、情報分析演習では単にソフトウェアの操作を習うだけではなく、大学の情報関係設備の利用方法についても説明があります。コンピュータスキルがある学生でもこれらの演習科目をおろそかにしないようにしてください。

1号館 1階

各設備のフロアマップは冊子版をご確認ください。

1号館 2階

各設備のフロアマップは冊子版をご確認ください。



注意事項 端末室使用上の注意

端末室は勉学のための公共スペースです。したがって、次のようなことはしてはいけません。違反行為があった場合は、利用停止処分を受けることがあります。

- 室内で飲食をしてはいけません。
- 勉学以外の目的で使用してはいけません（例えばゲーム）。
- 大声で話をしてはいけません。
- 荷物などで場所取りをしてはいけません。
- 勝手にソフトウェアをインストールしたり、インストールされているソフトウェアを持ち出ししたりすることはできません。
- 入退室のためには学生証が必要な場合があります。

グループワークや作業のための 部屋の利用について

11ページに述べたように、ネットワーク情報学部では、グループで行う演習や課題(グループワーク)が多く課されます。また、単にコンピュータを利用するだけでなく、ホワイトボードを利用して議論したり、工作などの作業をすることもあります。そのような目的のために1号館3階、4階には、学部専用の部屋が下

の図のように用意されています。1号館4階のディスカッションスペース前のホワイトボードあるいは各部屋の入口には、利用のルールなどのお知らせが掲示されます。ルールやモラルをきちんと守りながら、積極的に利用してください。

1号館 3階



各設備のフロアマップは冊子版をご確認ください。



1号館 4階



各設備のフロアマップは冊子版をご確認ください。



注意事項

1号館3・4階使用上の注意

- 勉学のための公共スペースです。次のことに気をつけて使いましょう。
- 後片づけをきちんとし、次の人たちが気持ちよく使えるようにしましょう。
 - 掲示物をよく確認しましょう。
 - 勉学以外の目的で使用してはいけません。
 - 他の学生の邪魔となるような大声で話をしてはいけません。
 - 荷物などで場所取りをしてはいけません。
 - 入退室のためには、学生証が必要です。

Fablab IKUTAの紹介

1号館1階Fablab IKUTAには、精度の高いものづくりをサポートするために、以下のデジタルファブ리케이션機材(デジタルデータを利用した工作機械)が設置されています。いずれの

機材も講習会を受講することによって使用できます。講習会の日程は逐次directでお知らせします。

- レーザーカッター 2台
- 3Dプリンタ 6台
- カッティングマシン 3台
- 3D切削機 1台

使用ルール

- 取扱いに注意が必要な機材のため、講習会を受講済みのネットワーク情報学部生のみ使用できます。
- 設備予約システム「RESERVA(レゼルバ)」から予約の上、1号館2階受付で記名して使用してください。
RESERVA <https://reserva.be/negaku>
- 予約できる時間は機材により異なりますので、RESERVAを確認して時間厳守で使用してください。
- 機材に不具合が生じた場合には絶対に放置せず、速やかに2階受付スタッフに伝えてください。
- 使用後に出了ゴミなどは放置せず、周囲を含めて清掃してください。

レーザーカッター

Aiデータを用いて、紙、木材、アクリル、ゴムなどの素材をカット、彫刻することができます。



カッティングマシン

Aiデータを用いて、紙、布をカットすることができます。



3Dプリンタ

3Dモデリングデータから、簡易的な三次元(3D)モデルを印刷することができます。



3D切削機

3Dモデリングデータから、木材、モデリングワックスなどの素材を切削、彫刻することができます。



資料

専修大学の科目ナンバリング	71
転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目一覧(2023(令和5)年度入学者用)	73
専門科目一覧(2023(令和5)年度入学者用)	74
【外国人留学生】転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目一覧(2023(令和5)年度入学者用)	76
専修大学履修規程	77
専修大学定期試験規程(抄)	79
定期試験における不正行為者処分規程(抄)	81
専修大学ネットワーク情報学部学期末卒業に関する取扱内規	82
ネットワーク情報学部学部長賞の取扱いに関する要領	82
専修大学奨学生規程(抄)	83
専修大学卒業延期の取扱いに関する内規	85
カリキュラムポリシー, アドミッションポリシー	86

専修大学の科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組みのことです。専修大学では科目ナンバリングを、6桁のアルファベットと数字で構成される「コースコード」で表すこととし、2019年度から全ての学部で導入しました。コースコードを用いることで、学びたい分野で開講されている科目とそのレベルを参照することができます。学びたい科目の詳細な授業内容は

シラバスで確認することができますので、みなさんの興味関心を最大限に活かした、より体系的な履修計画を立てることができます。

なお、コースコードはシラバスに揭示されるほか、成績証明書(和文・英文)および二種複合証明書に記載されます。コースコードは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものと付されます。

1 「科目ナンバリング」の意義

みなさんが、履修する授業科目を検討する際に、授業科目の分類、標準的な学修の段階や順序を理解したうえで選択することができます。

また、コードの構成は全学部で統一されているため、全学公開科目のように他学部で開講されている科目を履修する際に、学問分野や科目の水準など、開講科目の位置づけを理解するこ

とが容易になるので、主体的な学修を進めるうえでの助けとなります。

さらに、コースコードは学外にも公開されますので、国際交流協定校で修得した単位を専修大学で認定する際や、在学中・卒業後に海外の大学・大学院に入学する場合の単位互換等を円滑に進められることが期待できます。

2 「コースコード」の構成

「コースコード」は「①分野コード(科目の学問分野を表す)」、「②水準コード(科目のレベル、水準や難易度を表す)」、「③科目開講学部等コード(開講学部や科目区分等)」から構成され、授

業科目毎にコードが付されます。

例えば、転換・導入科目の「専修大学入門ゼミナール」の場合、次のようなコースコードが付されます。



〈各コードの意味〉

①分野コード 専修大学で開講されている科目を111の分野に分け、3桁のアルファベットで表します。

科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード	科目の分野	分野コード
会計学	ACC	ドイツ語	GER	経営学	MAN
アラビア語	ARA	地理学一般	GGR	数理学	MAT
考古学	ARC	情報学一般	GIN	学芸員課程	MCP
芸術一般	ARL	心理学一般	GPS	経営情報学	MNI
地域研究	ARS	ギリシャ語	GRK	金融・ファイナンス	MOF
美学・芸術諸学	ASA	アジア史・アフリカ史	HAA	新領域法学	NFL
文化財科学・博物館学	CAS	ヨーロッパ史・アメリカ史	HEA	自然科学一般	NSC
中国語	CHI	人文学一般	HMN	海外語学研修	OSS
中国文学	CHL	思想史	HOT	財政・公共経済	PPF
民法法学	CIL	史学一般	HSG	哲学一般	PHE
臨床心理学	CLP	人文地理学	HUG	自然地理学	PHG
商学	CME	人間情報学	HUI	計算基盤	POI
キャリア科目	CRE	人体病理学	HUP	政治学	POL
刑事法学	CRL	情報通信技術	ICT	精神神経科学	PSS
文化人類学・民俗学	CUA	国際開発問題	IDG	公法学	PUL
発達心理学	DEP	融合領域科目	IDS	地誌学	REG
デザイン学	DES	国際経済政策	IEP	宗教学	RES
経済史	ECH	国際法学	ILA	ロシア語	RUS
経済政策	ECP	インドネシア語	IND	社会科学一般	SCS
経済統計	ECS	国際関係論	INR	ゼミナール	SEM
理論経済学	ECT	情報システム	INS	空間情報科学	SIS
教育心理学	EDP	イタリア語	ITL	学校司書課程	SLP
教育工学	EDT	日本文化	JAC	特別支援教育	SNE
教育学	EDU	日本文学	JAL	社会学	SOC
英語一般	ENG	日本語教育	JLE	社会情報学	SOI
英語学	ENL	日本語学	JLI	社会法学	SOL
経済学・政治経済学	EPE	日本史	JPH	社会心理学	SOP
環境政策・環境社会システム	EPS	日本語	JPN	特殊講義	SPL
英語 読む・聴く	ERL	ジャーナリズム	JRN	スペイン語	SPN
英語 話す・書く	ESW	コリア語	KOR	スポーツ科学	SPS
倫理学	ETH	ラテン語	LAT	社会システム工学	SSE
実験心理学	EXP	司書課程	LCP	統計科学	STS
美術史	FAH	図書館情報学・人文社会情報学	LHS	SWP科目	SWP
外国語教育	FLE	英米・英語圏文学	LIE	教職課程	TCP
フランス語	FRE	文学一般	LIG	卒業論文・卒業研究	THE
基礎法学	FUL	言語学	LIN	司書教諭課程	TLP
ジェンダー	GDE	論理学	LOG	世界の言語と文化・言語文化研究	WLC

②水準コード それぞれの科目の学士課程4年間における位置づけ(水準)に基づいて、1桁の数字で表します。科目の配当年次とは異なりますので、高年次(3・4年次)に水準の低い科目を履修することも、低年次(1・2年次)に高い水準の科目を履修することもあります。

水準コード	学修段階
0	転換教育および導入教育を目的とした科目
1	学問分野の初級レベル、入門的位置づけの科目(主に大学1年次を想定したレベル)
2	学問分野の中級レベル、基礎的位置づけの科目(主に大学2年次を想定したレベル)
3	学問分野の上級レベル、発展的・応用的位置づけの科目(主に大学3・4年次を想定したレベル)
4	学士課程で学修する最高水準の科目(主に4年次を想定したレベル)

③開講学部等コード 科目を開講している学部等を2桁の数字で表します。

科目開講学部等コード	科目開講学部等	科目開講学部等コード	科目開講学部等
01	転換・導入, 教養, 外国語科目	14	商学部
02	資格課程科目	15	文学部
03	SWP科目	16	ネットワーク情報学部
11	経済学部	17	人間科学部
12	法学部	18	国際コミュニケーション学部
13	経営学部		

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科 転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目一覧 (2023(令和5)年度 入学者用)

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は, 単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

区分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業要件単位	備考	
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	卒業要件単位6単位を超えて修得した単位は, 自由選択修得要件単位に算入されます。	
	キャリア基礎科目	キャリア入門			2		
基礎自然科学	あなたと自然科学				2	6	
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1)			2		
人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史の視点	歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学 倫理学	論理学入門 ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代		4	教養科目と外国語科目の卒業要件単位16単位を超えて修得した単位は, 自由選択修得要件単位に算入されます。 テーマ科目は, 科目名の括弧内に示す表記が異なれば, それぞれ履修することができます (同一年度での複数履修も可能)。	
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済	地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 社会科学論 社会思想 教育学入門	子どもと社会の教育学 マーケティングベーシックス 企業と会計	2		
自然科学系科目	自然科学実験演習 1 自然科学実験演習 2 (4)	生物科学 3a 生物科学 3b 宇宙地球科学 1a 宇宙地球科学 1b 宇宙地球科学 2a 生物科学 2b	化学 1a 化学 1b 化学 2a 化学 2b 物理科学 1a 物理科学 1b	物理学 2a 物理学 2b 数理科学 1a 数理科学 1b 数理科学 2a 数理科学 2b	数理科学 3a 数理科学 3b 科学論 1a 科学論 1b 科学論 2a 科学論 2b	2	アドバンススポーツは, スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ, 履修することができません。
	融合領域科目	学際科目 1 学際科目 2 学際科目 3 学際科目 4	学際科目 1 学際科目 2 学際科目 3 学際科目 4	学際科目 5 学際科目 6 学際科目 7 学際科目 8	学際科目 9 学際科目 10 学際科目 11 (4) 学際科目 12 (4)		アドバンススポーツは, 種目にかかわらず, 複数履修することができます。
テーマ科目							
新領域科目 1 新領域科目 2		新領域科目 3 新領域科目 4	新領域科目 5				
キャリア科目 1 キャリア科目 2							
教養テーマゼミナール 1 (4) 教養テーマゼミナール論文		教養テーマゼミナール 2 (4)	教養テーマゼミナール 3 (4)				
保健体育系科目	アドバンススポーツ スポーツ論 (健康と生涯スポーツ) スポーツ論 (オリンピックとスポーツ) スポーツ論 (スポーツコーチング)	アドバンススポーツ スポーツ論 (スポーツライフデザイン論) スポーツ論 (人類とスポーツ) スポーツ論 (トレーニング科学)					
英語		Basics of English (SW) 2a (1) Basics of English (SW) 2b (1) または Intermediate English (SW) 2a (1) Intermediate English (SW) 2b (1) General English (1)			2	General English は, 英語「D群」の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・b は, 各科目4単位まで修得することができます。	
	English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)		16		
	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b				
英語以外の外国語	ドイツ語初級 1a (1) ドイツ語初級 1b (1) ドイツ語初級 2a (1) ドイツ語初級 2b (1) フランス語初級 1a (1) フランス語初級 1b (1) フランス語初級 2a (1) フランス語初級 2b (1)	中国語初級 1a (1) 中国語初級 1b (1) 中国語初級 2a (1) 中国語初級 2b (1) スペイン語初級 1a (1) スペイン語初級 1b (1) スペイン語初級 2a (1) スペイン語初級 2b (1)	ロシア語初級 1a (1) ロシア語初級 1b (1) ロシア語初級 2a (1) ロシア語初級 2b (1) インドネシア語初級 1a (1) インドネシア語初級 1b (1) インドネシア語初級 2a (1) インドネシア語初級 2b (1)	コリア語初級 1a (1) コリア語初級 1b (1) コリア語初級 2a (1) コリア語初級 2b (1)		「導入」の科目を履修する場合, 初めて履修する年度では, 同一言語の初級 1a・b と初級 2a・b の4科目4単位をセットで履修しなければなりません。 「導入」の科目は, 同一言語の科目をすべて (4科目4単位) 履修している, あるいは修得している場合, 他の言語を履修することはできません。 「基礎」の各科目は, 2単位まで修得することができます。ただし, 同一年度に同一科目を履修することはできません。 「応用」の各科目は, 同一年度に2単位, 年度を超えてさらに2単位履修することができます。合計4単位まで修得することができます。 選択 1a・b を履修するためには, 英語以外の外国語「導入」から同一言語の初級 1a・b と初級 2a・b をすべて (4科目4単位) 修得していなければなりません。 選択 1a・b を履修する場合には, 「導入」で4科目4単位を修得した言語とは異なる言語から, 同一言語の選択 1a・b をセットで履修してください。	
	ドイツ語中級 1a (1) ドイツ語中級 1b (1) ドイツ語中級 2a (1) ドイツ語中級 2b (1) フランス語中級 1a (1) フランス語中級 1b (1) フランス語中級 2a (1) フランス語中級 2b (1)	中国語中級 1a (1) 中国語中級 1b (1) 中国語中級 2a (1) 中国語中級 2b (1) スペイン語中級 1a (1) スペイン語中級 1b (1) スペイン語中級 2a (1) スペイン語中級 2b (1)	ロシア語中級 1a (1) ロシア語中級 1b (1) ロシア語中級 2a (1) ロシア語中級 2b (1) インドネシア語中級 1a (1) インドネシア語中級 1b (1) インドネシア語中級 2a (1) インドネシア語中級 2b (1)	コリア語中級 1a (1) コリア語中級 1b (1) コリア語中級 2a (1) コリア語中級 2b (1)			
	ドイツ語上級 1a (1) ドイツ語上級 1b (1) フランス語上級 1a (1) フランス語上級 1b (1) 中国語上級 1a (1) 中国語上級 1b (1) スペイン語上級 1a (1) スペイン語上級 1b (1)	中国語上級 1a (1) 中国語上級 1b (1) 中国語上級 2a (1) 中国語上級 2b (1) インドネシア語上級 1a (1) インドネシア語上級 1b (1) インドネシア語上級 2a (1) インドネシア語上級 2b (1)	ロシア語上級 1a (1) ロシア語上級 1b (1) インドネシア語上級 1a (1) インドネシア語上級 1b (1) コリア語上級 1a (1) コリア語上級 1b (1)				
	選択ドイツ語 1a (1) 選択ドイツ語 1b (1) 選択フランス語 1a (1) 選択フランス語 1b (1) 選択中国語 1a (1) 選択中国語 1b (1) 選択スペイン語 1a (1) 選択スペイン語 1b (1)	選択ドイツ語 1a (1) 選択ドイツ語 1b (1) 選択フランス語 1a (1) 選択フランス語 1b (1) 選択中国語 1a (1) 選択中国語 1b (1) 選択スペイン語 1a (1) 選択スペイン語 1b (1)	選択ロシア語 1a (1) 選択ロシア語 1b (1) 選択アラビア語 1a (1) 選択アラビア語 1b (1) 選択イタリア語 1a (1) 選択イタリア語 1b (1)				
	世界の言語と文化 (ドイツ語) 世界の言語と文化 (フランス語)	世界の言語と文化 (中国語) 世界の言語と文化 (スペイン語)	世界の言語と文化 (ロシア語) 世界の言語と文化 (インドネシア語)	世界の言語と文化 (コリア語)			
		言語文化研究 (ヨーロッパ) 1 言語文化研究 (ヨーロッパ) 2	言語文化研究 (アジア) 1 言語文化研究 (アジア) 2	言語文化研究 (アメリカ)			
	海外語学短期研修 1 (外国語) 海外語学短期研修 2 (外国語)						
	海外語学中期研修 1 (外国語) 海外語学中期研修 2 (外国語) 海外語学中期研修 3 (外国語)	海外語学中期研修 1 (外国語) 海外語学中期研修 2 (外国語) 海外語学中期研修 3 (外国語)	海外語学中期研修 4 (外国語) 海外語学中期研修 5 (外国語) 海外語学中期研修 6 (外国語)	海外語学中期研修 7 (外国語) 海外語学中期研修 8 (外国語)			
	海外語学研修						

自由選択修得要件単位	a. 卒業要件単位数を超えた以下の科目 ① 転換・導入科目 ② 教養科目, 外国語科目 ③ 専門科目 * 卒業要件単位数を超えた選択必修科目の単位は選択科目の単位に算入され, さらに卒業要件単位数を超えた選択科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。 b. 全学公開科目 c. 資格課程科目 * 資格課程科目については, 当該課程の学修ガイドブックを参照してください。	26
------------	--	----

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科 (Sコース) 専門科目一覧 (2023(令和5)年度 入学者用)

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は, 単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

区分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業要件単位	備考
共通必修	情報と社会 リテラシー演習 コンピュータとネットワーク ネットワーク情報総論 1 ネットワーク情報総論 2 デジタルデータ基礎 情報表現演習 情報分析基礎 情報分析演習 入門プログラミング				26	情報キャリアデザイン プロジェクト (4)
	基礎演習 S (4)			修了能力認定 S (1)	5	
選択必修科目	数理系基礎科目	プログラミングと数理 数値リテラシー 線形代数 基礎解析			4	超過修得単位は, 専門選択科目の単位に算入されます。
	応用演習		応用演習 (ネットワークシステム) (4) : 応用演習 (データサイエンス) (4) :		4	
	高度演習		情報数理演習 1 情報数理演習 2 データサイエンス演習 1 コンピュータサイエンス演習 2	データサイエンス演習 2 コンピュータサイエンス演習 1 コンピュータサイエンス演習 2	4	
	コース別		アルゴリズムとデータ構造 1 アルゴリズムとデータ構造 2 幾何学概論	情報数学 1 情報数学 2 データ解析 1 データ解析 2	6	
選択科目	必修	Web プログラミング 情報英語入門			27	超過修得単位は, 自由選択修得要件単位に算入されます。
	情報英語基礎 国際研修 1 (1) 国際研修 2 (1) 国際研修 3 (1)	国際研修 4 (1) 国際研修 5 (1) 国際研修 6 (1)	ITスキル実習 1 (1) ITスキル実習 2 (1) ITスキル実習 3 (1)	ITスキル実習 4 (1) ITスキル実習 5 (1) ITスキル実習 6 (1)		
	企業研修 アニメーション インターネット情報システム 映像演習応用 映像演習基礎 映像表現 応用プログラミング 1 応用プログラミング 2 応用プログラミング 3 応用プログラミング 4 オブジェクト指向技術 オペレーティングシステム 会計システム (管理会計) 会計システム (財務会計) 環境防災論 企業情報システム 教育とメディア グラフィックデザイン 経営学入門 1 経営学入門 2 経営分析 経済のモデル (マクロ経済学) 経済のモデル (ミクロ経済学) ゲームの理論 コミュニティ開発論 コンテンツ産業論 サービス情報システム	財務諸表論 システムモデリング 質的調査法 シミュレーション 社会調査法 情報英語発展 (情報技術 1) 情報英語発展 (情報技術 2) 情報英語発展 (情報技術 3) 情報英語発展 (情報社会 1) 情報英語発展 (情報社会 2) 情報英語発展 (情報社会 3) 情報システム開発概論 情報デザイン 情報と法 情報リスク管理 情報理論 数学セミナー 数値計画法 戦略のデザイン 地域とメディア データ通信 データベース 動的モデル 認知科学 ネットワークコミュニケーション ネットワークとマーケティング	パソコンアーキテクチャ ビジネスゲーム ビジネスプロセスデザイン ファイナンスプランニング フィジカルコンピューティング フィジカルコンピューティング開発論 プロジェクト実施技法 マーケティング メディアコンテツツ制作 メディア表現技法 メディア論 モデル分析 ユーザインタフェース UNIX 特殊演習 特殊講義 寄付講座			
	Web デザイン 応用確率統計 学習環境のデザイン 計算理論 情報システム管理	政策科学 データマイニング プロジェクトマネジメント 分散情報システム				
	テーマ実習 1 (1) テーマ実習 2 (1)	テーマ実習 3 (1) テーマ実習 4 (1)	卒業演習 1 卒業演習 2 テーマ実習 5 (1) テーマ実習 6 (1)			
	基礎演習 D (4) 応用演習 (コンテツツデザイン) (4) 応用演習 (メディアコミュニケーション) (4) 応用演習 (フィジカルコンピューティング) (4) 応用演習 (IT ビジネス) (4)	フィールド演習				
	年間履修上限単位数	44	40	38	48	

●2年次への進級条件:	以下の指定科目から22単位以上修得していること。 転換・導入科目 専修大学入門ゼミナール (2単位), あなたと自然科学 (2単位), スポーツリテラシー (1単位), スポーツウェルネス (1単位) 専門科目 必修科目 (10科目 20単位), 選択必修科目の数理系基礎科目 (4科目 8単位の中から2単位のみ充当), Web プログラミング (2単位), 情報英語入門 (2単位)	卒業要件単位	124
●プロジェクト履修の条件:	基礎演習または応用演習のうち, 1科目以上単位を修得していること。		
●卒業見込証明書発行の条件:	3年次終了時に86単位以上修得していること。 ただし, 発行条件を満たしていない場合でも前年度 GPA が 2.0 以上であれば窓口での申請をもって発行ができる。		

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科(Dコース) 専門科目一覧 (2023(令和5)年度 入学者用)

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考			
共通必修	情報と社会 リテラシー演習 コンピュータとネットワーク ネットワーク情報総論1 ネットワーク情報総論2 デジタルデータ基礎 情報表現演習 情報分析基礎 情報分析演習 入門プログラミング		情報キャリアデザイン プロジェクト (4)		26				
		基礎演習D (4)	フィールド演習						
コース必修				修了能力認定D (1)	7				
選択必修科目	数理系基礎科目 プログラミングと数理 数理リテラシー 線形代数 基礎解析				2	超過修得単位は、専門選択科目の単位に算入されます。			
	応用演習	応用演習(コンテンツデザイン) (4) 応用演習(メディアコミュニケーション) (4) 応用演習(デジタルコンピューティング) (4) 応用演習(ITビジネス) (4)			4				
	コース別	オブジェクト指向技術 企業情報システム 教育とメディア グラフィックデザイン 経営分析	コンテンツ産業論 情報システム開発概論 情報デザイン 認知科学 ネットワークコミュニケーション	ネットワークとマーケティング フィジカルコンピューティング 地域とメディア ユーザインタフェース			10		
選択科目	必修	Webプログラミング 情報英語入門				76	超過修得単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。		
	情報英語基礎	国際研修4 (1) 国際研修5 (1) 国際研修6 (1)	ITスキル実習1 (1) ITスキル実習2 (1) ITスキル実習3 (1)	ITスキル実習4 (1) ITスキル実習5 (1) ITスキル実習6 (1)					
		企業研修 アニメーション アルゴリズムとデータ構造1 アルゴリズムとデータ構造2 インターネット情報システム 映像演習応用 映像演習基礎 映像表現 応用プログラミング1 応用プログラミング2 応用プログラミング3 応用プログラミング4 オペレーティングシステム 会計システム(管理会計) 会計システム(財務会計) 環境防災論 幾何学概論 経営学入門1 経営学入門2 経済のモデル(マクロ経済学) 経済のモデル(ミクロ経済学) ゲームの理論 コミュニティ開発論	サービス情報システム 財務諸表論 システムモデリング 質的調査法 シミュレーション 社会調査法 情報英語発展(情報技術1) 情報英語発展(情報技術2) 情報英語発展(情報技術3) 情報英語発展(情報社会1) 情報英語発展(情報社会2) 情報英語発展(情報社会3) 情報数学1 情報数学2 情報と法 情報リスク管理 情報理論 数学セミナー 数理計画法 戦略のデザイン データ解析1 データ解析2	データ通信 データベース 動的モデル パソコンアーキテクチャ ビジネスゲーム ビジネスプロセスデザイン ファイナンスプランニング フィジカルコンピューティング開発論 プロジェクト実施技法 マーケティング メディアコンテンツ制作 メディア表現技法 メディア論 モデル分析 UNIX 特殊演習 特殊講義 寄付講座					
	Webデザイン 応用確率統計 学習環境のデザイン 計算理論 情報システム管理	政策科学 データマイニング プロジェクトマネジメント 分散情報システム							
	テーマ実習1 (1) テーマ実習2 (1)	テーマ実習3 (1) テーマ実習4 (1)	卒業演習1 卒業演習2 テーマ実習5 (1) テーマ実習6 (1)						
	基礎演習S (4) 応用演習(ネットワークシステム) (4) 応用演習(データサイエンス) (4)								
		情報数理演習1 情報数理演習2 データサイエンス演習1 データサイエンス演習2 コンピュータサイエンス演習1 コンピュータサイエンス演習2							
	年間履修上限単位数	44	40	38	48				

- 2年次への進級条件: 以下の指定科目から22単位以上修得していること。
 転換・導入科目 専修大学入門セミナー(2単位), あなたと自然科学(2単位), スポーツリテラシー(1単位),
 スポーツウェルネス(1単位)
 専門科目 必修科目(10科目20単位), 選択必修科目の数理系基礎科目(4科目8単位の中から2単位のみ充当),
 Webプログラミング(2単位), 情報英語入門(2単位)

- プロジェクト履修の条件: 基礎演習または応用演習のうち、1科目以上単位を修得していること。
- 卒業見込証明書発行の条件: 3年次終了時に86単位以上修得していること。
 ただし、発行条件を満たしていない場合でも前年度GPAが2.0以上であれば窓口での申請をもって発行ができる。

卒業要件単位	124
--------	-----

【外国人留学生】ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科 転換・導入科目, 教養科目, 外国語科目一覧 (2023(令和5)年度 入学者用)

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考					
転換・導入科目	専修大学入門科目 キャリア基礎科目 基礎自然科学 保健体育基礎科目	専修大学入門セミナー キャリア入門 あなたと自然科学 スポーツリテラシー (1) スポーツウェルネス (1)			2	6	卒業要件単位6単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。				
	留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2			4						
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化 日本の文学 世界の文学 文学と現代世界 英語圏文学への招待 歴史の視点	歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学 倫理学	論理学入門 ことばと論理 芸術学入門 異文化理解の人類学 ジャーナリズムと現代		4	卒業要件単位12単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 テーマ科目は、科目名の括弧内に示す表記が異なれば、それぞれ履修することができます(同一年度での複数履修も可能)。				
	社会科学基礎科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 政治の世界 経済と社会 現代の経済	地理学への招待 社会学入門 現代の社会学 社会科学論 社会思想 教育学入門	子どもと社会の教育学 マーケティングベーシック 企業と会計		2	教養テーマゼミナール論文は、教養テーマゼミナールの単位を修得し、次年度以降に同一教員の教養テーマゼミナールを履修する場合に作成(履修)することができます。				
	自然科学系科目	自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 (4) 生物科学1a 生物科学1b	生物科学2a 生物科学2b 生物科学3a 生物科学3b	宇宙地球科学1a 宇宙地球科学1b 宇宙地球科学2a 宇宙地球科学2b	化学1a 化学1b 化学2a 化学2b	物理学1a 物理学1b 物理学2a 物理学2b	数理科学1a 数理科学1b 数理科学2a 数理科学2b	科学論2a 科学論2b	2	12	アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することができます。 アドバンストスポーツは、種目にかかわらず、複数履修することができます。
	融合領域科目		学際科目1 学際科目2 学際科目3 学際科目4	学際科目5 学際科目6 学際科目7 学際科目8	学際科目9 学際科目10 学際科目11 (4) 学際科目12 (4)						
			テーマ科目 新領域科目1 新領域科目2 キャリア科目1 キャリア科目2	新領域科目3 新領域科目4	新領域科目5						
	保健体育系科目										
			アドバンストスポーツ スポーツ論(健康と生涯スポーツ) スポーツ論(オリンピックとスポーツ) スポーツ論(スポーツコーチング)								
	外国語科目	日本語	日本語文章理解1 (1) 日本語文章理解2 (1) 日本語音声理解1 (1) 日本語音声理解2 (1) 日本語口頭表現1 (1) 日本語口頭表現2 (1) 日本語文章表現1 (1) 日本語文章表現2 (1)					8	卒業要件単位8単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。 前期「1」と後期「2」はセットで履修しますが、前期「1」を単位修得できない場合は後期「2」の履修ができません。		
				応用日本語理解1 (1) 応用日本語理解2 (1) 応用日本語表現1 (1) 応用日本語表現2 (1)					1年次必修の日本語科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。各科目3単位まで履修することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。		
		母語以外の外国語		Basics of English (SW) 2a (1) Basics of English (SW) 2b (1) または Intermediate English (SW) 2a (1) Intermediate English (SW) 2b (1)							
English Speaking a (1) English Speaking b (1)			Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)					English Speaking a-b, Advanced English a-b, English Language and Cultures a-bは、各科目4単位まで履修することができます。		
導入			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b				「導入」の科目を履修する場合、初めて履修する年度では、同一言語の初級1a・bと初級2a・bの4科目4単位をセットで履修しなければなりません。		
		ドイツ語初級1a (1) ドイツ語初級1b (1) ドイツ語初級2a (1) ドイツ語初級2b (1) フランス語初級1a (1) フランス語初級1b (1) フランス語初級2a (1) フランス語初級2b (1)	中国語初級1a (1) 中国語初級1b (1) 中国語初級2a (1) 中国語初級2b (1) スペイン語初級1a (1) スペイン語初級1b (1) スペイン語初級2a (1) スペイン語初級2b (1)	ロシア語初級1a (1) ロシア語初級1b (1) ロシア語初級2a (1) ロシア語初級2b (1) インドネシア語初級1a (1) インドネシア語初級1b (1) インドネシア語初級2a (1) インドネシア語初級2b (1)	コリア語初級1a (1) コリア語初級1b (1) コリア語初級2a (1) コリア語初級2b (1)				「導入」の科目は、同一言語の科目をすべて(4科目4単位)履修している、あるいは修得している場合、他の言語を履修することはできません。		
基礎			ドイツ語中級1a (1) ドイツ語中級1b (1) ドイツ語中級2a (1) ドイツ語中級2b (1) フランス語中級1a (1) フランス語中級1b (1) フランス語中級2a (1) フランス語中級2b (1)	中国語中級1a (1) 中国語中級1b (1) 中国語中級2a (1) 中国語中級2b (1) スペイン語中級1a (1) スペイン語中級1b (1) スペイン語中級2a (1) スペイン語中級2b (1)	ロシア語中級1a (1) ロシア語中級1b (1) ロシア語中級2a (1) ロシア語中級2b (1) インドネシア語中級1a (1) インドネシア語中級1b (1) インドネシア語中級2a (1) インドネシア語中級2b (1)	コリア語中級1a (1) コリア語中級1b (1) コリア語中級2a (1) コリア語中級2b (1)			「基礎」の各科目は、2単位まで修得することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。		
			ドイツ語上級1a (1) ドイツ語上級1b (1) フランス語上級1a (1) フランス語上級1b (1) 中国語上級1a (1) 中国語上級1b (1) スペイン語上級1a (1) スペイン語上級1b (1)						「応用」の各科目は、同一年度に2単位、年度を越えてさらに2単位履修することができます。合計4単位まで履修することができます。		
応用											
			選択ドイツ語1a (1) 選択ドイツ語1b (1) 選択フランス語1a (1) 選択フランス語1b (1) 選択中国語1a (1) 選択中国語1b (1) 選択スペイン語1a (1) 選択スペイン語1b (1)		選択コリア語1a (1) 選択コリア語1b (1) 選択アラビア語1a (1) 選択アラビア語1b (1) 選択イタリア語1a (1) 選択イタリア語1b (1)				選択1a・bを履修するためには、母語以外の外国語「導入」から同一言語の初級1a・bと初級2a・bをすべて(4科目4単位)修得していなければなりません。 選択1a・bを履修する場合には、「導入」で4科目4単位を修得した言語とは異なる言語から、同一言語の選択1a・bをセットで履修してください。		
海外語学研修	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(コリア語)				海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定されます。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定されます。			
	海外語学短期研修1(外国語) 海外語学短期研修2(外国語)	海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)							

自由選択修得要件単位	a. 卒業要件単位数を超えた以下の科目 ① 転換・導入科目 ② 教養科目, 外国語科目 ③ 専門科目 * 卒業要件単位数を超えた選択必修科目の単位は選択科目の単位に算入され、さらに卒業要件単位数を超えた選択科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。 b. 全学公開科目 c. 資格課程科目 * 資格課程科目については、当該課程の学修ガイドブックを参照してください。	22
------------	--	----

専修大学履修規程

平成30年4月1日制定
改正平成31年4月1日
令和2年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第4条第3項の規定に基づき、専修大学(以下「本学」という。)における授業科目並びにその単位数及び履修方法並びに修得すべき単位に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の種類)

第2条 授業科目の種類は、次のとおりとする。

- (1) 必修科目 当該学部・学科の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要とする授業科目をいう。
- (2) 選択科目 学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する授業科目(選択必修科目及び必修科目を含む。)をいう。
- (3) 自由科目 履修することはできるが、修得単位を卒業要件に算入しない授業科目をいう。

(履修方法)

第3条 各学部・学科並びに教職課程、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程及び学芸員課程(以下「資格課程」という。)において履修する授業科目は、入学した年次に適用される学修ガイドブック及びこの規程に従い、学生本人が決定するものとする。

(単位数及び授業科目)

第4条 各学部・学科の卒業要件単位数及び授業科目並びに資格課程の取得等要件単位数及び授業科目は、別表第1から別表第3まで及び前条の学修ガイドブックに定めるところによる。

(履修登録)

第5条 授業科目の履修登録は、前期及び通年の授業科目(後期の授業科目のうち、前期に履修登録することが必要な授業科目を含む。)にあっては前期履修科目登録期間、後期の授業科目にあっては後期履修科目登録期間に行うものとする。

(スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録)

第6条 スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「SWP学修ガイドブック」に定めるところによる。

(資格課程科目の履修登録)

第7条 教職課程科目は、教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料、実習料等を納入することにより履修することができる。

- 2 司書課程科目及び司書教諭課程科目は、司書又は司書教諭の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 3 学校司書課程科目は、学校司書課程を修了しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 4 学芸員課程科目は、学芸員の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料及び実習料を納入することにより履修することができる。
- 5 資格課程科目の履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」に定めるところによる。

(履修上限単位数)

第8条 1年間に履修登録することができる履修上限単位数は、各学部・学科が別に定めるところによる。

- 2 履修上限単位数には、再履修科目の単位を含めるものとし、次に掲げる単位を含めないものとする。
 - (1) 海外語学短期研修に参加したことにより認定される単位
 - (2) 資格試験により認定される単位
 - (3) 専修大学科目等履修生(付属高等学校生徒)として履修し、本学に入学した後、単位認定される授業科目の単位
 - (4) 資格課程科目として履修する授業科目の単位

(履修登録することができない授業科目)

第9条 教養科目及び外国語科目の授業科目のうち、外国人留学生のために開講する授業科目は、外国人留学生以外の学生は、履修登録することができない。

- 2 前項の授業科目を履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(再度の履修登録の禁止)

第10条 既に単位を修得した授業科目と同一名称の授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、再び履修登録することができない。

- 2 再び履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(重複した履修登録の禁止)

第11条 履修する年度において、同一の履修期間、曜日及び時限に行われる授業科目は、重複して履修登録してはならない。

- 2 重複して履修登録した場合は、いずれの授業科目の履修登録も無効とする。

(履修登録の修正、削除、追加及び変更)

第12条 履修登録の修正、削除、追加及び変更は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、履修科目登録期間及び履修修正期間に限り認めるものとする。ただし、当該期間以外の期間であっても特別の理由があると認められる場合は、履修登録の修正、削除、追加及び変更を認めることができる。

- 2 あらかじめ履修クラスが指定されている授業科目については、原則として、履修クラスの変更を認めないものとする。
- 3 履修者制限が行われた授業科目で、一旦履修を許可されたものについては、原則として、その削除及び変更を認めないものとする。

(履修の中止)

第13条 履修を継続する意思のない授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、所定の履修中止申請期間に、所定の手続を行うことにより履修を中止することができる。

- 2 履修の中止については、次に定めるところにより取り扱うものとする。

- (1) 履修を中止した授業科目は、授業への出席、定期試験の受験及び単位の修得をすることができない。
- (2) 履修を中止した授業科目の単位は、当該年度の履修上限単位数に含める。
- (3) 履修を中止した授業科目の単位数分の新たな履修登録は認めない。
- (4) 履修を中止した授業科目は、GPA及び平均点に算入しない。
- (5) 履修の中止により当該年度に履修登録した授業科目が無くなる場合は、履修中止申請を認めない。
- (6) 履修中止申請は、取り下げることができない。

(単位の修得)

第14条 履修登録を行わない授業科目については、単位を修得することができない。ただし、履修登録を行わない授業科目であっても本学が認定する単位については、この限りでない。

(事務所管)

第15条 この規程に関する事務は、教務部教務課の所管とする。

(規程の改廃)

第16条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の専修大学履修規程の規定は、平成31年度以後の入学者について適用し、平成30年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の専修大学履修規程の規定は、令和2年度以後の入学者について適用し、平成31年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正後の専修大学履修規程の規定は、令和4年度以後の入学者について適用し、令和3年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表第1(第4条関係) 略

別表第2(第4条関係) 略

別表第3(第4条関係) 略

専修大学定期試験規程(抄)

昭和54年7月10日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第17条の規定に基づき実施する試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第1条の2 この規程において「試験」とは、学事暦により期間を定めて実施する定期試験をいう。

(種類)

第2条 試験の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- 1) 前期試験 前期で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- 2) 後期試験 後期で終了する授業科目及び通年で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- 3) 前期追試験 第1号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。
- 4) 後期追試験 第2号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。

(時期)

第3条 試験の実施の時期は、次の各号に定めるとおりとする。
ただし、実施の時期を変更することがある。

- 1) 前期試験 7月～8月
- 2) 後期試験 1月～2月
- 3) 前期追試験 8月
- 4) 後期追試験 2月～3月

(試験方法)

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によるものとする。
ただし、レポートをもってこれに替えることができる。

(試験時間)

第5条 試験時間は、原則として60分とする。

(試験監督)

第6条 省略

(試験委員)

第7条 省略

(受験資格の取得)

第8条 受験資格は、次の各号の所定の手続を完了することにより取得する。

- 1) 履修科目登録の手続
 - 2) 学費の納入手続
 - 3) その他所定の手続
- 2 前項の規定にかかわらず、試験時において休学又は停学中の者は、受験資格を有しない。

(受験資格の喪失)

第9条 次の各号の一に該当する者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、第4号については、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

- 1) 学生証を携帯していない者
 - 2) 試験開始後20分を超えて、遅刻した者
 - 3) 試験監督者の指示に従わない者
 - 4) 試験において不正行為を行った者
- 2 前項第1号に該当する者に対して、当日のみ有効とする臨時学生証による受験を認める。
- 3 臨時学生証の交付を受けようとする者は、当該試験開始時刻までに、一部の試験については教務課窓口、二部の試験については二部事務課窓口申し出なければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、同項の規定による申出をしなかった場合であっても、その者が試験教室において、当該試験開始時刻までに試験監督者に対し、学生証不携帯の旨を申し出たときは、臨時学生証の交付を認めることができる。
- 5 前2項の規定による臨時学生証の交付に当たっては、所定の交付手数料を徴収するものとする。

(受験手続)

第10条 第2条第1号及び第2号による受験者は、試験前に公示する「定期試験実施要領」により、所定の手続を完了しなければならない。

2 第2条第3号及び第4号による受験者は、所定の期日までに追試験受験願及び次の各号に定める試験欠席理由を証明する書類を提出し、受験許可を得なければならない。

- 1) 教育実習 教育実習参加を証明するもの
- 2) 就職試験 就職試験受験を証明するもの
- 3) 業務命令による出張又は超過勤務 所属長による証明書
- 4) 公式試合 公式試合参加を証明するもの
- 5) 天災その他の災害 被災を証明するもの
- 6) 二親等以内の危篤又は死亡 危篤又は死亡を証明するもの
- 7) 本人の病気又は怪我 医師の診断書
- 8) 交通機関の事故 遅延又は事故を証明するもの
- 9) その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項 学部長の承認を得た本人記載の理由書

(成績評価)

第11条 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

2 前項の場合において、成績評価の区分は、90点以上をS、85点以上90点未満をA+、80点以上85点未満をA、75点以上80点未満をB+、70点以上75点未満をB、65点以上70点未満をC+、60点以上65点未満をC、60点未満をFとする。

3 前項の成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、グレード・ポイント・アベレージ(GPA)を算出する。この場合において、グレード・ポイントは、Sを4.0、A+を3.5、Aを3.0、B+を2.5、Bを2.0、C+を1.5、Cを1.0、Fを0.0とする。

(成績発表)

第12条 試験の成績結果は、9月及び3月に本人に通知する。

(受験者の義務)

第13条 受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

- 1) 試験場においては、試験監督者の指示に従うこと。
- 2) 試験開始後20分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得ること。
- 3) 学生証を机上に提示すること。
- 4) 解答にさきだつて、学籍番号及び氏名を記入すること。
- 5) 学籍番号及び氏名の記入は、ペン又はボールペンを使用すること。
- 6) 試験開始後30分以内は、退場しないこと。
- 7) 配付された答案用紙は、必ず提出すること。
- 8) 試験場においては、物品の貸借をしないこと。

(無効答案)

第14条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- 1) 第8条に定める受験資格を有していない者の答案
- 2) 第9条に該当する者の答案
- 3) 学籍番号及び氏名が記入されていない答案
- 4) 不正行為に該当する者の答案
- 5) 授業科目の担当者、曜日又は時限を間違えて受験した者の答案

(不正行為)

第15条 試験における不正行為とは、次の各号の一に該当する場合をいう。

- 1) 代人が受験したとき。(依頼した者・受験した者)
- 2) 答案を交換したとき。

- 3) カンニングペーパーを廻したとき。
- 4) カンニングペーパーを使用したとき。
- 5) 所持品(電子機器を含む。)その他へ事前に書込みをして、それを使用したとき。
- 6) 他人の答案を写したとき。(見た者・見せた者)
- 7) 言語・動作・電子機器等で連絡したとき。(連絡した者・連絡を受けた者)
- 8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品を使用したとき。
- 9) 他人の学生証で受験したとき。(貸した者・借りた者)
- 10) 偽名答案を提出したとき又は氏名を抹消して提出したとき。
- 11) 故意による答案無記名のとき。
- 12) 答案を提出しなかったとき。
- 13) 使用が許可された参考書等の貸借をしたとき。
- 14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認められたとき。

(不正行為の確認)

第16条 試験監督者は、不正行為を発見した場合、その受験者の受験を直ちに中止させ、本人を同行して試験委員に報告するものとする。

- 2 試験委員は、学生部委員の立会いのもとに、不正行為の事実確認を行う。
- 3 試験委員は、不正行為が確認された場合、本人に始末書を提出させ、速やかに当該学部長に報告しなければならない。

(不正行為者の処分)

第17条 不正行為者の処分は、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

(規程の改廃)

第18条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附則

この規程は、昭和54年7月10日から施行する。

(中略)

附則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規程による改正後の第11条の規定は、平成27年度以後の入学者について適用し、平成26年度以前の入学者については、なお従前の例による。

定期試験における不正行為者処分規程（抄）

昭和54年7月10日制定

第1条 この規程は、専修大学定期試験規程第17条の規定に基づき、定期試験（以下「試験」という。）における不正行為者の処分に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 不正行為者の処分は、学部長が行う。

第3条 不正行為者の処分は、次の基準による。

- (1) 代人受験（依頼した者・受験した者）
2カ月の停学処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。
- (2) 答案交換
第1号に同じ
- (3) カンニングペーパー廻し
けん責処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。
- (4) カンニングペーパーの使用
第3号に同じ
- (5) 当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等）
第3号に同じ
- (6) 答案を写す（見た者・見せた者）
第3号に同じ
- (7) 言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者）
第3号に同じ
- (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用
第3号に同じ
- (9) 他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者）
第3号に同じ
- (10) 偽名又は氏名抹消
第3号に同じ
- (11) 故意による無記名
第3号に同じ
- (12) 答案不提出
第3号に同じ
- (13) 使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者）
けん責処分とし、当該受験科目を無効とする。
- (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認められた場合
第1号から第13号に準じて処分する。
2 学部長は、前項の処分について速やかに学長及び教授会に報告しなければならない。

第4条 前条により処分を受けた者が、再度不正行為をした場合は、前条の規定にかかわらず教授会の議を経て2カ月以上1年以下の停学とし、当該不正行為が行われた学期における定期試験実施科目を無効とする。

第5条 試験終了後に不正行為が発覚した場合においても、第3条及び第4条により処分する。

第6条 処分の起算日は、処分決定日とする。

第7条 不正行為者の氏名及び処分は、速やかに掲示し、本人及び保証人に通知する。

第8条 処分事項は、学籍簿に記載するものとする。

第9条 不正行為者が本学奨学生制度による奨学生であるときは、直ちにその資格を失う。

第10条 停学処分中の者は、当該学部長の指導に従わなければならない。

第11条 不正行為者処分に関する事務取扱いは、教務課又は二部事務課が行う。

第12条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

- 1 この規程は、昭和54年7月10日から施行する。
- 2 この規程の制定に伴い「試験における不正行為者処分内規（昭和36年9月12日制定）」、「試験における不正行為者処分内規施行規則（昭和36年9月12日制定）」、「試験における不正行為者処分の特例（昭和37年9月24日制定）」及び「試験における不正行為により処分を受けた者の事後の取扱規程（昭和36年9月12日制定）」は、廃止する。

（中略）

附 則

（施行期日）

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規程の施行前にした不正行為に対する処分については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

専修大学ネットワーク情報学部学期末卒業に関する取扱内規

平成17年4月1日制定

第1条 この内規は、専修大学学則（以下「学則」という。）第18条第3項に基づき、学期末卒業（以下「学期末卒業」という。）に関する取扱いについて定める。

第2条 学期末卒業とは、卒業に必要な所定の単位を修得できず、修業年限を超えて在学する者が、卒業を希望する年度の前期において卒業要件を満たし、所定の学費を納め、かつ、所定の手続を行うことにより卒業することをいう。

第3条 学期末卒業を希望する者は、当該年度の6月30日までに保証人と連署のうえ、学期末卒業願書によって申請しなければならない。

- 2 学期末卒業の許可は、ネットワーク情報学部教授会の議を経て学長が行う。

第4条 学期末卒業を申請した者が申請の取消しをする場合は、当該年度の7月31日までに保証人と連署のうえ、学期末卒業申請取下書によって申請しなければならない。

第5条 学期末卒業の時期は、9月20日とする。

第6条 この内規の改廃は、ネットワーク情報学部教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

ネットワーク情報学部学部長賞の取扱いに関する要領

この要領は、次の事項について、学部としての表彰又は感謝の意を表する「学部長賞」、「学部長奨励賞」に関し必要な事項を定めるものである。

「学部長賞」及び「学部長奨励賞」

学部長賞及び学部長奨励賞は学部学生を対象とし、顕著な活躍をし、信頼性のある外部機関等から相当の評価を獲得し、ネットワーク情報学部の名前を世に広めたことに対し、その功績を称え表彰することができる。

教授会構成員から発議があったものについて、教務委員会で審議し、学部長が表彰の可否を決定する。

○学部長賞

- ・情報学関連の国内外のコンテスト、学会などに参加し、優秀な成績を収めた者
 - ・社会的な活動が学外の機関で表彰あるいは高く評価され、マスコミなどで報道された者
 - ・その他、学部教授会で認められた者
- ※受賞の対象が個人ではなく団体の場合には団体名のみを表彰する

○学部長奨励賞

- ・国内外の難度の高い資格試験等により優秀な成績を収めた者
 - ・学内の機関が行うコンテスト等で賞を受賞したもの
 - ・その他、学部教授会で認められた者
- ※受賞の対象が個人ではなく団体の場合には団体名のみを表彰する

その他

学部内の諸行事での表彰は当該行事を企画する委員会（学生による実行委員会も含む）が独自の賞を設定し、予算等を考慮して表彰を行うことができる

専修大学奨学生規程（抄）

昭和55年2月25日制定

（目 的）

第1条 この規程は、専修大学学則（以下「学則」という。）第39条に基づき、学術研究の奨励と経済援助を行うことにより有為な人材の育成に資することを目的とする。

（奨学生の種類及び資格）

第2条 奨学生の種類及び資格は、次のとおりとする。

- （1）スカラシップ入試奨学生 人物に優れ入学試験の成績が特に優秀であるとともに、本学への入学を強く希望する者であって、スカラシップ入学試験制度により入学を認められたもの
- （2）新入生特別奨学生 次に掲げる入学試験制度により入学が認められた1年次入学者であって、人物に優れ入学試験の成績が特に優秀なもの
ア 帰国生入学試験
イ 外国人留学生入学試験
ウ 公募制推薦入学試験
エ 総合型選抜
- （3）新入生付属推薦奨学生 本学の付属高校推薦入学者であって、人物に優れ出身高校の成績が特に優秀であるとともに、本学への入学を強く希望するもの
- （4）新入生学術奨学生 1年次在学学生であって、人物に優れ勉学に意欲的に取り組み、学部で実施する試験において成績が特に優秀なもの
- （5）学術奨学生 2年次、3年次及び4年次の在学学生であって、人物に優れ勉学に意欲的に取り組み、前年度の学業成績が特に優秀なもの
- （6）自己啓発奨学生 在学学生であって、学術、文芸、スポーツ、自治・社会活動等に明確な目的を有し、その分野で優れた業績を達成し、更に高い目標に挑戦する個人又はその団体
- （7）指定試験奨学生 在学学生であって、公認会計士試験の短答式試験又は最終試験に合格したもの
- （8）利子補給奨学生 在学学生であって、勉学意欲があるにもかかわらず、経済的理由により入学又は修学の継続のために金融機関からの教育ローンを必要とするもの
- （9）家計急変奨学生 在学学生であって、勉学意欲があるにもかかわらず、主たる家計支持者の死亡、失業、長期療養等に基づく経済的困窮により、修学の継続が著しく困難となったもの
- （10）災害見舞奨学生 在学学生であって、当該学生が居住している家屋又は主たる家計支持者が生活の本拠として居住している家屋その他の建造物等が火災、風水害、地震等に被災し、損害を受けたことにより経済的困窮度が高くなったもの
- （11）進学サポート奨学生 次に掲げる学試験制度により本学への入学が認められた首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県及び千葉県をいう。）以外の国内の高等学校又は中等教育学校の出身者であって、学業成績が優秀であるにもかかわらず、経済的な理由により進学が困難であるもの（入学試験前に、本学が進学サポート奨学生の採用候補者として決定した者に限る。）
ア 大学入学共通テスト利用入学試験（前期又は後期）
イ 一般選抜（全国、前期又は後期）

（採用人数及び期間）

第3条 奨学生の採用人数及び採用期間は、別表のとおりとする。

（奨学金）

第4条 奨学生には、奨学金を支給する。

2 支給する奨学金の額並びにその支給時期及び支給

方法は、次のとおりとする。

- （1）スカラシップ入試奨学生 授業料相当額及び施設費相当額とし、入学手続時並びに2年次、3年次及び4年次の学費納入時に支給する。
- （2）新入生特別奨学生 授業料の半額相当額とし、入学手続後並びに2年次及び3年次の学費納入後に一括支給する。
- （3）新入生付属推薦奨学生 授業料の半額相当額とし、入学手続後及び2年次の学費納入後に一括支給する。
- （4）新入生学術奨学生 法学部、文学部及び人間科学部の学生にあっては30万円とし、それ以外の学部の学生にあっては15万円とし、採用時に一括支給する。
- （5）学術奨学生 30万円とし、採用時に一括支給する。
- （6）自己啓発奨学生 個人にあっては20万円を、団体にあっては50万円をそれぞれ限度額とし、活動状況に応じて支給額を定め、採用時に一括支給する。
- （7）指定試験奨学生 公認会計士試験の短答式試験の合格者にあつては10万円とし、最終試験の合格者にあつては30万円とし、それぞれ採用時に一括支給する。
- （8）利子補給奨学生 金融機関の教育ローン適用者に対して、当該年度の12月末日における教育ローンの借入残高又は当該年度の学費（入学金を含む。）の納付額のどちらか低い額に対して大学が定める一定率を乗じて得た額を利子補給分として一括支給する。
- （9）家計急変奨学生 授業料の40%相当額とし、採用時に一括支給する。
- （10）災害見舞奨学生 20万円を限度額とし、採用時に一括支給する。
- （11）進学サポート奨学生 授業料の半額相当額とし、入学手続後並びに2年次、3年次及び4年次の学費納入後に一括支給する。
3 前項第1号の授業料相当額及び施設費相当額は、大学に納めるべき学費のうちからこれらの相当額を免除することによって支給したものとする。

（奨学生の兼有禁止）

第5条 第2条第1号から第5号までに定める奨学生は、これらを2以上兼ねることはできない。

2 第2条第11号に定める進学サポート奨学生は、同条第1号から第3号までに定める奨学生を兼ねることはできない。

（奨学生への出願方法）

第6条 奨学生への出願手続に関し必要な事項は、細則で定める。

（奨学生の選考方法）

第7条 奨学生の選考方法に関し必要な事項は、細則で定める。

（奨学生の採用）

第8条 奨学生の採用は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定めるところによる。

- （1）第2条第1号から第5号までに定める奨学生 学部長会及び教授会の議を経て学長が決定する。
- （2）第2条第6号から第11号までに定める奨学生 学部長会の議を経て学長が決定する。

（奨学生資格の喪失）

第9条 奨学生が次の各号の一に該当し、奨学生として不適格と認められた場合は、奨学生としての資格を失うものとし、奨学金の支給を打ち切る。

- （1）休学し、若しくは退学したとき、又は除籍されたとき。
- （2）学則第67条により懲戒処分を受けたとき。
- （3）学業成績が著しく低下したとき、又は学生としての素

行が好ましくないとき。

- （4）願書等の提出書類に虚偽の記載をしたとき。
- （5）正当な理由なく奨学生として必要な手続を怠ったとき。

（奨学金の返還）

第10条 前条により奨学生の資格を失った者については、既に支給した奨学金の一部又は全部を返還させることができる。

（奨学生に対する指導）

第11条 第2条第1号及び第2号に定める奨学生に対し適切な指導と助言を行うため、指導教員を置く。

2 指導教員は、当該年度末に指導経過及び奨学生の修学状況を、所属学部長を経て学長に報告する。

（事務所管）

第12条 この規程に関する事務は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める所管とする。

- （1）スカラシップ入試奨学生、新入生特別奨学生、新入生付属推薦奨学生、新入生学術奨学生及び学術奨学生 教務部教務課
- （2）自己啓発奨学生、指定試験奨学生、利子補給奨学生、家計急変奨学生、災害見舞奨学生及び進学サポート奨学生 学生厚生部学生生活課

（規程の改廃）

第13条 この規程の改廃は、学部長会の議を経て学長が行う。ただし、奨学生の種類、採用人数、採用期間又は支給する奨学金の額のいずれかを変更する場合は、理事会の承認を必要とする。

附 則

- 1 この規程は、昭和55年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行と同時に、昭和47年4月1日制定の「専修大学奨学生規程」及び「専修大学奨学生規程細則」は、廃止する。
- 3 この規程の施行に伴う移行措置として、昭和55年度における一部3年次生及び4年次生からも第2種奨学生を採用することができるものとする。その場合の採用員数は1学年1学部各3名以内とし、採用期間は3年次生での採用者は2年間、また4年次生での採用者は1年間とする。

附 則

この規程は、昭和56年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年9月1日から施行する。ただし、第2条第1号から第4号までに定める奨学生については、平成15年度採用の奨学生から適用する。

附 則

この規程は、平成15年度採用の奨学生から適用する。

附 則

この規程は、平成17年11月28日から施行する。ただし、第2条第1号及び第3号に定める奨学生については、平成18年度入学者から適用する。

附 則

（施行期日）

1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規程による改正後の専修大学奨学生規程の規定は、平成20年度以後に採用する奨学生について適用し、平成19年度以前に採用された奨学生については、なお従前の例による。

附 則

（施行期日）

1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規程による改正後の専修大学奨学生規程の規定は、平成21年度以後に採用する奨学生について適用し、平成20年度以前に採用された奨学生については、なお従前の例による。

附 則

（施行期日）

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規程による改正後の専修大学奨学生規程の規定は、平成22年度以後に採用する奨学生について適用し、平成21年度以前に採用された奨学生については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

（施行期日）

1 この規程は、平成27年6月11日から施行する。

（経過措置）

2 この規程による改正後の第4条第2項第1号及び別表（スカラシップ入試奨学生の項に限る。）の規定は、平成28年度以後に採用するスカラシップ入試奨学生について適用し、平成27年度以前に採用されたスカラシップ入試奨学生については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成28年5月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

（施行期日）

1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 改正後の別表（進学サポート奨学生の項に限る。）の規定は、令和4年度以後に採用する進学サポート奨学生について適用し、令和3年度以前に採用された進学サポート奨学生については、なお従前の例による。

附 則

（施行期日）

専修大学卒業延期の取扱いに関する内規

平成23年12月1日制定

(趣旨)

第1条 この内規は、専修大学学則(以下「学則」という。)第18条第5項の規定に基づき、専修大学(以下「本学」という。)における卒業延期の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この内規において「卒業延期」とは、学則第18条第1項に規定する卒業の要件を満たした者が、同条第4項に規定する特別の事情により本学の許可を受けて卒業を延期し、引き続きその学部で修学を継続することをいう。

2 前項の「特別の事情」とは、キャリアアップ、資格取得等を目指すことをいう。

(卒業延期の期間)

第3条 卒業延期により在学することができる期間は、1年を限度とする。

(申請及び許可)

第4条 卒業延期を希望する者は、本学所定の申請書(以下「申請書」という。)により申請をし、本学の許可を受けなければならない。

(申請をすることができる者)

第5条 前条の申請(以下「申請」という。)をすることができる者は、次の各号の条件(以下「申請の条件」という。)の全てを満たす者とする。

- 1 卒業延期の目的が第2条の特別の事情に適合するものであること。
- 2 4年次以上の者で卒業見込みのものであること。
- 3 卒業延期の年度が学則第8条に規定する在学年限内にあること。
- 4 学費の滞納がないこと。

(申請期限及び申請方法)

第6条 申請は、卒業見込み年度の1月末日までに教務部教務課(二部在學生にあっては、二部事務部二部事務課とする。以下「教務課・二部事務課」という。)に、申請書を本人が直接その窓口へ提出することにより行わなければならない。

(申請に対する審査等)

第7条 教務課・二部事務課は、申請書の提出があった場合においては、遅滞なく、その申請が適格な申請かどうかの審査を行わなければならない。

2 前項の「適格な申請」とは、次の各号のいずれにも該当する申請をいう。

- 1 申請の条件を満たしていること。
- 2 申請書の記載事項に不備がないこと。
- 3 教務課・二部事務課は、第1項の審査に基づき、その申請が第5条第1号の条件を満たしていない場合又は申請書の記載事項に不備がある場合は、申請者に対しその説明をし、修正又は補正を求めることができる。

(受理及び不受理)

第8条 適格な申請は、受理し、不適格な申請及び第6条の期限を過ぎた申請は、受理しない。

2 教務課・二部事務課は、前条第1項の審査に基づき、当該学部長の承認を得て、前項に規定する申

請の受理又は不受理を決定し、不受理の場合は、遅滞なく、その旨を申請者に文書で通知する。

(卒業延期の許可)

第9条 卒業延期の許可は、学部長会及び各学部教授会の議を経て学長が行う。

(卒業延期の許可又は不許可の通知)

第10条 卒業延期の許可又は不許可の通知は、本人及び保証人に対し、卒業発表日以後、遅滞なく行うものとする。

(卒業延期の手続)

第11条 卒業延期の許可を受けた者は、別に指定する期限までに、次に掲げる卒業延期のための手続を完了しなければならない。

- 1 卒業延期年度の学費を一括納入すること。
- 2 卒業延期年度の履修登録科目の仮申請をすること。
- 3 卒業延期に関する本人と保証人とは連署した誓約書を提出すること。

(卒業延期の辞退)

第12条 卒業延期の許可を受けた者がこれを辞退しようとするときは、別に指定する期限までに、本人と保証人とは連署した本学所定の卒業延期辞退願を教務課・二部事務課に提出しなければならない。

(辞退とみなす者)

第13条 第11条の卒業延期の手続を期限までに完了しない者は、卒業延期を辞退したものとみなす。

(卒業延期をした場合の卒業の時期)

第14条 卒業延期をした場合の卒業の時期は、次項及び第3項に規定する場合を除き、その年度の3月22日とする。ただし、学期末卒業制度がある学部において、その許可を受けた場合には、学期末に卒業することができる。

2 卒業延期期間中に、本人が死亡した場合は、その死亡の日を卒業の日として学位記を交付する。

3 卒業延期期間中に、第17条第2項ただし書の規定により卒業延期の許可を取り消された場合にあっては、前年度の卒業とする。

(履修科目の登録)

第15条 卒業延期の許可を受けた者は、20単位を限度として、履修科目の登録をしなければならない。

(卒業延期期間中の学費)

第16条 卒業延期期間中の学費は、別に定める。

(学則適用の特例)

第17条 卒業延期期間中の者(以下「卒業延期者」という。)は、学則第27条の休学及び学則第31条の退学の願い出をすることができない。

2 学則第67条の規定は、卒業延期者についても適用する。ただし、けん責処分の場合は、併せて卒業延期の許可の取消しをすることがある。

(内規の改廃)

第18条 この内規の改廃は、学部長会の議を経て学長が行う。

附 則

この内規は、平成23年12月1日から施行する。

カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー

CP カリキュラム・ポリシー

(1) 学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

- 情報学に関する知識と、それを扱う原理・機構・人間、社会への応用について広範に学修できるようにするため、様々な専門科目を用意します。
- 学位授与の方針(DP)に示した能力の最も基礎的なレベルを確実に修得できるよう、転換・導入科目、教養科目、専門科目の科目コード水準1の科目の中から、必修科目又は選択必修科目群として指定し、主として1年次に配置します。
- 2年次以降では、DPに示した能力の達成水準に応じて2つのコース(Sコース、Dコース)を用意し、コースに応じて専門科目の必修科目及び選択必修科目群を配置します。その能力をさらに発展できるよう、教養科目、外国語科目、専門科目において様々な選択科目を用意します。

(2) 学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

- 学位授与の方針(DP)に示した能力を段階的に修得できるようにするため、2年次への進級要件を設けるとともに、上位水準の科目の履修する際の前提科目を必要に応じて指定します。
- 将来の目標と対応付けした「プログラム」と「副プログラム」を用意し、学修のガイドラインとします。各「プログラム」で指定した必修科目・選択必修科目から所定要件を修得した学生には、卒業時に各プログラムの修了を認定します。
- カリキュラム体系を考慮しながら学生が履修できるよう、学修ガイドブックにカリキュラムチャートを示し、それを利用して履修指導を行います。
- 授業時間外に十分学習できるように、学年毎に適切に履修上限単位を設定します。

(3) 教育内容・方法

- 必修科目「専修大学入門ゼミナール」では、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる技能や能力(読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力)を身につけます。必修科目「あなたと自然科学」では、身近な自然現象や最先端の科学に対して関心を持ち、諸問題について自ら考える力を身につけます。必修科目「スポーツリテラシー」「スポーツウェルネス」では、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。
- 人文科学基礎科目、社会科学基礎科目、自然科学系科目では、それぞれの分野が対象とする問題や知見、用語を知り、社会の諸問題について、自ら考え、解決に取り組む力を身につけます。融合領域科目では、同じテーマであっても複数の領域からのアプローチが存在することを理解し、多面的な思考能力や幅広い視野から社会の諸問題の解決に取り組む力を身につけます。保健体育科目では、転換・導入科目の保健体育基礎科目の修得を踏まえ、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。文理を幅広く学修するよう、人文科学基礎科目から4単位、社会科学基礎科目から2単位、自然科学系科目から2単位を選択必修とします。
- 外国語科目では、語彙・文法などについて基礎的かつ体系的に理解し、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組む力を身につけます。基礎科目の修得後は、より高度なレベルの運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組む力を身につけます。

- 専門科目では、情報学に関する知識と、それを扱う原理・機構・人間、社会への応用について広範に学修した上で、アクティブラーニングを通して、汎用的能力、知識体系に基づく思考と知の創出、態度・志向性に関するDPに示す能力を修得できるようにします。
- 「汎用的能力に関するDP」に示す能力を全員が修得できるよう、1年次に少人数クラス編成の必修演習科目(「専修大学入門ゼミナール」、「リテラシー演習」、「情報表現演習」、「入門プログラミング」、「情報分析演習」)を用意し、共通教材によるチームティーチングを行います。英語による言語運用能力の到達状況を確認するツールとして、英語外部試験を活用します。
- 「知識体系に基づく思考と知の創出に関するDP」に示す能力を全員が段階的に修得できるようにするため、2年次と3年次に問題解決型の演習科目(コース毎の基礎演習、プログラム毎の応用演習、コース毎の3年次演習、プロジェクト)を必修または選択必修として用意します。その中で、他者の問題を、チームで協働して解決するプロセスを進めていく機会を積極的に用意します。
- 「態度・志向性に関するDP」に関する教育方法として、チームで協働して学習する機会、社会人・卒業生・上級生などの講演や対話の機会を用意します。
- DPに示した能力に応じて自らの学修状況を振り返り説明できるよう、学生たちに学修ポートフォリオを作成させます。達成状況を評価し、主体的に学修計画を立てられるよう、ルーブリックを用意します。
- 学部専用のコンピュータルーム及びグループ学習・作業用スペース、オンラインでの学習支援環境の整備、自習用ノートパソコンの配布など、時間外学習のための環境を用意します。
- 高校までの学習状況に応じて、入学前及び入学後に学習指導を行います。

AP アドミッション・ポリシー

ネットワーク情報学部は、卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、能力、態度を備えた人を求めます。

- 1 大学入学前の様々な教育課程での学修内容を幅広く修得している人。
- 2 高等学校の教科情報等、大学入学前の学習を通じて、情報学に関心を持ち、情報学を活用して社会の問題に取り組む意欲がある人。
- 3 情報・データリテラシー及び論理的思考の基礎となる、算数・数学の基本的な知識・技能を身に付けている人。
- 4 自己や他者の思考・判断を理解し、表現することができる、日本語によるコミュニケーション能力を身に付けている人。
- 5 自己とは異なる思考・価値観を有する他者を含むグループでの学習活動に、主体的に参画する態度を有している人。
- 6 様々な活動を通じて得た経験や能力を活かし、自らを主体的に成長させる意志を有している人。
- 7 大学入学後に必要となる基本的な知識・技能が若干不足している場合でも、入学までの準備期間を活用し自らの不足を補うことができる人。
また、そのために、入学者選抜においては、以下のような評価方法を用います。

各種一般選抜においては、筆記試験により1、3、4を評価します。各種学校推薦型選抜においては、調査書、志望理由書、記述式総合問題、面接により1～7を総合的に評価します。総合型選抜においては、調査書、志望理由書、自己推薦書、記述式総合問題、面接により1～7、特に2、3、4、6、7を重視して評価します。

友達だけでなく 先輩とも仲良くなろう

ネットワーク情報学部で重要なのは人付き合いです。課題がたくさん出るので、教えてあげたり教えてもらったり、協力してこなすために友達や仲の良い先輩をたくさん作りましょう！特に上級生との関わりは重要です。上級生と関わることで、2年次以降に控えている演習の内容を具体的に聞くことができたり、やっておくべきことを知ることができたりします。また、ここでできた縁はグループワークやプロジェクト演習、さらには就職活動できっと役に立ちます。

4年後に振り返ってみて、満足できるような大学生活を送ってください。

(2017年卒業)

社会で通用する強みを作るために

ありふれた言葉ですが、大学入学は通過点でありゴールではありません。数年後には否が応でも社会に放り出されます。そんなとき、皆さんの支えになるのは大学生生活で培った能力や人脈です。

勉強がすべてではありません。先生や仲間と研究に没頭してください。ときには先輩や後輩、友達と騒ぐのも良いでしょう。もしかしたら社会人とともに何かを成し遂げることがあるかもしれません。そんな一つひとつのかけがえのない経験は「自信」となって卒業後の自分に降りかかってきます。そして不思議なことに、その輝きは日を追うごとに増していきます。

皆さんの偉大なる第一歩がその先に繋がることを祈っています。

(2021年卒業)

得意なことを伸ばす 好きなことを突き詰める

卒業後、さまざまな大学、学部、学科の人たちと会話する中で得たこの学部の一番の特徴は、得意なこと、好きなことに集中できることだと感じています。やりたいことにフォーカスし続けられる時間を過ごすことは、人生を通して大きな財産になります。ただし、経験を財産にするためには主体性が何より重要です。やりたいことがある人は、それに邁進できる環境があります。やりたいことがない人でも、やりたいことを見つける努力をさせてもらえるのが、この学部の魅力です。私は社会人になってから、この学部の学習環境のありがたみを痛感しました。ぜひ恵まれた学習環境を活かして、日々大きな目標に向かってチャレンジしてほしいと思います。

(2016年卒業)

異なる分野の人と どんどん出会おう

ネットワーク情報学部には、幅広い分野の学生が集まります。同じ分野の学生とライバル関係になって高め合うのも良いですし、異なる分野の学生と交流し、幅広い知識を手に入れるのも良いと思います。私の周りにも色々なタイプの学生がいました。授業はグループワークが多く、違うプログラムの学生と意見をぶつけ合うのは、とても楽しいものでした。学生起案プロジェクトにうちこみ、発表前日の夜は、みんなで徹夜しました。今となってはいい思い出です。異なる分野の人と集まって何かを作る。こういった経験は、社会に出たらものすごく必要になります。僕は今空間演出エンジニアとして働いていますが、日々それを実感しています。それらを学生のうちに経験できるのがネットワーク情報学部の良さです。

(2018年卒業)

2023 ネットワーク情報学部学修ガイドブック

2023(令和5)年4月1日

編集・発行 専修大学ネットワーク情報学部

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-7132(ダイヤルイン)

